

Published in 2008 by the Center for Peace Education, Miriam College, Quezon City, Philippines

With support from:

Samuel Rubin Foundation

The reproduction of this book or any part of it is permitted provided due acknowledgement is given to the Center for Peace Education.

Inquiries regarding orders should be addressed to the Center for Peace Education, Miriam College, Quezon City, Philippines by using this email address: cpe@mc.edu.ph.

日本語翻訳: ERIC 国際理解教育センター 翻訳チーム

前書き

いま、平和教育は、急激に成長しつつある、緊急の分野であるのですが、この本は、なんとというありがたい貢献であることでしょうか。平和はわたしたちの DNA に刻まれているわけではありません。平和を育てるには、平和を教育する必要があります。これはわたしたちのすばらしい先人、ベティ・リアドン教授が言った言葉です。

あなたが平和教育の分野で働いていると言うと、他人は「なんとすばらしい」と感動するかもしれませんが、現実にはそれがどんなことかわかっているとは思えません。The Global Campaign for Peace Education は、1999 年 5 月のハーグ平和アピールの会議から生まれました。わたしたちは次のような定義に合意しました。

「平和教育というのは、人権、ジェンダー平等、軍縮、社会的経済的正義、非暴力、持続可能な開発、国際法のための教育であり、また、これらの課題についての教育である。」 for and about

後に、このリストに、「伝統的な平和の実践」を付け加えることにしました。そして、わたしたちは、平和教育の方法論に、クリティカル・シンキング、省察と参加を含むべきだということに同意しました。これらは、平和教育として大事なだけでなく、すべてのレベルの教育におけるすべての教授法において、取り込まれ、統合されているべき要素でもあります。

この本は、具体的な平和教育実践の他のテキストと同じく、学校教育であれ、社会教育であれ、教育に従事するあらゆる教育者たちが、平和というのは包括的な概念であり、かつ状態であることを理解し、それは伝統的な講義とノート取りとテストという枠組みでは学ぶことができないのだということを理解することを助けてくれることでしょうか。実際、平和教育というのは、多くの教科に取り入れることが可能なのです。わたしたちが、そしてわたしたちの家庭が、地球が、生き延びようと思うのであれば、平和の文化が、現在の暴力の文化に置き換えられなければなりません。暴力に寛容であるということは、寛容であるという域を越えています。

すべての世紀を通じて、もっとも暴力的であったのは 20 世紀だと言われることを、わたしたちは心密かに期待しています。なぜなら、人びとは戦争に倦み疲れ、貴重な資源が人間の安全保障のために活用されないことに対して怒っているからこそ、21 世紀は非暴力的なものへと超形成されていくだろうと思うからです。にもかかわらず、二つの大きな戦争がこの新しい世紀の始まりであったとは、本当に想像するのも難しいほどです。ひとつは戦闘員と市民に対する大惨事、死、破壊、拷問、強姦、トラウマと、もう一つは土地、海、空に対する恒久的な環境破壊です。

世界は、これ以上、戦争のコストを担うことはできません。人びとは、戦争難民、環境難民が激増し続ける中、貧困がまるで流行病のように広がり、教育、保健衛生、職業訓練などのニーズのためのお金が、武器を買うためにかすめ取られていくことに、もう我慢できないのです。

教育省の大臣たちが、彼らの責任は、未来の世代が読み書き算を学ぶだけでなく、彼らが、社会の、思慮深く、また責任あるメンバーになるように、また、お金のためにではなく、変化のために

3 前書き

学業を修めようとするように準備することを含んでいることを理解した時、わたしたちは、平和の文化を創造することに貢献できたと、胸をなでおろすことでしょう。

そのことに貢献してくれたロレッタとジャスミンに感謝します。そして、このすばらしい本を GCPE に捧げくれたことを。この本は以下から入手可能です。

[www. \(world without war\) haguepeace.org](http://www.(world without war) haguepeace.org).

CORA WEISS

President, Hague Appeal for Peace

Former President, International Peace Bureau

序

人類は、新しい、よりよい明日をつくるために、過去から学ばなければならない。ひとつの学ばれたことは、暴力でおおわれつくした歴史が繰り返されることを阻止するために、平和、非暴力、寛容、人権、民主主義の価値観がすべての女性男性、老若、子どもも大人も、学ばなければならない。

いま以上に、平和の文化を築くのにふさわしい時はないでしょう。わたしたちの社会的責任の大きさがいまより大きいときもないでしょう。また地球上に盤石の平和を確実にするための任務が大きいときもないでしょう。今日の世界は、問題とチャレンジが相互につながりあっているのです。

これらの大きさだけを考えても、わたしたちすべてが、協力しなければならないことは明らかです。地球規模での平和と和解に向けた努力は、信頼と対話と、協力に根ざした協同的アプローチによってのみ、成功するでしょう。そのために、わたしたちは、平和の文化のための大連合を、特に、若い人たちの前向きな参加と関与によって、成し遂げなければなりません。

今日の世界は、平和の文化が新たな人間性、内的な一体感と外在する多様性に基づいた新たなグローバルな文明の要素と見られるべきです。平和の文化が花開くとき、わたしたちは、力から理性へ、対立と暴力から対話と平和へと移行するための必要条件となる心構えを作り出せるのです。平和の文化は、安定した、進歩的な、繁栄した世界を、すべての人のためのものとして、支援する基盤を提供するでしょう。

1999年の国連総会でThe Declaration and Programme of Action on Culture of Peace [UNGA resolution number 53/243]が締結されたことは、大きな流れでした。九ヶ月にもわたる交渉を、議長としてリードできたことは、本当に誇らしいことでした。結果、歴史的な、ものごとの規範となる文書を採択することができました。この文書は、国連の歴史の中でも重要な伝説として、何代にもわたって語り継がれることでしょう。

国連の仕事は、幅広く市民社会から支持されることで、引き立てられます。わたしたちは、いま、国連The International Decade for a Culture of Peace and Non Violence for the Children of the Worldの最終年にいます。この2001年から2010年の10年間、平和の文化のためのグローバルな運動を導いてきました。

わたしたちの文明が、時々、人間の欲望、独善、野望、ゼノフォビアのよろさにとどろきに屈服してきたかをふりかえる時、平和の文化の必要性は、特に今日の世界において、明白です。わたしたちは、極悪な行動が、公共的な益のためというベールをかぶってなされてきたこ

5 序

とを見てきました。実際には、それらの行動は、一握りの権力者、それが、経済におけるものであれ、政治であれ、軍事であれ、宗教であれ、彼らのためになされたにもかかわらず、です。

平和の文化を推進するためにもっとも重要な方法は、平和教育です。平和教育は、世界中で、すべての社会で、国々で、平和の文化を創造していくための必須要素として受け入れられるべきでしょう。わたしたちの時代の複雑さを思う時、いまの若い人たちは、根源的に異質な教育を受ける必要があるでしょう。

「戦争を賛美するのではなく、平和、非暴力、国際協力を 教える教育」です。

彼らは、彼ら自身のために、そして彼らが生きる世界のために、平和を創造し、育てるためのスキルと知識を必要とします。

マリア・モンテッソーリが、とても適切に言語化したように、暴力的な生き方を望む人は、若い人びとをそこに向けて準備します。しかし、平和を望む人びとは、子どもや青少年を無視し、平和に向けて彼らを組織化することができませんでした。しかし、ここ数十年の暴力と人間の不安全の歴史は、今日の教育において、平和に暮らす技が子どもたちに教えられるべきだという認識が広がって来ています。その結果、多くの国々において、平和の概念、態度、価値観、社会的スキルは 学校のカリキュラムに取り入れられるようになってきました。学校における認知的な学習に過剰な強調が置かれていることで、子どもたちの感情的、社会的、道徳的、人間的な側面の発達が犠牲になってきたことは、手痛い間違いであったことが、ますます認識されるようになってきました。

平和教育は、単に、対立と対立の解決について学ぶことを意味しません。平和教育は、若い人びとが彼らのアイデアを表現し、生活の中から、地域から、そして社会から暴力を根絶 するために互いに協力し、参加することを含んでいます。平和教育は、それぞれの国のニーズや希望、社会的文化的文脈に沿ってなされることが、より効果的です。普遍的な人間の価値とともに、文化的精神的価値によってより豊かに実践されるべきです。グローバルなつながりも必要です。そのような学習は、意図した、持続的な、システムティックな平和教育の努力なしで、達成することはできません。そのような平和教育こそが平和の文化へ導くのです。

UNICEF では、平和教育は「子どもたち、若い人たち、大人たちに、対立と暴力を、表面的に明らかなものも、構造的なものも含めて、予防する；対立を平和的に解決する；平和のためになる条件を創造する；ことができるようになるための知識とスキルと態度と価値観を向上させるプロセスである。その対立とは、人間関係、グループ間、国家間、国際的なレベルのものすべてを含むものである」と簡潔に定義しています。

若い世代が世界についての学び、その多様性を理解することが、いま以上に重要になったこ

とはありません。子どもたちが、互いに非攻撃的に関わる方法を見つけるように教育する任務は、第一義的に重要です。すべての教育機関が、生徒を、充実した人生のために準備するだけでなく、世界の責任ある、生産的な市民であることを準備する機会を提供する必要があります。そのために、教育者は、一人ひとりの、そしてすべての若い心の中に、平和の文化を耕す包括的でエンパリングなカリキュラムを導入する必要があります。

The Global Campaign for Peace Education「平和教育のためのグローバル・キャンペーン」は、この目的のために、意味ある貢献をなし続けるでしょうし、わたしたちも引き続きそれを支援していくものです。

人びとは、平和教育を小さい子どもの時から行うべきかどうか、よく問います。わたしは、どちらかという、すべての年代に平和教育は適切だと信じています。教え方が、年齢にあわせられればよいだけです。年少の子どもにとっては、視聴覚教材や相互交流のある教え方がよいでしょう。最初は、堅苦しくない学級のあり方が、助けになるでしょう。そのようなやり方は、現状の社会科や総合的な知識を扱う授業について、適用できるでしょう。

学校の子どもたちに多様性に対する寛容、理解、尊重という価値を教えることは、世界のさまざまな国々、地理、歴史、文化に触れさせることで、可能です。適切なレベルであるならば、カリキュラムには人権、国際法を支配しているルール、国連憲章、わたしたちのグローバルな組織の目標、軍縮、持続可能な開発、その他の平和の問題を含めるべきです。若い人たちがこのプロセスに参加することは、必須です。彼らが、わたしたちの社会から暴力を根絶やしにするために互いにどのように協力するか、について、彼ら自身のアイデアをインプットすることは、十分配慮されなければなりません。

生徒が問題を理解する能力を高めることに加えて、平和教育は、生徒をエンパワーすることを、特に目標としています。彼らの人生において、そして、彼らの生きているあらゆる相互作用において、平和と非暴力の担い手となるために、彼らのレベルにふさわしいエンパワメントです。

暴力の無い世界という目標を、さらなるコミットメントと貢献と、終わりなき情熱をもって、追求してまいりましょう。この本は、世界の人びとにとって、わたしたちすべての、平和と非暴力への生来的な権利を確保するために、力強いツールとなるでしょう。

AMBASSADOR ANWARUL K. CHOWDHURY

Former Under-Secretary-General and High Representative of the UN

平和教育： 平和の文化への道

前書き、序

Part I 平和と平和教育についての全体的な理解に向けて

- 第1章 平和と暴力を全的に理解する
- 第2章 超形的教育としての平和教育
- 第3章 平和教育の包括的なスコープ
- 第4章 平和の資源としての信仰とスピリチュアルな伝統

Part II 平和教育の鍵となるテーマ

- 第5章 人間の尊厳を掲げて
- 第6章 偏見を正し、寛容を築く
- 第7章 非暴力をすすめる
- 第8章 戦争システムに挑む
- 第9章 対立を解決し、超形成する
- 第10章 地球の資源を共有する
- 第11章 地球をケアしよう
- 第12章 内なる平和を修養する

Part III 平和を実践する学級、教員、学校

- 第13章 平和的な学級を創り出す
- 第14章 平和教育における教授-学習法と方略
- 第15章 平和教育者の資質
- 第16章 学校全体で取り組む

結論： 未来へのビジョン

第1章 平和と暴力を全的に理解する

A Holistic Understanding of Peace and Violence

平和についての新しい考え方は、今日、とても重要です。わたしたちが、状態としての平和、そして一つの価値としての平和をどう理解し、どう見るかの力を、低く見ることはできません。というのも、わたしたちのアイデアが、わたしたちの感情と行動を形作り、わたしたちがどう生きるか、他の人とどう関係するかを規定するからです。このためフリチョフ・カプラ Fritjof Capra は『ターニングポイント』という有名な本で、概念と価値観についての考え方を変えることが、今日の多くの問題を解決するために必要な最初のステップだと論じているのです。

平和についての非宗教的な見方・概念

Secular Views/Concepts of Peace and Violence

平和について書かれたものが示しているのは、平和は戦争や直接的な暴力が不在であることと定義されているということです。この否定的な定義は、1625年に Hugo Grotius によって提示されました。(Dobrosielski, 1987) この簡単な、そしてもっとも広く受け入れられている平和についての理解は、戦争や物理的/直接的暴力の帰結としての死や破壊の不在ということであり、平和研究の初期の出発点として使われたものであったのです。(Thee, 1982)

1966年にもなってやっと、フランスの哲学者レイモンド・アーロン Raymond Aron が、平和を「政治的単位の間暴力的な対抗関係が多少なりとも継続している状態」と狭義に定義しました。他の哲学者同様、彼もまた、平和を戦争やその他の組織だった暴力の直接的な形の不在と定義したのです。

しかしながら、1960年代後半にはそれに対抗する見方が表れ始めました。直接的なものから間接的なものへ、あるいは構造的なものへと、関心が移ったのです。それらは、人びとが、社会的政治的経済的なシステムを通して、社会に組み込まれた暴力によって苦しめられることです。

(Hicks, 1987) 死や破壊を引き起こすのは、戦争と直接的な暴力だけではないということが認識され始めたのです。構造的な暴力もまた、死や苦しみを、そこから由来する条件によって、引き起こします。極端な貧困、飢餓、避けることのできる疾病、マイノリティに対する差別や人権の侵害などです。以上にあげたような条件がある世界は平和も人権も奪われているということが、わかってきたのです。そのような世界は怒りを培い、緊張を高め、武力闘争や戦争につながるのです。

このような関係から、著名な平和論者であり、研究者であるヨハン・ガルトゥング Johan Galtung は、豊かな国々、グループ、個人の富が、国、グループ、個人の必須資源と労働に基盤をおいており、そのために、彼らが生活を収奪されていくことになる場合、構造的な暴力が起こるのだと論じています。(Monez, 1973)

平和と暴力についての全体的な概念に向けて

Toward a Holistic Concept of Peace and Violence

過去何年もの間、平和活動家たちは、この平和についての伝統的なものの見方を変えさせようと努力し続け、「平和とは、戦争の欠如や非暴力のことではない。平和とは、不正義のすべての現れを撲滅することである」ということを認めさせようとしてきました。(Cheng and Kurz, 1998) わたしたちが、本来の平和の文化へ移行しようと思うのなら、平和についての包括的な視野を持つ必要があることは、すでに合意されています。

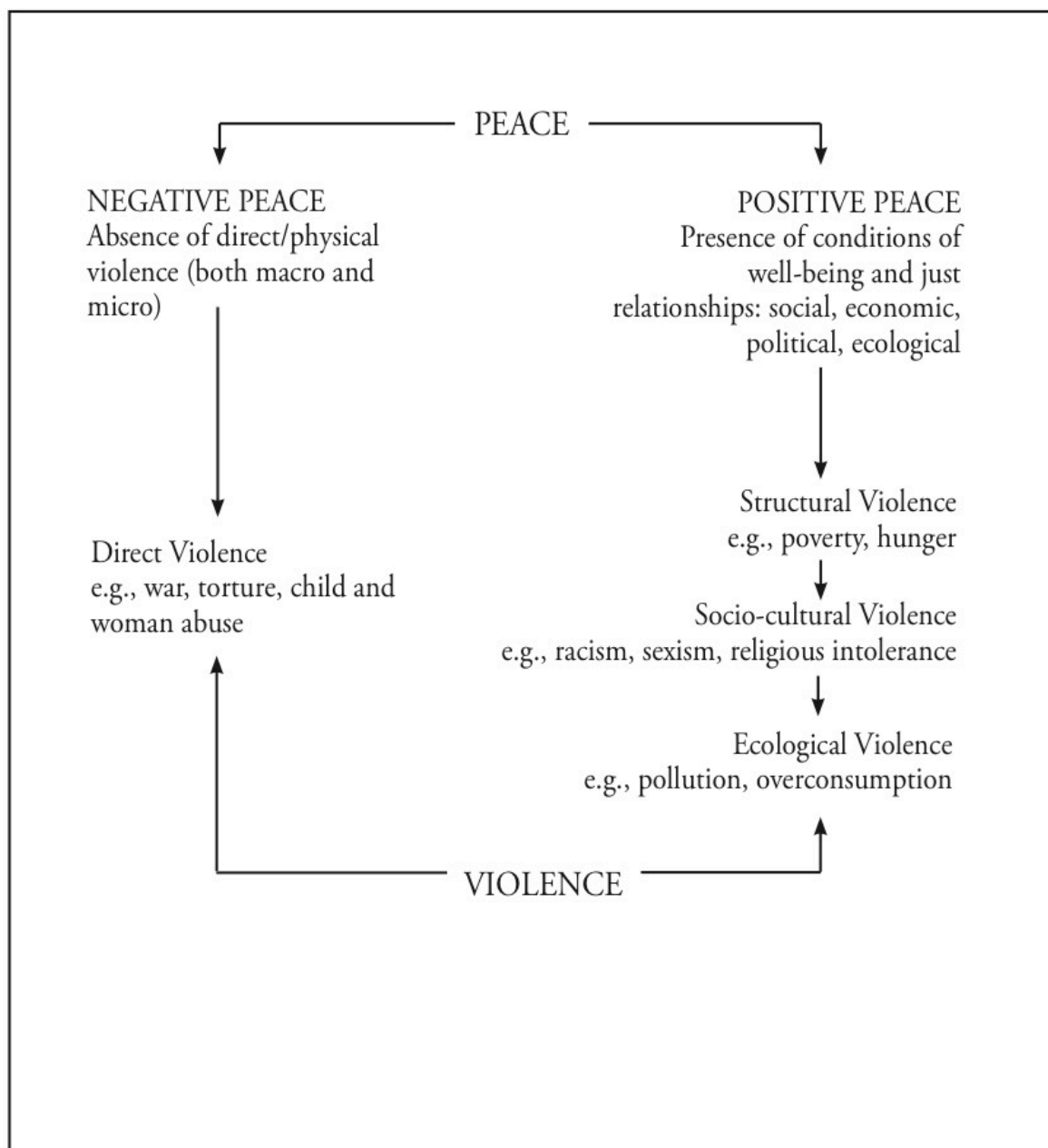
ガルトゥングは、平和は暴力の不在のことであり、その暴力とは個人的あるいは直接的なものだけではなく、構造的で間接的なものも含んでいるのだと説明します。構造的暴力の広がり、富の高度に不均衡な分配と、そのような資源についての意思決定のパワーの不均衡な分配でもあるのです。彼は、平和は個人的/直接的暴力の不在と社会正義の存在の両方であると言います。さらに大胆に言うのであれば、彼は、「暴力の不在」と「社会正義の存在」の方程式を好んで用います。前者は、プラスに定義される条件ではなく、そのため消極的な平和と呼ばれ、後者は、プラスに定義される条件であり、(パワーと資源の平等主義的配分を実現する)積極的な平和と呼ばれています。(Galtung, 1995)

まさに、平和研究者、教育者たちは、平和の概念を二つに分けること、平和というのが、消極的な平和と積極的な平和というアイデアで捉えられるのだということに満足しているように見えます。消極的な平和というのは戦争や物理的/直接的暴力の不在を意味し、積極的な平和というのは、正義と非収奪的關係の存在、そしてまた、対立の根本原因がなくなった人間の生態系的健全さを意味するのです。

上述した非収奪的關係というのは、人間の間だけではなく、人間と自然の間にもあてはまります。自然との平和というのは、「積極的平和」の基盤であると考えられています。(Mische, 1987) それは地球が、究極的にはわたしたちの生存、物理的維持、健康と富の源であり、もしも、自然の再生力が、深刻に傷つけられたら、人間の生き残りを保障することはできないからです。人間の行動は、基本的資源の入手可能性に密接につながっていることを覚えておくべきです。(Barnaby, 1989) 資源が不足し、生活様式や生命そのものが脅かされる時、資源を巡る抗争は激化し、暴力的な対立に発展するでしょう。

下記のダイアグラムは、包括的な平和の概念についてのここまでの議論をまとめたものであり、消極的な平和、積極的な平和のアイデアに対応した暴力のタイプを示しています。

Figure 1: Defining Peace



わたしたちの平和についての理解は、さまざまなレベルの関係を含みます。個人的な平和から始まり、より大きな円へと拡大するのです。

図 1: 平和を定義する

Figure 3: A Typology of Violence

(Adapted from the conceptual map formulated by Toh Swee-Hin and Virginia Cawagas)

Level \ Form of violence	Personal	Interpersonal/Community	National	Global
Direct/Physical	Suicide Drug abuse	Domestic violence Violent Crimes	Civil war Violent crimes Human rights abuses	Conventional war Nuclear war Human rights abuses
Structural/ Economic, Political	Powerlessness	Local inequalities Poverty, Hunger	National inequalities Poverty, Hunger	Global inequalities Poverty, Hunger
Socio-cultural/ Psychological	Alienation Low self-esteem Anxiety	Prejudice/enemy images Cultural domination Racism Sexism Religious intolerance	Prejudice/enemy images Cultural domination Racism Sexism Religious intolerance	Prejudice/enemy images Cultural domination Racism Sexism Religious intolerance
Ecological	Over-consumption	Over-consumption Pollution	Over-consumption Pollution Chemical and Biological warfare Nuclear power radiation	Over-consumption Pollution Chemical and Biological warfare Nuclear power radiation

Birgit Brock-Ume(1989)は、直接的な暴力は、組織的であるか組織的でないかに分類されると付記します。そして間接的な暴力は、戦争のことであり、彼女は、国家あるいは国内で起こる組織立った、集団的な暴力であると描写しています。非組織的暴力は、妻を殴る、強姦、児童虐待、路上での犯罪を含みます。彼女は、間接的暴力は、寿命を縮めるか、QOL=Quality of Life 生きることの質を減じること、経済的構造が機会の不平等を引き起こし、言論の自由、自己実現の洗選択の抑圧につながるといいます。それが間接的暴力の特長なのです。

平和の文化 A Culture of Peace

UNESCO は、「戦争は、人の心に起こるので、平和を守る人のところを建設しなければならない」と前文にいます。ミッションを遂行するために、UNESCO は平和の文化プログラムを開始し、それが地球規模の運動になることを期待しました。平和の文化宣言は、1999 年には国連総会でも受託されるにいたりました。

平和の文化とは何でしょうか？ 宣言(UN, 1998)は「平和の文化は価値観、態度、伝統、行動のモードと生活様式のセットのことであり、次のような側面を持ち、またうながすものです。

- 命とすべての人権の尊重
- いかなる形であれ、暴力を拒否し、あるいは暴力的対立の予防に尽力する。対話と交渉を通じて、できる限りその根本的な原因に取り組む。
- 現在および未来の世代のニーズに応えながら、平等なプロセスへの完全な参加に尽力する。
- 女性と男性の平等な権利と機会をすすめる。
- すべての人の表現、意見、情報の自由の権利を認める。
- 自由、正義、民主主義、寛容、連帯、協力、多義性、文化的多様性、国の間、民族、宗教、文化その他のグループの間、個人の間での対話と相互理解の原則に努力する。

平和の文化に向けたフィリピンの取り組み

A Philippine Framework toward a Culture of Peace

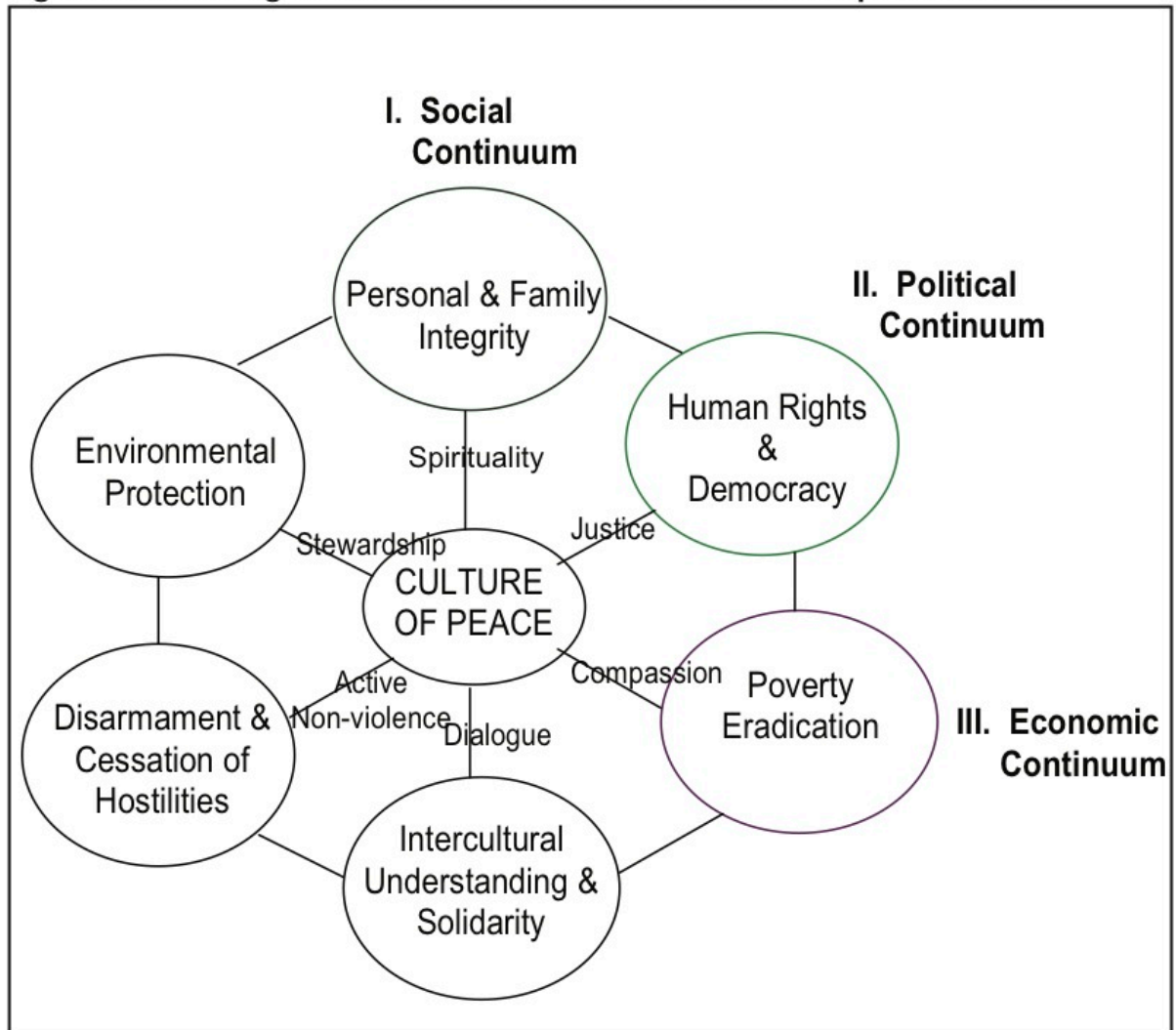
フィリピンにおいては、平和の文化の枠組みは、国内の平和擁護者たちの経験と省察から作り出されました。下記の数字は、この枠組みを図示したもので、ミンダナオの平和擁護者である Antonio J. Ledesma, S.J., Archbishop of Cagayan de Oro (Ledesma, 2007)の著書から引用しています。

図 4: 平和の文化を促進する: 6つの側面と作業的価値

- I. 社会的継続性 個人的親族的統合 スピリチュアリティ
- II. 政治的継続性 人権と民主主義 正義
- III. 経済的継続性 貧困の撲滅 共感

文化間理解と連帯 対話
軍縮と憎悪の停止 積極的な非暴力
環境保護 スチュワードシップ

Figure 4: Promoting a Culture of Peace: Six Dimensions and Operative Values



上記の図では、6つの側面と6つの価値観が示されています。これらの分類ですべてを網羅したとは言えませんが、主要な関心と平和の文化を建設するために必要なものはカバーされています。平和の文化を確立するという目標へと近づくためには、個人的、家族的統合が守られており、推進されることは、絶対に重要なことです。わたし自身を保つこと、家族がともにあることは、彼らを取り巻くさまざまな形での破壊を見るとき、平和の文化の基盤だと言わざるを得ないでしょう。人間の尊厳、根本的な自由、民主的参加、基本的ニーズの充足、経済的平等を尊重することは、この枠組みにおける主要な関心事です。というのも、これらは平和の根っこであるからです。

同様に、文化館の相互理解あるいは受容、「異なる他者」の尊重は、環境の保全と同じように、平和に貢献するでしょう。武装対立がいまも続く脅威である中で、武装した憎悪は、「武器から農地へ」希少な資源を移行すること、人びとの利益を損なうような活動のために、資本をつぎ込むことと同じように、大きな関心事なのです。

これらの側面それぞれに呼応する価値観は、精神性、正義、共感、対話、積極的な非暴力、地球に対する保護と一体感です。これらの価値観は、次の章でさらに詳しく論じていきます。

広義の平和概念を持った文化的伝統

Cultural Traditions with a Broad Concept of Peace

「イレーヌ」というギリシャの概念は、暴力の不在だけでなく、ハーモニーと正義を意味します。同様に、アラビア語の「サラーム」とヘブライ語の「シャローム」は、戦争がないことだけでなく、健全さ、全体感、自分自身との、そして、他者との、地域共同体内での、国家間のハーモニーを意味しています。「シャローム」は愛、健康さ、繁栄、物品の再配分および和解も意味します。サンスクリット概念である「シャンティ」は、スピリチュアルな満足を意味するだけでなく、心の平和、地球の平和、海表面の下の平和、宇宙の平和、宇宙的な視点からの平和までも意味します。中国語の「ピン・平」は、ハーモニー、多様性の中から一体感を達成することを意味し、古代中国の陰陽の原理に表されているような、対立するように見える要素を統合する考え方に比較することができます。(Barash, 1999)

平和について全的に理解するという事は、永続可能な平和を希求するならば、何が本当に必要かを批判的かつ現実的に分析した結果です。(つまり、暴力の否定とある種の積極的な条件の追求の要求)同時に、全的な見方は、倫理的、文化的、歴史的根っこから来ており、今日の平和についての考え方に影響を与えているものなのです。

第2章 超形成的教育としての平和教育

Peace Education as Transformative Education

平和の文化を建設するための最大の資源は、人びと自身です。というのも、平和的な関係や構造が創造されるのは、彼ら自身を通じてだからです。そのために、人びとを平和のエージェントにするべく教育することは、平和構築のための中心的な課題です。平和構築というのは、一般的に平和的な共同体を建設する長期的なプロジェクトを意味します。そのために、平和教育が、重要な平和構築の方略であること(対立収拾後の状況においても同様に)そして、暴力的な対立を防止するための効果的な方法であると、理解できることでしょう。

フィリピンの平和構築の枠組みでは、平和を求める人びとを構築することはとても重要な要素として示されています。(Ferrer, 2005) 後者は平和の文化と議題を推進する教育を含みません。

平和教育とは何か What is Peace Education?

平和教育、あるいは、平和の文化を推進する教育は、本質的には超形成的であるものです。それは、暴力的な対立を作り出し、過激化する人びとのマインドセット、態度、姿勢を超形成しようとする知識の基盤、スキル、態度と価値を耕すものです。それは、人びとが非暴力と正義と環境ほどとその他の平和的価値を実現する条件とシステムを生き、つながり、作り出すことができる、個人的、社会的行動に対する気づきと理解をつくりだし、挑戦すること、関心を持つことを求めることです。

上記のようなことを描写するために事例をあげるとすれば、わたしたちは、平和教育は、まず若い人びとあるいは成人の学習者に対して、ある特定の対立がどのような影響を持つか、その意味するところを理解し、その対立の根本原因を知ること、代替案は何かを考えることを求めるでしょう。それから、省察、議論、見通しを持つためのテクニックを使うことを通して、彼らはさまざまな視点を査察し、他の人の立場に立ってみて、暴力の犠牲者に対する共感を持ち、彼らの視点に正統性はあるものの、わたしたちの視点とは異なる人びとを理解することを求めるでしょう。

最後に、平和教育は、よく考え抜かれた代替案を彼らから引き出すことでしょう。その代替案というものは、公正で、建設的である必要があります。そして、彼らに対立の解決と非暴力

的な方法で、事態 を超形成することように努力することを奨励するでしょう。

これは、平和教育で活用される学習のプロセスが全的で、学習者の認知的感情的行動的な側面をとりあげようとしていることを意味します。通常の手順は、比較的新しい知識、強化された知識を伝えること、価値をはかる質問をする、議論などの参加型 手法を使って、関心を引き出し、適切な個人的、社会的行動を引き出す/挑む/奨励することを含みます。

超形成に向けた行動は、偏見や戦争の端システムに 反対する行動、あるいは社会経済的正義を求める行動などがあるでしょう。認知感情、行動、すべてのレベルに注意することは、培われた平和の視点あるいは価値が内化されることです。図5がこのプロセスを図で示しています。この学習プロセスに合った特別な平和的教授学習法は、後の章で描写されることになっています。

Figure 5: The Peaceable Teaching-Learning Process

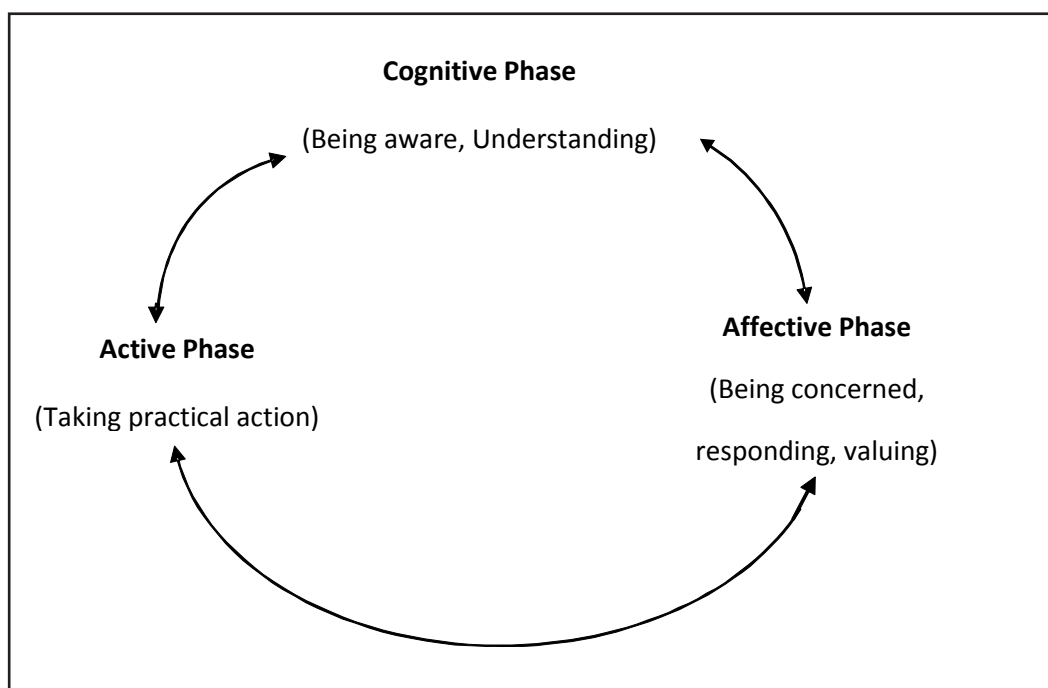


図 5: 平和的な教授学習のプロセス

認知的フェーズ
(気づき、理解)

行動的フェーズ
(実際的な行動をとる)

情緒的フェーズ
(関心がある、反応する、尊重する)

なぜ平和教育なのか? Why Education for Peace?

ベティ・リアダンは、彼女の初期の著作「Comprehensive Peace Education: Educating for Global Responsibility 包括的な平和教育:地球規模の責任(1988)」で、平和教育というのは、重要な社会的目的を持っていると言います。それは、現在の人間の条件を「社会構造や、それを作り出しているものごとの考え方のパターンを超形成すること」を求めています。彼女は、この考え方を次の本でさらにすすめています。Learning to Abolish War; Teaching toward a Culture of Peace 戦争を廃絶するために学ぶ:平和の文化に向けて (Reardon and Cabezudo, 2002) 後者においては、平和教育の主たる目的は、社会的不正義をなくし、暴力を拒否し、戦争を撲滅することだとしています。

悲しいことに、社会的不正義、戦争、その他の暴力は、わたしたち人間の条件になってきています。それらのせいで死、破壊、ひどい苦しみがもたらされたのに、人間はこの条件を超形成する集成的努力を成功裏に遂行できていません。普遍的な平和教育によって、わたしたちが必要な変化を求め、目標とする批判的大衆 critical mass を作り出す方向へと動けるかもしれません。ハーグ平和宣言の議長であったコーラ・ワイスが言うように、

「この新しい世紀が、歴史上もっとも暴力的で戦争にまみれた20世紀の伝説を受け継ぐのではないとすれば、たくさんの問題が解決されなければなりません。これらのキャンペーンは、わたしたちが平和と戦争の廃棄のための種を撒きたいとおもうのであれば、必要なものです。しかし、それらのキャンペーンのいずれもが、教育なしでは成功しないのです。ハーグ平和宣言は、未来の世代の考え方や行動に、長期的な変化を維持したいと決意しました。わたしたちの最善の貢献は、平和教育に取り組むことでしょう。」(Weiss, 2002)

フィリピンでは、ミリアム大学の平和教育センターやその他のグループが、平和のために教育することは、現実的な代替案であり、倫理的な動機付けであると表明しています。

平和教育は実際的な代替案である

Peace Education is a Practical Alternative

平和のために教育することは、長期的にはわたしたちに、わたしたちが求める現実的な利益をもたらすでしょう。すでに述べたように、人びとを、平和にかかわる多くの問題を非暴力的で、人間的、生態系的な代替案と解決へと超形成するには、個人的、構造的変革が必要なのだと要求し、取り組もうとする批判的な大衆を作り出すには、平和教育が必要なのです。

具体的に言うと、わたしたちは、戦争が地球的安全保障システムの中核となる方法論であったことを知っています。そのようなシステムは、無数の世代に悪影響を与えてきました。人間のいのちというコストと並んで、物質的、環境的コストという意味でも。それはまた、生活の

なかのさまざまな側面において、暴力を理屈の上で擁護してきました。そして、戦時性暴力、性的奴隷、民族浄化、民族虐殺などのひどい事象を生み出しました。さらに、戦争は不可避であると広く信じられているのです。戦争はいわゆる国益を追求するために合理的な手段だとし、受け入れられています。戦争は、その他の要素も引き連れてやってきます。軍備拡大、軍隊の増加、さらに洗練された破壊的な兵器の開発、スパイ行動的な技術と科学技術の発展、人権を二の次にすることを嬉々として受け入れること、敵に対する拷問などです。

平和教育は、戦争は避けられないのだという、永きにわたって信じられて来たことを疑います。この信念は、その下に、暴力は人間性に根ざしているという考えがあるのです。この後の章では、この問題を扱いますが、いまは、平和教育は人びとの、戦争は避けられないという、マインドセットを変えることができるし、実際、人びとが、戦争の代りになるものは存在するし、暴力的な対立を予防する方法もあるのだということを人びとに気づかせることができます。

対立の非暴力的解決を政治的に提言することは、平和教育の鍵となる要素です。そして、これが、わたしたちの世界における主要なマインドセットと価値になったとすれば、どれほど多くの益がもたらされることでしょうか。

ミクロのレベルでは、非暴力的な対立の解決についての教育、例えば協同による問題解決と仲介のような教育が人間関係の質を向上させ、関係者の誰にとっても建設的で公正で、役に立つ変化を望んだのでしょうか。このトピックは、第9章で扱います。

平和教育は倫理的な命令である

Peace Education is an Ethical Imperative

平和のために教えるというのは、どのような形であれ、すべての暴力によって生命の質と幸せが否定されるかを考えた時、倫理的な動機付けがあります。主要な世界の信仰の伝統における倫理システム、人道主義的倫理、さらには初期的な、先住民的なスピリチュアリティにおいても、平和を希求する心をかきたてる原則が作り出されています。これらの倫理的原則は、人間だけではなく全開の他の生命も含むいのちの一体性と価値、人間の尊厳の尊重、非暴力、正義、愛が社会的倫理として含まれています。それらの原則は、実践に結びつけることが強く求められており、それは、わたしたちに共通の善をもたらすと期待されているからです。

知識・スキル・態度と価値観の枠組み

Schema of Knowledge, Skills and Attitudes/Values

21 第2章 超形成的教育としての平和教育

次に紹介するスキーマは、平和教育に必須の、中核となる知識の領域、技能、態度、価値をリストにしようとする試みです。リストは、ミリアム大学平和教育センターによってなされた平和教育についての文献、および中核となる情報提供者/平和教育実践者に対する調査に基づいています。リストは網羅的なものではなく、平和教育の実践と経験およびそれに伴う省察や洞察などに伴って進化することが期待されています。図の中に出てくる主要な概念についての簡単な説明が、図の次にあります。

Figure 6: Schema of Knowledge, Skills and Attitudes/Values

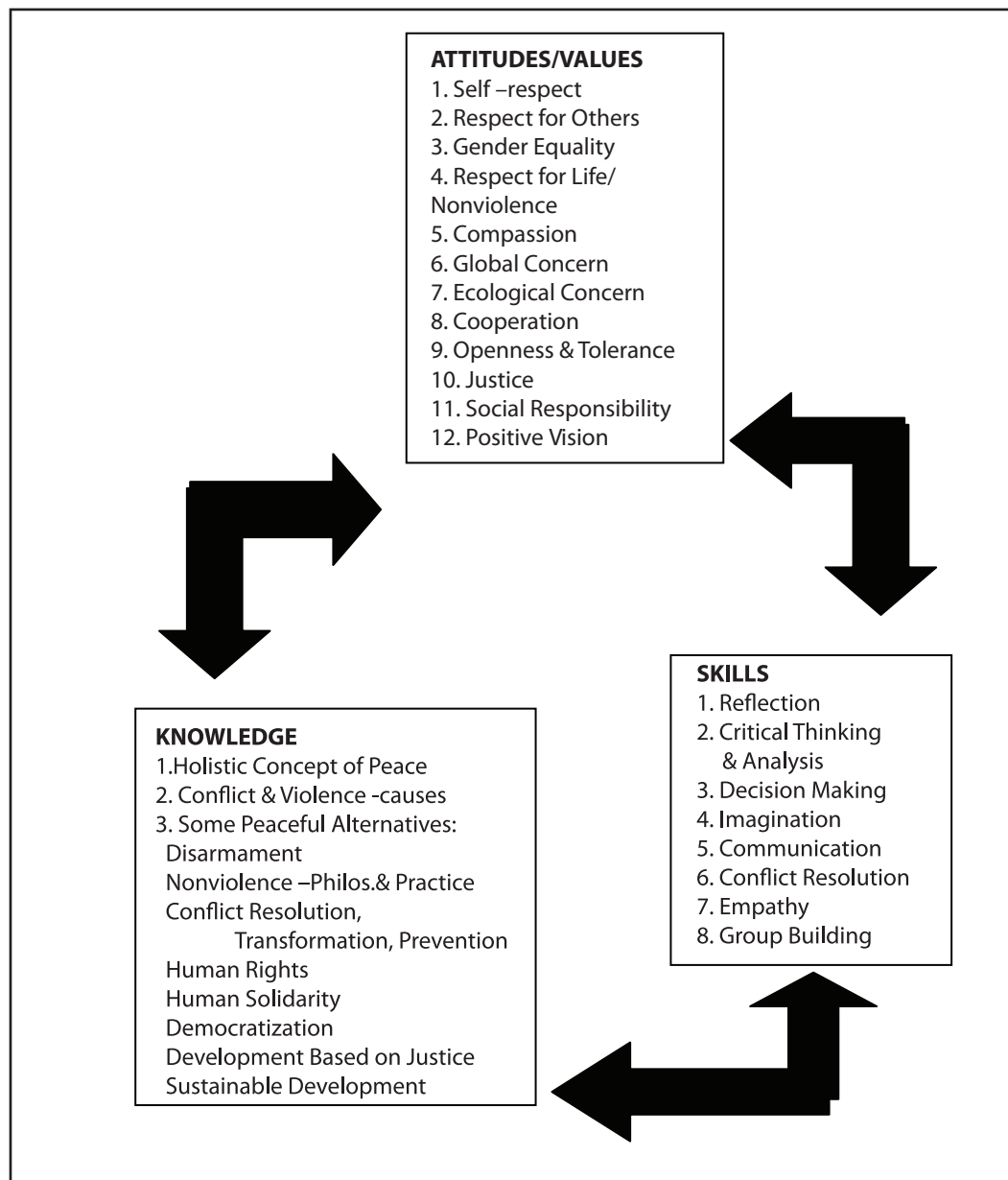


図 6: 知識、スキル、態度/価値観の枠組み

態度/価値観

1. 自己尊重
2. 他者への尊重
3. ジェンダー平等
4. いのちの尊重/非暴力
5. 共感
6. グローバルな関心
7. 生態系的関心
8. 協力
9. 開かれた態度と寛容
10. 正義
11. 社会的責任
12. 前向きなビジョン

知識

1. 平和についての包括的な概念
2. 対立と暴力 その原因
3. いくつかの平和的な代替案
軍縮
非暴力のための哲学と実践
対立の解決
超形成、予防
人権
人間の連帯
民主化
正義にもとづく開発
持続可能な開発

スキル

1. 省察
2. クリティカル・シンキングと分析
3. 意思決定
4. 想像力
5. コミュニケーション
6. 対立の解決
7. 情動的な共感
8. グループ形成

平和のための教育:

知識領域、スキル、態度/価値のリスト

Education for Peace: List of Knowledge Areas, Skills and Attitudes/Values

知識/内容領域 **Knowledge/Content Areas**

平和教育に不可欠な知識あるいは内容のいくつかを紹介します。

1. 平和の全的な概念

生徒が、平和というのは、直接的/肉体的な暴力の不在のことではないということ、そして幸せ、協力、人間と自然の間の正しい関係のことであると理解することが大切です。この観点は、生徒が平和の問題を統合されたやり方で分析することを助けます。

2. 対立と暴力

対立は人の社会生活の中の自然な一部ですが、どのように対立を解決するかによっては暴力の種になってしまいます。生徒は、個人的なレベルから地球的レベルまで、直接的、構造的、社会文化的、生態系的暴力など、さまざまな暴力の問題を学ぶことができます。彼らは、暴力の根っこ結果を検査 examine することができます。

3. いくつかの平和的な代替案

(a) 軍縮 - 学習者に、戦争をなくし、地球の軍事力と軍備を減らすという目標を伝えることができます。彼らが過剰な軍備と軍事費が馬鹿げていること、資源を人びとの基本的なニーズ(食料、住宅、健康永世、教育など)を充足させることに振り向けることの論理を学ぶことはよいことです。

これは、真実の人間の安全保障とは何を意味するかを探るための飛び板になるでしょう。人間の安全保障というのは、基本的ニーズの充足と人間の高次のニーズの充足から生まれ得るものなのです。

(b) 非暴力 - 学習者は、非暴力の背景にある哲学・精神性を学ぶことができます。また、変化に影響を与えるための方法としての効果のほども調べることができます。非暴力を哲学として、そして方法論として弁護してきた個人やグループについて調べることができます。Mahatma Gandhi マハトマ・ガンジー, Martin Luther King, Jr. マーチン・ルーサー・キング Jr., Aung San Suu Kyi アウン・サン・スー・チー, Thich Nhat Hanh ティット・ナット・ハーン, Desmond Tutu デズモンド・ツツ、そして Wangari Maathai ワンガリ・マータイ。などがリストとしてあげられます。

(c) 対立の解決、超形成と予防 - 生徒は対立を非暴力的に解決するための効果的な方法を学ぶことができます。(協同的問題解決など)そして、これらの方法がどのように日常に応用す

ることができるか。彼らは、さらに、対立を解決した後、もっと望ましい状況へと超形成される姿を調べることもできるでしょう。対立を予防する方法も、探査することができます。なぜなら、ヨハン・ガルトゥングは、医療の分野と同じく、「うまくいかない状況を治療する」より予防した方がよいのだと、言っています。

(d) 人間の連帯 - 多様な宗教、文化、地域、国のグループをつなぐ多くの共通項があります。すべての人間は、共通の基本的ニーズを持っていますし、希望や、相互依存している人間の、そして地球規模のコミュニティに所属しています。わたしたちは、たった一つの家(地球)、そして一つの未来しか持っていません。世界の主要な宗教には、共通の価値と原則があります。生徒は、宗教間、文化館、グループ間の信頼、共感、尊敬、協力、増加させるにはどうすればいいか、そしてまたステレオタイプや偏見を避ける方法を探します。

(e) 正義に基づいた開発 - 学習者は、構造的な暴力の現実と悲劇的な結果について、そして、正義に基づく開発という哲学が、より好ましい選択肢であることに批判的に気づきます。

(f) 民主主義化 - 学習者が、民主主義が人びとの基本的な権利、関心と願いが尊重されるべき環境を提供するものだという理解することは大事なことです。

g) 持続可能な開発 - 学習者は、人間と自然環境の間の相互依存関係、そして、地球の生態系の健全さを保つために、いまのニーズと将来のニーズの両方に応えるために必要な変化を理解する必要があります。彼らは、自然を常に尊敬していたわたしたちの先住民の知恵に学ぶ必要があります。

態度と価値観 Attitudes/Values

次のような態度と価値観が醸成されるように提言されています。

1. 自尊感情 Self-respect

彼ら自身の価値観に気づくこと、そして、自分自身の特別な社会的文化的、家族の背景、そして前向きな変化に貢献することができる彼ら自身の力やよい点についても意識していること。

2. 他者の尊重 Respect for Others

他の人々の価値と引き継いできた尊厳に気づき、社会的宗教的文化的家族的な背景が、自分自身のものとはつがうということを認識する。

3. いのちと非暴力の尊重 Respect for Life/Nonviolence

人間のいのちに価値を置き、対抗勢力や対立の状況に反応することを拒否し、協同的な問題解決やその他の前向きなテクニックなどの非暴力的なプロセスを、物理的暴力や武器の使用より好むこと。

4. ジェンダー平等 Gender Equality

女性が男性と平等な機会を享受する権利を持っていること、濫用、収奪、暴力から自由であることを尊ぶ。

5. 共感 Compassion

他の人々の苦境、苦しみに対する感覚、周辺化された人びと、排除された人びとに対する深い共感とやさしさをもって、行動すること。

6. 地球規模の問題に対する関心 Global Concern

人間の社会全体に対する心配りするという事は、彼らの国や地域/民族の共同体に対する関心を越えるものである

7. 生態系的関心 Ecological Concern

自然環境に対する心配り、持続可能な生活やシンプルなライフスタイルを好むこと。

8. 協力 Cooperation

共通の目標を達成するために、協同的なプロセスや協働の原則に価値を置くこと。

9. 開かれた態度/寛容 Openness/Tolerance

成長と変化のプロセスに対する開かれた態度。同時に、他の人々の考え、信念、経験を、クリティカルではあるが開かれた心で受け止めること。わたしたちの世界におけるスピリチュアルな伝統、文化、表現の形の豊かな多様性を尊重すること。

10. 正義 Justice

他の人々に対する公正さの感覚をもって行動する、平等の原則を高く掲げる。すべての形での収奪と抑圧を拒否する。

11. 社会的責任 Social Responsibility

正義、非暴力、幸せによって特長づけられる社会を創ろうとすることに貢献する行動を喜んで取ろうとすること。現在と未来の世代に対する責任の感覚があること。

12. 前向きなビジョン Positive Vision

彼らが望ましいと思う未来を、希望を持って想像し、彼らに可能な方法で、その実現を追い求めること。

スキル Skills

育てられるべきスキルには以下のようなものがあります。

1. 省察 Reflection

省察的思考あるいは理性を活用する。それを通して、自分たち自身についての、そして他者および地球に生きるものとのつながりについての理解を深める。

2. 批判的思考と分析 Critical Thinking and Analysis

問題に対して、開かれた、しかし、クリティカルな心で向き合うことができる力。証拠を調査、問い、評価、解釈する方法を知っていること。偏見や根拠のない主張を疑い、反論することができる力。証拠と論理的な議論があれば、自分の意見を変えることのできる力。

3. 意思決定 Decision-making

問題を分析し、問題解決の代替案をつくり、代替の解決を利点と不利な点の両面から分析し、より望ましい決定に到達し、意思決定を実践するための計画を準備することのできる力。

4. 想像力 Imagination

新しいパラダイムや新しい、望ましい生活や関係性のあり方を創造し、想像する力。

5. コミュニケーション Communication

心をこめて共感的に聞き、考えやニーズをはっきりと、非攻撃的な方法で表現することができる力。

6. 対立の解決 Conflict Resolution

対立を客観的でシステマティックな方法で分析する力、幅広い非暴力的解決を提案する力。対立の解決をするスキルは、適切なアサーション、対話、傾聴、協同的問題解決を含みます。コミュニケーションのスキルは、対立の解決における重要な基本的なスキルです。

7. 情動的共感 Empathy

他の人やグループの視野を知り、その人やグループがどのように感じているかを判じることのできる力。学習者自身の視野を広げることを助けるスキルでもある。特に、公正で建設的な代替案を探ることにおいて有効である。

8. グループを形成する

互いに協同的に、共通の目標に到達するために行動する。協力とグループ形成は、メンバー同士の互いの承認と奨励によって促進される。想定としては、すべての人は、なんらか貢献するものを持っているし、すべての人は、解決の一部であるということである。

第3章 平和教育の包括的なスコープ

The Comprehensive Scope of Peace Education

平和教育の内容と方法は多次的でホリスティックです。それはたくさん太い枝の茂った大きな木にたとえることができるでしょう。平和教育は世界各地で展開され、進化したがために、そこでとりあげられる課題やそのすすめ方は、多岐にわたります。また平和教育には、過去 50 年の進歩的な教育や革新的な社会運動の成果が反映されています。それらの「教育群」があいまって平和の文化を促進する基盤になっているのです。

平和教育のさまざまな形や展開のなかでも、次にいくつか典型となるものをあげてみましょう：軍縮教育、人権教育、グローバル教育、対立・紛争解決教育、多文化教育、国際理解教育、宗教間対話教育、開発教育、男女平等・ジェンダー教育、環境教育など。これらそれぞれは、いずれも直接的暴力あるいは間接的暴力の問題に焦点をあてています。また、いずれの平和教育の実践にも、固有の知識、身につけるべき技能や、はぐくみたい価値などが含まれています。

軍縮教育 Disarmament Education

ヒロシマ・ナガサキへの原爆投下があり、そして冷戦による軍拡は、核兵器への軍縮運動を呼び起こしました (Toh, 2004)。まさに軍縮教育の始まりは、核兵器の脅威でした。後年、生物兵器や化学兵器といった他の兵器の軍縮も含むように進化しました。これら大量破壊兵器(WMD)と言われる無差別に大規模な破壊をひきおこす兵器のみならず、近年、小型武器(SALW)が容易に流布し、誤った操作による事故が多発することから、小型武器も軍縮教育の課題になっています。国際小型武器行動ネットワーク (IANSA) という世界的運動は、小型武器が人権や人間の安全保障の脅威となっていると政治家や世論、メディアの注目を喚起し、武器の拡散と武器による暴力を防止し、そのための政策を促進し、教育や研究もすすめるために市民社会からの活動を展開しています。

フィリピンではフィリピン小型武器国際アクションネットワーク (PhilANSA) が IANSA と連携して活動しています。軍縮教育の重要な目標は、武器の拡散を防止することです。武器が流布することにより、武力紛争が激化し、永続させることになり、人びとの基本的ニーズの充足がはばまれます。国連軍縮局は、通常兵器の年間購入の 7 割が、発展途上国によるものであり、その金額は 300 億ドルにもなると報告されています (UNDDA, 2002)。

人権教育 Human Rights Education

1948年の世界人権宣言の採択以降、人権を尊重するための教育をすすめるとりくみをはじめられました。この教育運動が人権教育と呼ばれています。ベティ・リアドン（1995）は、人権教育は平和教育とつよく関連し、人びとが非暴力による社会秩序を形成し、基本的人権と自由を実現することにつながると述べています。人権を尊重するよりよい社会が実現すれば、戦争や武力紛争を減らすことにつながるでしょう。

権威的な教室で人権を学ぶことは不可能であり、「いかに教えるかが、わたしたちが教えているものである」という考えが、きわめて重要になってきています(Flowers, 1998)。人間の尊厳を守ることを学び、そのように生徒がふるまえるようになることは、教師自身の姿勢と教え方によるのは自明のことでしょう。人権教育の内容は、世界人権宣言を学ぶことや、女性差別撤廃条約や子どもの権利条約などの他の重要な人権文書の学習も含んでいます。人権教育では、権利と責任には相関関係があるということも取り上げます。人権教育は本書の第二部でさらに詳述いたします。

グローバル教育 Global Education

グローバル教育は、自分の地域と世界とのつながりを学び、自分の文化的状況や、自文化中心のもの見方、前提となる考え、ふるまいを転換し、行動できるようになることを目指すプログラムやプロジェクト、学習、活動であると定義されます (Fresh, 1990)。

フィリピン平和グローバル教育協議会の冊子によれば、グローバル教育は「相互依存のすすむ世界で責任のある参加のための教育」と述べられています。

グローバル教育は価値中心である：グローバル教育は人類がつみかさねてきた重要な価値と、普遍的な価値の原理と、人の尊厳を追求する。

グローバル教育は世界志向である：生態系ならびに社会、経済、技術の相互依存関係が地球規模ですすむなかで、自分のアイデンティティの理解に重きを置く。

グローバル教育は未来志向である：のぞましい未来を創造することにかかわっている。

対立解決教育 Conflict Resolution Education

対立解決教育は、ここ 20 年におよぶ教育運動の成果によって知られるようになりました。対立解決教育は、現在、多くの学校のカリキュラムに取り入れられ、対立を建設的に扱うように実践されています(Haris and Morrion, 2003)。Tricia Jones(2006)は対立解決教育には以下の目標があるとしています：安心で建設的な学習環境をつくること、生徒の社会・情緒的発達を教化すること、建設的に対立を扱う集団を形成すること。

対立解決・平和教育国際ネットワーク(INCREPE)という組織は、武力紛争予防のためのグローバルパートナーシップ(GPPAC)と協力して、対立解決教育を世界にひろめる活動をしており、まず、各地

29 第3章 平和教育の包括的なスコープ

域の対立解決教育や平和教育にかかわる団体のリストをつくることに着手しています。

http://www.creeducation.org/cre/global_cre/about_global_network

対立解決教育は、生徒が意見を異にする場合でも相互に受け入れられる解決を得ることができるよう、協力的な風土をつくるピースメーカーとなれるように取り組みます。対立解決教育では、怒りへの対処法や傾聴、よりよいコミュニケーション、前向きな対話、他に相互に益をもたらすウィン・ウィン解決に至る、よりよい対処法の練習もおこないます。人間関係と対処すべき事柄はいずれも大切であり、協調的な問題解決が求められます。フィリピンにおける対立解決教育では、学校が平和の文化を醸成する場となるようピア・ミディエーション(同年令の仲間による対立の調停)が実践されています(Galace, 2006)。

フィリピンでも、学校や地域、職場、政府行政機関において、対立解決教育の研修がなされ広まっています。しかし、長年にわたる武力紛争やさまざまな争いがフィリピンにはあり、対立解決教育をすすめるには未だ課題は多いと言えるでしょう。

多文化教育 Multicultural Education

多文化教育は、当初、さまざまな文化が共存し、文化的に多様な人びとが多く住む国々ですすめられてきた教育運動です。米国とかオーストラリアといった、世界各地から移民を受け入れた歴史をもつ国で多文化教育は、はじめられたのです。しかし、北や南(「先進国」や「途上国」)でも、社会には文化的多様性があることから、多文化教育がなされるようになりました。多文化教育の典型的な定義は「生徒が、文化の相違点と類似点を理解し、尊重し、多様性のある集団を形成する」というものです(Ladson-billings, 1994)。

しかしながら、多文化の観点から教えるということは、他の文化を理解し尊重するのみならず、自分の文化を同様に理解し尊重することでもあります。自分の文化のよい面を見いだす感性を育むことで、他の文化の独自性を尊重することができるようになります(Burnett, 1994)。自分の民族への態度や他の文化への態度は幼少時から形成されます。幼少児は、それぞれ違っているように見えても、人は同じだということが強調されることがない場合、自分の文化とは異なるものに嫌悪感と先入観を持つように影響されやすいものです。そのため、多文化教育では、子どもたちがさまざまな教材および活動をとおして、先入観をなくし、人びとの類似性を学び、ちがいがあっても、他者を受け入れ、尊重することができることを追求しています。

国際理解教育 Education for International Understanding

国際理解教育の推進は、市民によるものというよりは、ユネスコによるところが大きい。ユネスコは1974年に「国際理解、国際協力及び国際平和のための教育並びに人権及び基本的自由についての

教育に関する勧告」を採択し、これにより国際理解教育の平和への役割がいつそう明確にされました (Toh, 2004)。

1995年に、ユネスコは「平和・人権・民主主義のための教育に関する包括的行動計画」をつくり、平和と人権、民主主義とこれらをつよ関連性があるとしました。国連機関は2000年を平和の文化国際年とし、以降「世界の子どもたちのための平和と非暴力の文化国際10年」の取り組みがすすめられました。こうした文書は国際理解教育がよりホリスティックな意味をもつ根拠となっています。国際理解教育は、地球規模での平和のみならず、他の場における非暴力かつ、公正で、持続可能な社会を築くことに寄与するものとされています。現在、国際理解教育はいつそう盛んになり、平和の文化の推進にあたり、国際理解教育が、多くの学校や組織、市民社会の参加を得て取り組まれています。

宗教間対話教育 Interfaith Education

宗教間対話教育は、宗教界における改革の動きである宗教間対話の運動からおこってきました。宗教間対話教育の運動は1893年にシカゴでひらかれた「万国宗教会議」World Parliament of Religionsにはじまります。これは歴史上はじめて、いわゆる東西宗教の指導者が、地球規模で一つとなり共通の精神的基盤を求める対話のために一堂に会したものでした。この宗教間対話運動は、さまざまな伝統宗教の宗教家や精神的指導者が集まり、対話をすすめ、たがいから、また参加者とともに相互から学びました。この会合には、指導者とともに一般の人びとも招集され、不寛容、不正義、宗教的迫害についても議論されました。

以降、宗教団体はただちに宗教間対話教育の試みをはじめました。それらの活動により、地域訪問や体験活動など、さまざまな活動を通して学ぶことを重視して取り組みがすすめられました。宗教間対話教育によって宗教理解がすすむなかで、さまざまな宗教についてどのように教えたらいかがが追究されるようになり、宗教間対話教育として固有の領域となったのです。宗教間対話教育は、2001年9月11日以降、社会をゆるがす対立につながる差別や民族蔑視にもとづく犯罪なども扱うようになりました。宗教間対話教育は、差別や民族蔑視による犯罪をなくし、平和を実現するための道徳的・社会的基盤を形成するのに不可欠であると受け止められています (Puett, 2005)。

宗教間対話教育は、宗教間対話と目標が同じであるとの見方があります (Arinze, 1998; Goosen, 2001; Keskin, 2004; Toh, 2004)。宗教間対話は、他の宗教に対する共感的理解を得て、たがいを尊重して調和をもって暮らすことができ、あらゆる形態の暴力や生態系の破壊などのさまざまな地球規模および積沍的問題に、宗教間の協力を促進しようとするものです。

開発教育 Development Education

1960年代に、当時、開発は近代化であるという前提で開発がすすめられることにたいする批判から

31 第3章 平和教育の包括的なスコープ

開発教育ははじめられました。開発教育は、不公正で持続可能でない経済のあり方が、飢餓や住まいを失い、周辺化を生んでいるという批判にもとづくものです。開発教育にとりくむ教育者や NGO は、地域における学習がこうした状況を人びとの意識を高めるとともに、社会科の学習内容と他の教科においても、貧困や不公が開発と関連することを学ぶことを構想しています (Toh, 2004)。

イアン・ハリス(2003)によれば、開発教育の目的は、行動する民主的な市民の力で、地球の資源の平等な分配を可能とする平和なコミュニティをきずくことである。開発教育は、例えば、大きな多国籍企業による不公正や非民主的な構造に気づくことのできる、批判的な意識をもつことができることを目標とします。とくに、人間や自然環境のいずれも危害をくわえ、破壊する、拡大を志向する経済が問題であるとハリスは述べています。開発教育は、積極的平和を構想し、人びとが不公正を解消することを目指しているのです。

男女平等・ジェンダー教育 Gender-fair/Non-sexist Education

大衆的フェミニズムの広がりとして 1960 年代の社会正義を求める市民運動の動きを受けて、学校における性差別反対が始まりました。その目標は、社会的性差 (ジェンダー) にかかわらず、生徒一人ひとりの能力が発揮されるようになることでした。(Moffat, 2000) . ジェンダー平等教育は、学習者が両性の能力および権利を尊重し、文化的に根強く広がっているジェンダーによる偏見や固定観念を、変革していくために学ぶことを求めます。

鍵となる概念は、育児や家事を分担することや、意思決定や機会の平等、公共の場への参加、女性の役割や貢献を知らしめること、価値のあるものとして認めること、女性へのあらゆる暴力をなくすこと、性差別的な学校教育や育児の方法をなくすことです (フィリピン教育省, 2002) . GFE は、これらの中核となるメッセージを中心にすすめることで、教育内容や方法、学校の環境がジェンダーの平等が実現されると期待しています。また、よりいっそう男女の平等をすすめる、固定観念や偏見また女性への暴力をなくす担い手に生徒になることも、また、期待しているのです。

環境教育 Environmental Education

環境教育は、環境について、環境のための、環境をつうじて学ぶ教育である。ポストモダンの潮流によって、環境教育ははじめられました。1960 年代、環境汚染がおこるとともに、人間が環境を支配するあり方にたいして、あらゆる生物が相互に依存しているとの見方が、ポストモダンによって提唱されました (Galang, 2001)。

環境破壊がすすむにつれて、土地や大気、水質汚染および森林破壊やほかの自然破壊また温暖化などへの関心が高まりました。環境教育は、生態系の危機にたいする教育といえるでしょう。人間が利潤を最大限追求する、また地球に危害を加える持続可能でない消費および生活は、変革にせまられて

いるのです。環境教育は、母なる地球に平和に暮らすことができるための知識や技能、価値によって、人々をエンパワーすることをねらいとしています。さらに言えば、現在と未来の世代のニーズが満たされるように、自然環境にとってのよりよい「管財人」または「同族」となることが目指されています。こうしたことの根底にある考え方は『我ら共通の未来』(*Our Common Future*)という1987年に出版された書籍の主題ともなっています。

トー(2004)は、平和に根ざした環境教育は、人々や学校に対して個人的にも社会的にもグリーンなものとなるよう(例えば「リサイクル、リユース、リデュース」を実践する)方向付けると同時に、近代化の考え方に支配された、過剰にモノに頼る生活や、消費を追い求める生活を問い直すことができるようになること、簡素で、地球にとって正しく、公正な発展を擁護するようになることを目標としていることを、思い出させます。

第4章 平和の源となる霊的、信仰の伝統

Spiritual and Faith Traditions as Resources for Peace

世界の主な霊的な伝統、あるいは信仰は伝統的に、人々に平和について思い行動する力を与えてきました。宗教信者たちが戦争へとかり出されたり、信仰の名による暴力を振るう事もあります、「争いは信仰の問題ではなく、宗教の問題ですらなく、社会的な、政治的（または経済的）な目標に対する対立的な意見のぶつかり合いです」（Machado, 1993）

霊的信仰的な伝統の元の教えをよく見ると、それらはみな平和の源でありその力になるものであることが示されています。わたしたちは、それらが掲げる原則や価値を再発見し、信仰が語り継いで来た本質的な目標は、平和を求める事であることを思い起こすべきです。

様々な霊的信仰的伝統を理解し協力し合うことは、今日の社会では必須のものです。私たちは多様な信仰の形の中にある価値観を分かち合い、共によりそう事の出来る場を探しているのです。その多様性にもかかわらず、私たちは同じ人間であり、お互いを尊敬し、受容し、平和のうちにもともに生きるものであることを求めているのです。

ここでは東南アジアに根を下ろした5つの主な霊的信仰的な伝統について考えて行きたいと思えます。キリスト教、イスラム教、仏教、ヒンズー教、そして先住民の信仰について考えて行きます。

キリスト教

キリスト教の物語は天使たちが羊飼いに歌う歌から始まります。「いと高きところには神に栄光、地には平和あれ」（ルカ 2:24）。これはキリスト教教義の始まりであり、そこには地上の平和について述べられています。（George, 1987）ジョージはキリストの平和へのアプローチについて3つの要素があると説明しています。

1. 暴力の否定

イエスはローマ支配下に彷徨う人として生まれましたが、ユダヤ人に対するローマの抑圧に加担する事はなく、同時にローマに対してゲリラ戦を挑む愛国者集団（Zealots）に参加する事也没有せん

でした。彼は自らの原則としてゲッセマネの園で掴まった時に「剣を取る者は皆、剣で滅びる」と述べています。

2. 報復ではなく、愛と和解

隣人あるいは他者への愛はキリスト教メッセージの核心であり、イエスのもっと重要な掟と言われています。「互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したようにあなたがたも互いに愛し合いなさい。それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる」（ヨハネ 13：34-35）。彼はこの掟を敵も含めて愛するようにと広げて行きます。「あなたの敵を愛し、あなたを憎む者のためによい行いをしなさい。あなたを呪う人を祝福し、あなたを虐待する人のために祈りなさい」（マタイ 5：43-44）

「あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」

イエスは“目には目を”同じだけの被害を復讐する事を許す法をとらず、愛する事、憐れみ深く対応するように言います。ローマ人への手紙 12:17-21 では次のように言われています。「悪に悪を返さず、自分で復讐する事は止めなさい・・・復讐はわたしのする事、と神は言われる。しかし、あなたの敵が飢えているなら食べさせ、乾いていたなら飲ませよ。悪に負ける事なく、全を持って悪に勝ちなさい。」このような非報復的な愛の目的は和解なのです。

3. 変革の提案を用いる

キリスト教者はピースメーカー（平和の担い手）として積極的に役割を果たす事をもとめられています。山上の説教において「平和を実現する人々は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。」（マタイ 5:9）とイエスは言っています。

イエスは暴力への対応として、予想もしない驚くべき原則を説いています。「ある人が右の頬を叩いたら、もう一つの頬を差し出しなさい。誰かが一マイル行くように強いるなら、一緒に2マイル行きなさい。」（マタイ 5:38-41）この教えは単に何かをしてはいけないと言うものではありません。暴力的かつ不正義な状況を無効にする積極的な提案を意味しています。そして、神の愛による変化（刷新）が根づくことができるのです。

グレン・スタッセン（Glen Stassen, 1983）は上記のキリスト教教義について、今日的な時代に合わせた4つの実践的な段階があると解説しています。

- ・あなたの“敵”の隠された良さを肯定し、彼／彼女等のために祈りなさい
- ・敵対する相手と話し合い、合意点を探しなさい
- ・正義を必要としている弱い立場の人々をつなぎ、

・敵に悪いものを返してはいけません。むしろ、創造的な変革の提案を行いなさい。

キリスト教の聖書に収められている旧約聖書によれば、わたしたちはヘブライ語の平和を意味する“シャローム”の考え方に立ちもどる事が出来ます。シャロームの意味するものは全体的、包括的な幸福であり、健康、繁栄、調和、安らぎ、福祉、幸せや安全などを含んでいます。(Lord, 1968) それはまた、戦争の無い状態、「わたしは弓も剣も闘いの武器もこの世から消し去る。そしてすべての生きている創造物が恐れる事なく憩うことができているだろう。」(ホセア 2:20) <その日には、わたしは彼等のために野の獣、空の鳥、地をはう者と契約を結ぶ。弓も剣も戦いもこの地から断ち、彼等を安らかに憩わせる>

しかし、平和とは単純に戦争の無いことではありません。預言者たちは平和を実現するための道を具体的に描いています。「彼等は剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦う事を学ばない」(イザヤ 2:4)。平和はまた正義と親密に繋がることを示しています。「正義が造り出すものは平和であり、正義が生み出す者はとこしえに安らかな信頼である」(イザヤ 32:17)

キリスト教の平和に関する基本的な教義をもう一つあげれば、人間の価値に関することがあります。旧約聖書の創世記 1:26-28 によれば、神は人間を自分のようにかたどり、自分に似せて人間を創造しました。新約聖書の中でも、イエスが「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ(モーセの)律法と預言者(の教え)である」「わたしが来たのは(羊)あなたがたが命を受けるため、しかも豊かに受けるためである」(ヨハネ 10:10)

イスラム(教)

イスラム教の根源の言葉は“サイラム”、即ち平和であり、神と他の人類とともにある平和を意味しています。イスラム教信者とは神の意志に従う者です。この目的は個人的な信仰によって自分が神に救われるということよりも、「正しく調和に満ちた社会のありかたである神の計画の実現のために受け継がれてきた／行い」～実現を成功させるために行うこと」(マムッド アベディン 2011)

マムッド・アベディンはイスラム教信者の5つの義務を示しています。

1. 唯一の神(Tawheed)と預言者ムハンマドを信じることを宣言し、受け入れる。Tawheedの最も重要な教えは「神は唯一であり、すべての創造者である」こと。

2. 1日5回祈ること
3. 年に一度は“Zakah”富の2.5%程度の喜捨を義務として行うこと。“Zakah”はイスラム教においては富の再分配であり、他者に対するその人の関心を示すものである。
4. ラマダンの月には絶食をすること。これは主に霊的な訓練であるが、すべてのムスリム（イスラム教信者）の連帯を感じる意味もある。
5. その人が出来得るならば、一生に一度はメッカに巡礼すること。

イスラム教の教典であるコーランのなかから、平和に関するメッセージを以下に挙げておきます。

殺人に対する処罰と土地の不正な拡張をのぞいて、人を殺す者は人類すべてを殺す者であり、命を助ける者は、人類すべてを助ける者です。(Surah 5:32)

アラーはあなたが宗教の違いによって戦った者、またあなたを家から追い出した者を正しく親切に扱うことを禁止してはいません。まことに、アラーは公正なものを愛しています。(Surah 60:8)

神と最後の日、天使と教典と使徒を信じる事が正義である。あなた方が生きるために自分を養うだけでなく、神を愛する事以外に親族、孤児、貧しい者、旅人、何かを求める人のために財産を使いなさい。囚人を解放し、しっかりと祈り、日常の善行を行いなさい。(Surah 2:177)

…親に、親族に、孤児に、貧しい者に誠実に良くしなさい。そして人々にはよい話し手でありなさい… (Surah 2:83)

人間よ！私たちはあなた方を男と女、国と部族を創りました。それは（他者を蔑むためでなく）お互いを知るためです。(Surah 49:13)

あなたに戦いを挑むものと神のために戦いなさい。しかし、侵略をしてはいけません。真に神は侵略者を愛してはいません。(Surah 2:190)

神は正義とよい行いを命じています。彼は恥ずべき行為、不正、反逆を禁じています。(Surah 16:90)

37 第4章 平和の源となる霊的、信仰の伝統

それが真実を信じる者なのです。彼等は神によって尊厳を与えられ、許しと寛大な恵みを受けることができるのです。(Surah 8:4)

平和！最も憐れみ深い神からの挨拶の言葉。(Surah 36:58)

ハディース(預言者ムハンマドの言行を伝える書)からは以下のような言葉を見つける事が出来ます。(Saiyadain, 1968)

神の創造物は彼の家族です。そして最も神に愛されるのは、神の家族のメンバーによい行いのあった人です。

祈りより、断食より、また貧しい人に施すことよりももっと良いものとは何かを教えましょうか？それは人々が違いや蔑みから和解して行く事なのです。争いを消し去り、良き行いを根付かせることです。

神は、復讐する力があっても忍耐と寛容を修練した者に、信仰と安らぎをもって彼の心をみたくでしょう。

隣人を中傷し、その人が平和に過ごすことのできないようにする者は神を信じる者ではない。

地にあるものに憐れみをかけなさい。そうすれば、天にある彼からその慈悲が与えられるでしょう。

仏教

仏教の教義は、汚れを取りのぞいて涅槃に到達するまで、霊的な浄化に務めることを求めています。そして、苦しみからの最終的な解放(解脱)とは、生と死の循環(輪廻)を終わらせることだとされています。仏教の教義では、戦争、犯罪や苦難は心の汚れによるものであり、それにうち克つためには、自らを制し、瞑想し、智慧と悟りが必要とされています。

仏教の聖典によれば、仏陀は殺さないものを認めています。「自ら殺さず、殺戮の理由にも関わら

ない者、わたしはそのような人を本当のバラモン（最高位のもの）と呼びます。わたしがバラモンと呼ぶ者は、寛容で暴力のなかにあっても柔和で、欲深い者のなかにあっても貪欲から解放されている者です」（法句経、Dhammapada）

仏教は憐れみ（哀れみ）と愛による優しさを説いています。ダライラマ（2001）は憐れみを「他者が感じている苦しみの様子を見ると、どうしようもなく浮かんでくる感覚、何かつながり、関わりたい気持ち、他の人たちも、自分たちと同様に苦しみから逃れ、（自分たちと同じように）幸せになる権利がある事を認めること」と定義しています。

この憐れみや愛による優しさについて説明を、次のような仏教者の文章に見る事が出来ます。

わたしにとって楽しくもなく喜びに満ちていない国は誰かにとってもそうであるに違いありません。わたしにとって、そのような楽しくもうれしくもない国をどのように他の人に与える事が出来るでしょうか？

（相応部/Samyutta Nikaya 原始仏教教典の内容による分別の一つ

<http://eije.weblio.jp/content/Samyutta+Nikaya>)

限りのない靈性（精神 spirit）がすべての生きとし生けるものに慈愛を注ぐ（法華経）

ダライラマは彼の著作の一つ、『新しい世紀の倫理』（1999）において次のような原則の重要性を説いています。

- ・人間の本性は基本的に穏やかで攻撃的ではない。
- ・内面の平和は幸福であることの主要な特徴である。
- ・幸福とは他者の幸せを願い、他者と関係をもっていくことに根ざしている。
- ・人は人を傷つけることなく、寛大で謙遜を持って積極的な質を高めて行かなければ行けない。（謙遜は自己信頼感が低い事ではない）
- ・否定的な考えや感情は不幸や苦しみの元になる。

仏教徒は業（カルマ）の掟を信じています。それは原因と影響の真実を明らかにし、善い行いは良い結果につながり、逆もまた同様であるということです。彼等の業（カルマ）によると、人間も動物も、終わりの無い輪廻のなかであり、別の形に生まれ変わって行きます。良くも悪くも彼等に起る事は彼等自身と他者の結果でる訳です。モノに捕われ、自己中心で貪欲であることは、すべての不正義の元になるため、人に与え、自らはより少なく手にし、簡素にくらし、苦しみの元となるものへの執着から解放されることを教えています。

のちに仏陀となる Siddharta シッダルタ王子は、彼の人生で、官能的な喜びの極限、難行苦行の極限など、極限を経験しました。その後、“中庸”の生き方を歩むようになり、それによって、彼曰く、完全に解放され、食欲や憎しみ、幻惑に完全に打ち勝つ事ができました。“中庸”の生き方は、肯定的で平和な毎日の暮らしであり、極端な事を避けるものです。(Hewage, 1978)

ドラマ (2001) はこのことについて「バランスの取れた巧みな生き方…その人の毎日の暮らしのなかで重要な要因である」と述べている。

ヒンズー教

ヒンズー教の霊性の最終目標はすべてが一つとなる融合の未来像を得る事です。それは差別の無い、すべての命の形が大切にされているところです。この相互に繋がるビジョンはお互いに深く尊敬し合う関係と、人間と自然界との肯定的な関係を育てていきます。(Sandrarajan, 2001)

ここでは、Sandrarajan の著作から、ヒンズーの融合と調和に関するものを引用します。

あなたがたの決意を一つにし、あなたがたの心をひとつにしなさい。そしてあなた方の霊が一つになれば、あなたがたは融合と一致のうちに、長く共に住みつづけるだろう。

どうか、すべての人間がわたしを友としての目線で見てくださいように。そしてわたしがすべてにおいて友としてみる事が出来ますように。私たちがお互いに友としてみる事が出来ますように。(Yajurveda の祈り)

ランガナサナンダ Rnganathananda (1968) は、お互いへの愛と尊敬はヒンズーの信条である融合の感覚の成果であると述べている。彼は神が人間に語った一節を引用する：

わたしを崇拜する者が他者を侮辱するような事があればわたしは喜ばない。だから、彼等の尊厳を支え、親しみのある態度をもって、分け隔てのない目をもつことで、わたしを崇拜しなさい。(Srimad Bhagavatam)

ヴァスワニ (Vaswani, 2007) はヒンズー教の重要な原則をいくつか挙げています。

- ・ 正しい考えと行動をもって道徳的な生活をおくること

- ・ 自分の欲望と怒りをコントロールすること
- ・ ahimsa（非暴力または侮辱的でない）を実行しなさい
- ・ 人はみな彼／彼女の行いの実りを刈り入れていることを認めること (Karma)

- ・ 内面的な平和の重要性と、内なる変革が家族、社会そして世界の平和の始まりであることを認めること

さらに以下の考え方はシャルマ（Sharma, 2005）による。

- ・ ヒンズー教徒はよい行い、利他的な活動を行い、不用意な言葉や行いによって傷つけ痛みを与える事がないように心がける事を求められている。

- ・ ヒンズーの実践的な教えでは、信者は寛容であり、だれも妬んだりしないと同時に、愛と非暴力をもって暴力を憎むように示されている。

シャルマは、ヒンズー教徒は祈りの最後に“シャンティ (Shanti), 平和”と3度繰り返すことを指摘しています。平和、平和、平和— それは、私たちのなかに、家族のなかに、世界中に平和がありますように、ということを意味しています。

先住民の伝統

世界のどこでも、先住民の智慧は平和のために貢献しています。一つには、彼等が自然に対する深い崇敬の念をもっているからでしょう。そして何度も彼等自身の紛争や論争を、先住民の精神性（霊性）をもとに彼等自身の形を描くことで、平和的に解決する機能を発展させてきました。

世界中の多くの先住民族グループのなかでも、文化的、霊的な実践にいくつかの類似点があります。その一つは、彼等の土地に対する霊的なつながりです。土地を所有している人はいないが、その土地に住む人々が共同体としての権利を持ち、その土地を使用するだけでなく、守り、持続可能な維持管理を行う共同責任をもっている。(Gray, 1999) ブラウン (Brown, 1999) は次のように述べている。「先住民の霊性の基本的な要素として命と自然を含んでいるという簡素さがある。私たちは、所有者でも買い付け人でも売り主でもなく、土地の管理人なのだ。」

パトリシア・ミシェ (Patricia Mische, 1982) は先駆的かつ重要なグローバルな霊性についてのエッセイのなかで、アフリカ人とアメリカ先住民は地球の歩みと人々の生活全体にかかわる霊的な近似性

41 第4章 平和の源となる霊的、信仰の伝統

にある神聖な存在について直感的に理解したと言っています。彼女は、アメリカ先住民族スクアミッシュ族のリーダー、シアトル首長が、1854年にアメリカ政府に部族の土地を売るよう求められた時に言いました。

「わたしたちがどうやったらその土地にある空や暖かさというものを売ったり買ったりできるのか？
そういう考え自体が私たちにとっては奇妙なものだ」

「私たちは地球の一部で、大地（地球）もまた私たちの一部だ。いい香りの花たちは私たちの姉妹で、鹿も馬も大鷲も私たちの兄弟だ。岩山の頂、濡れた草地、ポニーの体のぬくもり、そして人間-すべてが一つの家族なんだ」

「もし、わたしたちがあなたにこの土地を売ったら…あなたの子どもたちにわたしが教えるように大地（地球）が私たちの母であることを教えてくれ。この大地に何か悪い事が降りかかれば、その息子たちにも割ることが起る。人が地面につばを吐きかければ、それは自分自身にかかってくるんだ」

「わたしたちは知っている。地球が人に属しているのではないんだ。人間が地球に依り立っているのだ。このことをわたしたちは知っている。すべてのものは流れる血のように、一つの家族として繋がっているんだ。すべてのものは繋がっている。」

「大地（地球）に起った事はすべて息子にも起る。人間が命を紡いでいるのではない。彼はただそこに立っているだけだ。彼が紡いだものがあるとすれば、それは彼自身のためだけだ」

確かに、先住民（IP）は彼等の土地を神聖なものとしている。マノボ（Manobo、フィリピン、ミンダナオ島の先住民族のひとつ）のある人はこのように言った。「大地は父であり母である」（Marcado, 1998）。また別の人も言う。「神は土地を人々のために創造した。土地、地球が人間を所有している。そこにはいくつもの神聖な場所がある。土地はそこに住み、使い、実りのために働き、そして埋葬され、結局わたしたちは土地のものなのだ。」

わたしたちに語られた上記のような声は、先住民族の世界観である土地は神聖なものであり、土地は命であることを思い起こさせてくれます。世界環境開発委員会の「わたしたち共通の未来」（1987）では、この先住民族の世界観が、自然環境を守るために重要な貢献であることを認めています。ニュージーランド・マオリ族のモナ・ジャクソン（Mona Jackson, 2001）はこの母なる大地との一体感を共有していることを主張し、これが世界の先住民族の特徴であると述べています。

先住民族は土地を神からの贈り物だと信じています。（Bennagen, 1996）これは彼等がもの、サービス、アイデアを分かち合う背景の根本的な要因の一つです。しかしながら、これらの実践のなかで最

も基本となるのが、土地と資源の分ち合いです。これらは精霊と神と共同体のメンバーで分かち合われるのです。

もう一つの原則あるいは価値として多くの先住民族にみられるのが、共同体に根付いた正義の回復方法です。北部ルソンのコルディエラでのインタビューで示されたのは、あるコミュニティのメンバーによって起こされた犯罪や違反について、コミュニティが責任を感じていおり、メンバーによって起こされた損傷はコミュニティがほぼ責任を持って修復していくというものでした。

ミンダナオ島の先住民コミュニティのあるリーダーは、許しと和解についての彼の考えを語りました。「もしあなたが何かを壊したら、直すでしょう。もし誰かを病気にしてしまったら、あなたは彼／彼女を治さなければなりません。ただ許しを請うだけでは十分ではないのです。」別のリーダーは言いました。「ルマド（Lumads セブアノ語で先住民族のこと）は簡単に許します。ルマドは理由が分からない限り判断をしません。」（Marcado, 1998）

以上のような議論はわたしたちの霊的、信仰の伝統が平和の資源として役に立つ事を示しています。わたしたちは、ただそれらの教えの原理原則を再発見し、わたしたちはただすべての人々の平和と福祉のために共通の目標を持っている事を認識しておくことが必要なだけなのです。

異なる信仰に共通する黄金律

キリスト教

「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ（モーセの）律法と預言者（の教え）である」（マタイ 7：12、ルカ 6：31）

イスラム教

「自分自身のためではなく、兄弟のために何かを求める者でなければ信者とは言えない」
（ハーディス/Hadith=イスラム教の聖典）

仏教

「自分自身に行うように他者に行わない者は害をもたらす」（ウダナーバルガ 5.18）

ヒンズー教

「これが徳の本質である。あなたが痛いと感じる事を他の者にするなかれ」

先住民族の霊的伝統

「隣人が行わない事をしようとするな。あなた自身に良い事のために努力するように、他者にも奉仕せよ」

第5章 人間の尊厳を掲げて

Upholding Human Dignity

人間の尊厳を遵守することは社会における平和を築くための価値体系の中心です。人間の尊厳は人間に内在する根本的な価値であると定義できます。それはもはや普遍的に認められている原理であるにもかかわらず、いまだ多くの政府のもと、また地域や社会における現実的な実践としては根づいていません。

宗教の教義においても、人間の尊厳が根本にあります。例えば、キリスト教では、「神は人を神の形に似せて造られた」と信じられており、それはイエスによる「汝の敵を愛せよ」という隣人愛の教えにも通じるものです。

カトリックでは、平和は人びとが「真摯に他者の権利を尊重し、おのれの責務を生きることにより、実現される」（ヨハネ23世, 1963）とするパーチェム・イン・テリス（*Pacem in Terris*, 地上の平和）という画期的な回勅がだされています。イスラム教では、すべての人びとは受精した時から、そして誕生後にも、よろこびに充ち、充足した人生をおくる機会を得る権利をもっている信じられています。

人間の尊厳と平和教育 Human Dignity and Peace Education

人間の尊厳を追求するのが人権教育であるとされますが、それは、より広義には平和教育の範疇とも言えるでしょう。平和教育における重要な概念の一つは、人間の尊厳と福祉の実現です。というのも、これこそが平和の基盤であるという確固たる考えによっています。ベティ・リアドンは、人権の実現が非暴力による社会の基盤であり、そして武力紛争および戦争の原因をなくすことになると、端的に述べています（リアドン・1995）。

フィリピンでは、深刻な貧困と権利侵害が武力紛争の主要な原因になっていると、フィリピン全国統一会議が何度も答申しています（和平プロセス担当大統領顧問室・OPAPP）。と同時に、紛争によって多数の人たちの基本的人権が否定され、著しく侵害されている現状も報告されています。

さらに、マルコス独裁による戒厳令下の暗黒の日々において、そして近年でも、略式裁判による政治的殺害や失踪者が後をたたず、それは非暴力による社会の実現への大きな脅威となっています。教育は、人びとが暴力は否定されるべきことであると知り、暴力根絶への決意を持ち、行動し、生活するうえで重要な役割をはたさなければなりません。また、教育は、生命な

らびに尊厳を尊重し、すべての人の福祉を促進するための確信と実践を奨励すべきです。

世界の子どものための平和と非暴力の文化国際10年（2001年から2010年）にあたり、ユネスコが取り組んだ「わたしの平和宣言」（Manifesto 2000）には7000万もの署名がなされました。この宣言の1つに「すべてのいのちと尊厳を尊重する」（Morales in Abueva(ed.),2004）とあります。これは平和と人間の尊厳を守ることとのぬきさしならない関係を示すものといえるでしょう。

世界人権宣言 The Universal Declaration of Human Rights

国際的に人権の重要性が認知されるようになったのは、第二次世界大戦の終結期であり、それが、国連の設立となり、1948年の国連総会で、人権宣言が採択されることにつながりました。以下に各条の項目抄訳をあげておきます（Flower, 1998）。

第1条—平等の権利

第2条—差別からの自由

第3条—生命、自由、身体の安全への権利

第4条—奴隷とされない自由

第5条—拷問又は残虐な、非人道的なもしくは屈辱的な取り扱いをされない自由

第6条—法のもとに人として認められる権利

第7条—法のもとの平等である権利

第8条—正当な裁判によって救済される権利

第9条—不当な逮捕・拘禁また追放されない自由

第10条—公開での聴聞の機会を得る権利

第11条—立証されるまで無罪と推定される権利

第12条—私事、家族、家庭もしくは通信に対する干渉されない自由

第13条—国内外への移転および居住する権利

第14条—迫害を免れるために他国に避難する権利

第15条—国籍をもつ権利および変える自由

第16条—結婚および家庭をもつことの権利

第17条—財産所有の権利

第18条—思想および宗教の自由

第19条—意見および表現の自由

第20条—平和的集会および結社の権利

第21条—政治参加および民主的選挙の権利

第22条—社会保障の権利

第23条—正当な就労と労働組合への参加の権利

第24条—休息や余暇を得る権利

第25条—健康や食べ物、住居などの十分な生活水準を得る権利

第26条—教育への権利

第27条—社会における文化活動に参加する権利

第28条—この宣言にのっとった社会的秩序への権利

第29条—これらの権利を完全に実現するために欠かせない社会の義務

第30条—これらの権利に対する国家および個人による侵害

（ヨーロッパ評議会『コンパスシート』福田 弘訳（明石書店）
pp. 337 - 339）

<http://about.me/kasan>

平和教育地球キャンペーン [<http://gcpej.jimdo.com/>]

フェイスブック [<http://www.facebook.com/GCPEJ>]

英語教育ほか <http://www.sainet.or.jp/~kasa/>

45 第5章 人間の尊厳を掲げて

人権宣言は、ていねいにみると、主に市民のおよび政治的、経済的、社会的、文化的権利の5つからなっていることがわかります。また、人権は、であることの自由、あるものをもつこと、あることをすることの自由、そして非人間的な状態におとしめられないこと、とも表現されます。以下、人権宣言の条文を類別してみましょう。

市民的権利 Civil Rights

第3条—生命、自由、身体への安全への権利

第4条—奴隷とされない自由

第5条—拷問又は残虐な、非人道的なもしくは屈辱的な取り扱いをされない自由

第9条—不当な逮捕・拘禁また追放されない自由

第10条—公開での聴聞の機会を得る権利

第11条—立証されるまで無罪と推定される権利

第12条—私事、家族、家庭もしくは通信に対する干渉されない自由

第13条—国内外への移転および居住する権利

第16条—結婚および家庭をもつことの権利

第19条—意見および表現の自由

政治的権利 Political Rights

第14条—迫害を免れるために他国に避難する権利

第20条—平和的集会および結社の権利

第21条—政治参加および民主的選挙の権利

経済的権利 Economic Rights

第17条—財産所有の権利

第23条—正当な就労と労働組合への参加の権利

社会的権利 Social Rights

第22条—社会保障の権利

第24条—休息や余暇を得る権利

第25条—健康や食べ物、住居などの十分な生活水準を得る権利

第26条—教育への権利

文化的権利 Cultural Rights

第18条—思想および宗教の自由

第27条—社会における文化活動に参加する権利

女性差別撤廃条約 The Convention on the Elimination of All Forms of Discrimination Against Women

女性差別撤廃条約は女性の国際権利章典として知られており、女性の権利を包括的に示した唯一のものであり、政治的および市民的、経済的、社会的、文化的側面で構成されています。1981年9月に発効しました。フィリピン政府も他の185諸国とともに署名をしています。(日本国は1985年に締結)

女性への差別は、世界の多くの地域において、長年、問題となっています。女性は、性別により尊厳をうばわれ、不当に扱われ、多くの女性が人権の十全な享受および基本的自由を阻害されています。

国連女性開発基金女性差別撤廃条約実施支援 (UNIFEM CEDAW) 東南アジアプログラムから発刊されている冊子によれば、女性差別撤廃条約の目的は次のとおりです。

- ・女性の実質的な平等をもたらすこと。女性の生活において実際に何らかの成果をもたらす取り組みを政府がすすめることが求められる。
- ・女性が不利になるような措置や政策はいかなる目的にかかわらず禁止される。
- ・女性の権利の実現をさまたげるような文化や伝統を変えるよう、また政党は女性を差別する偏見や因習、規範を変えるよう取り組む。
- ・家庭における暴力も女性の人権侵害であり、公的・私的という区別はしない。

30条からなる条約を次にあげます。(Reardon, 1995):

女性差別撤廃条約

第1条 差別の定義

- ・性別にもとづく、区別、排除、制限であって、人権およびあらゆる人間活動における根本的な自由を行使することを阻むもの、阻もうとするもの

第2条 差別をなくすための政策

- ・現実的な実現のために国内の憲法や規範、法律に平等の原則をさだめる

第3条 基本的人権ならびに根本的な自由の保障を、男性と同等に保証する

第4条 平等を達成するための暫定的特別措置

- ・暫定的特別措置がとられるが、平等が実現した後は廃止される
- ・いずれかの性に優劣をつけるような実践は撤廃する

第5条 性的役割および固定観念

- ・性別役割のステレオタイプやいずれかの性に優劣があるかのような固定観念を根絶するために、社会文化的パターンを是正する

- ・家庭教育においては、子育ての際に男性と女性が共通の責務を分有することを教える

第6条 売買春

- ・女性に対するすべての人身売買や売買春における搾取をなくするための施策をおこなう

第7条 政治的および公的活動

- ・あらゆる公選の機会に投票でき、選挙される権利
- ・政府・行政機関の政策決定に関与し、あらゆるレベルでの公職に女性が就くこと
- ・NGO（非政府組織）に参加すること

第8条 国際的レベルでの参加

- ・国際的なレベルで、自国を代表する機会を得る、また国際的な組織に参加すること

第9条 国籍

- ・国籍を取得し、または変更し、保持するのに男性と平等の権利を得る
- ・自分の子どもの国籍にたいしても男性と平等の権利を得る

第10条 教育における平等

- ・教育や職業訓練の機会の平等
- ・奨学金や助成金への機会の平等
- ・識字教育を含む生涯教育へのアクセスの平等

第11条 雇用

- ・男性と同様の雇用の権利を得る
- ・職業、雇用、研修の選択の自由
- ・給与、手当の平等、同一労働同一賃金を得る
- ・妊娠時は危険な仕事から保護される

第12条 健康ケアおよび家族計画

- ・妊娠から出産までの適切なサービスを得る

第13条 経済および社会的手当

- ・家族手当、ローン、借入れへのアクセスの平等
- ・余暇活動、スポーツ、文化的活動への参加の平等の権利

第14条 農村の女性

- ・家族を経済的に支え、あるいは無報酬労働が女性によってなされているという農村における女性の特有の問題を考慮する
- ・開発への男性と対等の参加
- ・適切な生活水準を、住居、衛生、電気、水、交通、通信などについて保証される

第15条 法のもとの平等

- ・男性と同等の法的地位の保証。契約行為、財産の管理、あらゆる段階の裁判への参加が保障される。
- ・移動の自由、家や住所を選ぶ権利

第16条 結婚および家族法

- ・結婚や家族関係において男性と同等の権利と責任を持つ

第17 - 22条 委員会について詳細を決める

第23 - 30条 条約の施行についての詳細を決める

女性差別撤廃条約が締結されたことによって、女性を保護するための法律がフィリピン政府によってつくられました。セクハラ禁止法（RA 7877）やレイプ禁止法（RA 8353）、レイプ被害者支援・保護法（RA 9208）人身売買禁止法（RA 920）、女性や子どもに対する暴力禁止法（RA 9262）ができ、女性問題担当の部署がフィリピン国家警察、社会福祉局、健康局その他の政府省庁に設置されました。

最近では、国連安全保障委員会が二つのランドマーク的な決議を、女性の権利について出しました。一つ目は2000年10月31日の安全保障委員会によって採択された「女性と平和、安全に関する国連安全保障理事会決議1325」であり、二つ目は2008年6月19日に採択された（1325決議の完全履行を継続する）1820決議です。

「女性と平和、安全に関する国連安全保障理事会決議1325」の主要な点は次ぎのとおり。

- 加盟国に、紛争を予防し、対処し、解決するための国家や地域国家連合および国際的な、あらゆる政策決定の場において、女性の参加を増やすよう求める。
- 国連事務総長は、国連活動において、特定の分野のみならず、平和維持や平和構築にあたって、女性の役割と働きを広げることがを求める。
- 和平交渉をすすめるにあたって、またその合意において、紛争後の復興において女の子も含む女性にたいする特別な必要があること、また復興後のさまざまな施策に地域の女性からのほたらきかけを取り入れるといったジェンダーに配慮する視点をもつよう求める。
- 武力紛争の当事者は、性的虐待やレイプという性暴力から女性や子どもを守るという国際法を遵守しなければならない。

また、安保理決議1820の主な点は以下のとおりである。

- 武力紛争にかかわるすべての関係者は、ただちに性暴力をなくし、性暴力から民間人を守るよう求める。そのために、規律の徹底や責任を果たすための施策が施行されなければならない。
- レイプをはじめとする性暴力は戦争犯罪であり、人道に対する罪であり、ジェノサイドと同等の行為であるとの注意を喚起する。したがって、紛争解決の方策ための特赦の規定に入れてはならず、性暴力被害者を保護し、性暴力の責任を追及するよう加盟国に要請する。
- 国連平和維持と人道支援にかかわる関係者が、紛争予防や解決についての女性や女性に関する組織から意見を聞き、ガイドラインをつくり、民間人を守ることでできるよう研修をおこない、性暴力を防止し、対処するよう必要な方策を講じるよう事務総長に求める。
- 紛争後支援としての平和構築において、武力紛争の最中や紛争後になされた性暴力をあきらかにするというのも平和構築にたざさわる組織の重要な役割であると強調されている。
- 武力紛争や紛争後の状況において、性的暴力の被害者にたいする支援を、あらゆる関係機関すなわち、加盟国ほか国連や地域国家間連合や、より小さな単位で提供できるよう求めている。

以上のようなことが、女性の権利の保護や促進を強化する前向きな変化をもたらすでしょう。しかしながら、国連および政府や非政府組織の努力にもかかわらず、女性にたいする差別的状況をなくすことは、いまでも、世界のどこにおいても、引き続きの課題であるのです。

子どもの権利条約 Convention on the Rights of the Child

子どもの権利条約(CRC)は1989年に国連総会で採択され、1990年9月に発効しました。子どもの権利を固有の権利として、保護し、高めるために取り組むことが、はじめて認められた画期的な文書です。

子どもの権利条約は54条あり、次の4つの分野で構成されています。

1. 生存権は、生きるためにもっとも基本的な重要ないのちとニーズへの権利である。この権利はいのちを授かった時に、はじまり、すべての子どもは誕生とともに健康と栄養を得る権利がある。

2. 発達の権利は、子どもが潜在的な能力を十分に発揮することである。思想や信条、宗教の自由、適切な情報を得ること、教育やレクリエーション、文化活動も含まれる。

3. 保護される権利は、子どもは弱い存在であるとの認識から、自己のアイデンティティや国籍を保持するために守られるべきものである。虐待や適切なケアをされないままにいたり、児童労働、薬物、性的虐待、売春や人身売買、性取引、拷問、拘禁や武力紛争による被害からも守られる権利を有する。

4. 参加の権利は、子どもたちが地域や国家において主権者として積極的な役割を果たす権利のことである。

次に簡略された子どもの権利条約の条項をあげます。

子どもの権利条約

第1条 子どもの定義

18才以下のすべての人びとが子どもである。ただし、適切な法的手続きにもとづき成人した者をのぞく。

第2条 差別の禁止

国家はあらゆる差別から子どもたちを守らなければならない

第3条 子どもの最善の利益

子どもの最善の利益が最も優先される

第4条 権利への措置

子どもの権利を実現するために国家が負う義務について

第5条 親および家庭、地域における権利と責任

国家は親や家庭の子育ての機能を尊重する

51 第5章 人間の尊厳を掲げて

第6条 いのち、生存、発達

国家は子どもの生存と発達を確保しなければならない

第7条 名前と国籍

生まれた時から、名前や国籍を得て、両親を知り、ケアされる権利

第8条 アイデンティティの保持

国家はアイデンティティの保持にあたり、不法に侵害された際は、再度、回復のための支援をする

第9条 親からの分離禁止

国家は、家族が離散した場合には、子どもおよび量感に対して、家族についての情報提供をしなければならない

第10条 家族の再会

両親が異なった国にいる場合でも、子どもが彼らと定期的に連絡を取り合う権利を有する

第11条 移送・不返還

国家は第三者や親による子どもの誘拐を防がなければならない。

第12条 意見表明

子どもは意見を表明し、聞き届けられる権利を持っている

第13条 表現・情報の自由

芸術、絵画、印刷物、文書などを含むあらゆる形態の情報を求め、手に入れ、発信する権利

第14条 思想・信条・宗教の自由

国家は、この権利について、子どもに親が方向性を示す権利と義務を尊重し、またそれは、子どもの能力の発達に従って、行なわれるべきである

第15条 結社の自由

結社と平和的集会をする権利

第16条 プライバシー、名誉

プライバシー、家族、家庭、通信へ介入されない

第17条 情報やメディア

子どもは情報へのアクセス権を持つ。子どもに危害のある情報から守られるよう必要な注意がはらわれる

第18条 養育の責務

母親父親も育児に際して、対等な親の責務があり、それを果たすための支援がなされる

第19条 虐待や放任（家族の養育下でも、その他の養育下であっても）

国家はあらゆる虐待および放任（ネグレクト）から子どもを保護する義務がある。さまざまな社会的支援措置や支援が得られるようにする

第20条 親が欠けた子どもにたいする代替養護

代替的なケアを講じる際には、子どもの宗教的、文化的、言語的、民族的背景が継続されるように、国家は注意を払うこと

第21条 養子縁組み

国家は、正当な機関によってのみ養子縁組がなされることを確保する。国をこえる養子縁組は国内での解決法が尽くされた場合にのみ、考慮される。

第22条 難民の子どもの保護

子どもの難民には特別な保護がなされる。国家は国際機関との協力により、家族から離散した子どもたちが家族と再会できるよう取り組む

第23条 障害児への特別支援

社会において、より十全な生活がおくれるように特別なケアや教育のための手当てが得られること

第24条 健康・医療

病気を予防し、なおすための医療・保健サービスが得られるようにする。かつ、伝統的になされる子どもたちに対して有害なことは段階的に廃止していく。

第25条 公的審査

ケアや予防措置、治療を受けている子どもたちは、定期的な検診や審査（チェック）などがなされる

第26条 社会保障

社会的安全への子どもの権利

第27条 生活水準

子どもの発達に、親が適正な生活水準を提供する責任について

第28条 教育

無償の初等教育の権利、職業訓練が得られること、退学率を減らすこと

第29条 教育の目的

教育は子どもの人格と能力を育成し、責任ある社会生活をいとなみむ成人への準備をなすものであり、人権尊重を学ぶものである。また、当該国および他の地域の文化的また固有の価値を尊ぶ。

第30条 少数弱者や先住民族の子ども

少数弱者や先住民族に属する子どもが、自分の文化を享受し、また宗教を実践し、言語を使用することができるようにする

第31条 遊びと余暇

遊び、余暇活動への権利、また文化的、芸術的生活をおくることができる権利

第32条 経済的搾取からの保護

子どもが、搾取あるいは危険な労働からの保護される権利

第33条 麻薬および向神経薬

麻薬や向神経薬などからの保護ならびに、これらの生産や流通に関与させないこと

第34条 性的搾取からの保護

買売春や子どもポルノへの使用の禁止

第35条 誘拐や売春および人身売買からの保護

国家は子どもが誘拐や売春および取引されない責務をもつ

第36条 いかなる形態の搾取からの保護

第37条 拷問、死刑、自由の制限からの保護

国家は、拘留中の子どもについて義務を負う

第38条 武力紛争下における保護

15才以下の子どもは、軍事行動に従事させてはならない。また、15歳以下の子どもは徴兵してはならない。

第39条 回復および社会復帰

国家は、武力紛争や、拷問、搾取の被害にあった子どもの回復ならびに社会への復帰について責務を負う

第40条 少年司法

訴追された子どもの扱いを通して、子どもの人としての尊厳の感覚が促進されること

第41条 他の国内法における子どもの権利

第42条 この条約の流布

締結国は、この条約を市民や子どもに知らせる義務を負う

第43-54条 この条約の履行

これらの条文は、CRCが条約の施行を監督することを記している

権利と責任 Rights and Responsibilities

私たち自身の権利が尊重され、守られ、促進されることを期待するとともに、わたしたちは、それに伴う責任を喜んで果たす必要があります。自分の権利ばかりを推進して、他者の権利は考えないということはありません。わたしたちがわたしたちの権利を行使しているとき、わたしたちは、他の人の権利を侵害したり、否定したりしてはならない。

例えば、教師は学校という場で働き、正当な賃金を得る、また表現の自由とともに、差別や抑圧されないという権利がある。と同時に、自らの責務を最善をつくして果たすとともに、他の意見や自分とは異なる生活のあり方を尊重するのである。同様に、生徒や同僚をつねに尊重する必要がある。

人権を教え・学ぶためのアイデア

人間の尊厳を教える際、「どのように教えるかが、教える内容」となる。教師のあり方や、教え方、人間の尊厳を高め、生徒に対して人間らしく接することの基準として、次のような項目をあげる（Flowers, 1998）。

- ・人権に関して、教師あるいは指導者（ファシリテーター）は、生徒がちがう立場であったとしても、生徒の意見をしりぞけることなく、偏見をもたずに考えるようにする。
- ・文化の多様性を踏まえるようにし、民族やジェンダー、宗教、文化・国のさまざまな伝統などのものの見方の多様性が反映されるような活動をつくる。
- ・内容と学び方のいずれにも配慮する。例えば学習の場が人間の尊厳や公平さを尊重するようになっていなければ、人権や正義に関することがらを探究することは困難となる。
- ・講義は最小限にし、ロールプレイ（演劇的手法）や話し合い、模擬裁判、ゲーム、シミュレーションといった参加型のやり方を用いる。
- ・過剰に人権侵害をとりあげないようにする。すべての人にとっての人権の積極的な価値としての側面を強調する。
- ・それぞれの人が変化を起こすことができるということ、また、そのような事例を提示し、肯定的な考えを促進する。

これまでの人権宣言や女性の差別撤廃条約、子どもの権利条約など主な人権文書を読み、また背景への理解も深めることにより、人権意識を醸成する。例えば、人権宣言を読んだ後、「人権の木」をつくる活動を行う。紙を葉っぱの形に切り、人権についての事例を一枚に一項目ずつ書いたものを配る。二人組あるいは、3人あるいはグループで、自分に配られた事例から話し合いをすすめる。

1. これらがすべての人に保障されているべきだと自分は、考えられているか、いないか。その理由は。
2. 自分の経験や、見たこと、読んだことなど、どのようなことが、その権利を推進する、あるいは侵害することになるか。
3. この権利を実現するために何ができるであろうかを話し合う。まず、小さなグループで話し合い、そして大きなグループで、また全体で共有するようにすすめる。話し合いをすすめ、生徒は黒板のところに出てきて、つくった自分たちの人権の葉を、あらかじめ見出しがつけられた5つの人権の類別をあらわす枝のいずれかに、ふさわしい場所を考えて貼るようになる。教師は、人権をめぐる課題や、取り組みについて発言する。例えば、毎年**12月10日**の世界人権デーにおける自分たちの取り組みを企画を促すこともできよう。地域の人権にかかわるNGOか

ら関係者を招いて話を聞くことや、特定の問題に対して、署名や、請願、手紙を書くこともできるであろう。また、自らの生活を省みて、その暮らしぶりが、他の人の権利を侵害したものとなっていないか考えてみる。自分たちの権利の侵害には、親類や教師に助けを求めるよう促す。(例えば、父が母を殴るといった場合など。)

権利には責任も伴うということを明確にするために、生徒に白紙のカードに自分が持つべき3つの権利について書き出してもらおう。別のカードにそれぞれが対応する責任を書くようにすすめる。そして生徒は、カードに何を書いたか、とともに次のことがらについて、2人組になって、話し合う。:その人権に対して書かれた責任は妥当か。その人権を主張する人が、責任は果たないとしたら、その人のことをどう思うか。その場合、結果はどうなるだろうか。

黒板や壁面に権利のカードを貼り、他方にそれらに対応するように責任のカードを貼る。必要なら、まとまりごとに集めて見出しをつけたりする。自分たちでならべたものを見てとって、全体で話し合う。さらに、可能であれば、自分にとって侵害されている権利があるか。どのように感じるか。その侵害の責任は誰にある(あった)か。また、現在、そのなかから自分たちが充足している3つの権利をあげ、それらに対して自分たちの責任について考え、それらにどう取り組むか2人組か少人数からなるグループで計画をたてる。教師はその計画が実行できるよう支援する。

最後に、人権の理解を深め、行動できるように、これまでの人権への取り組みの模範例を示すとよい。マハトマ・ガンジーやマルチン・ルーサー・キング、ツツ大司教、オスカー・ロメロ、ダグ・ハマショールド、アウンサンスーチー、ローザ・パークス、ロベルタ・メンチュなど歴史的人物や宗教的指導者、政治家、活動家など。生徒のレベルにもよるが、彼らに自分たちの地域や国家の偉人を探させるのもよい。

第6章 偏見を正し、寛容を築く

Challenging Prejudice and Building Tolerance

人類は人種、民族、宗教、性、ジェンダーや社会的経済的な階層による違いに対して、次第に冷酷になってきています。わたしたちは偏見や差別の言い訳として「違い」を作ってきた。民族や宗教の不一致は本格的な武装闘争へと変わり、多くの命が亡き者とされてきました。今後、多様性への寛容を築く事は、違うことが暴力を正統化してしまうような憎悪につつまれた世界に、緊急に求められていることなのです。

偏見とは、何の根拠もなくとも、ある人やグループに抱く否定的な感情や態度のことです。(オルポート、1958) ステレオタイプとは不十分な知識に基づく、人やグループに対する否定的な見方のことです。差別とはある特定のグループに所属する人に対する否定的な行動であり、それは忌避、嫌悪、そして暴力にまで至るものだと言われています。(Franzoi, 1986) ステレオタイプ、即ちあるグループに対する否定的な見方を信じていることは、偏見的な感情の根拠となり、言い換えればそれは否定的な行動や差別につながっていくのです。

偏見についての理論 Theories on Prejudice

偏見がどのように始まり、伝えられ、維持されて行くのかについての理論は幾つもあります。その中で影響力の強いものの一つに、社会的学習理論 (Altemeyer, 1981) があります。偏見とは、時には何世代にもわたり、ずっと続いて行くものであり、家庭や学校、メディアを含む様々な場をとおして補強されていくというものです。偏見は無知や情報不足から生まれるものであるとも言われています。(Betlehem, 1985) それはまた、自分や自分のグループが他より勝っていると考える人の傾向であり、その結果、そのグループに所属しない事を理由にした人々への誹謗中傷につながっていきます。(Social Identity Theory, Tajfel & Turner, 1979)

偏見の様々なかたち Types of Prejudice

はじめの頃は、偏見は単純に人種差別と同じものだと考えられていました。しかし、別の形の偏見も存在していることが気づかされてきました。そこでここでは、偏見について主に以下

57 第6章 偏見を正し、寛容を築く

のようなものにも拡大してとらえていきます。

- 人種差別主義

ある人の所属する文化的、人種的にひき継がれてきたものが、他より本来的に勝っているために、“異なる人種”に属する人々に対して、尊敬や高い評価を与える事ができないこと

- 性差別主義

性による違いを根拠に、女性を劣った者とする態度、行為、組織的な構造によるシステム (McGinnis & Oehlberg, 1991)

- 異性愛主義

レズビアンやゲイの人々に対する否定的な態度

- 階級主義

貧しい人々から距離をおき、“他の人”として認識すること (Lott, 1995)

- 言語差別主義

支配的な言語を話す人たちが、その言語を話さない人に対してもつ、否定的な態度 (Chen-Hayes, Chen & Athar, n.d.)

- 年齢差別主義

若い人、あるいは高齢者に対する否定的な態度

- “見た目主義”

ある人々が美しさの標準に至っていないため、その人々に対する偏見。通常、太っている、痩せ過ぎ、色が黒い等の人が犠牲となる事が多い (Nario-Galace, 2003)

- 宗教的不寛容

自分自身とは違う宗教を信じている人々に対する偏見

寛容のための教育 Education for Tolerance

偏見は寛容を教える事によって変える事ができるかもしれません。寛容とは、文化や人間の

さまざまな表現のかたちがある豊かな多様性に対して、尊敬、受容、肯定的な評価を行うことです。(UNESCO,1995)

これは民主主義と人権の基礎となります。寛容の教育は、恐怖や嫌悪、他者の排除につながるものに対抗することを目的としています。寛容とは自分とは違う人々も自分と同じように権利を持つ者である事を知っていることです。

なぜ、寛容を教えるのか？UNESCO は教育の最も効果的な意義は不寛容の防止であると断言しています。異なる文化を肯定的に受け止め、人間の尊厳に敬意を払い、紛争を防ぎ、対立を友好的に解決していく市民を育てる教育が学校でも必要とされています。

教育を通して、違いのある他者に対する憎悪のプロパガンダを信じる事のないようにすることは必須です。主要な宗教はみな信者たちに自分にするように他者を敬い、尊厳をもって接する事を求めています。さらに、人権についてのさまざまな方法によって偏見を正すことは重要な事とされています。国は国際的な合意や条約によって思想、良心、宗教、意見、表現の自由としての人権を擁護し、推進する事を確約しています。「人種及び人種差別に関する宣言」の1条2項では「すべての個人と団体は違いのある存在である権利がある」ことを明記しています(<http://www.unesco.org>)。さらに、寛容を教える事は、実践的な新しい方法なのです。不寛容は社会において暴力やテロリズム、差別を生み出すもととなります。さまざまな要素の中で、違いに対する敬意が欠如は、2者の、あるいはそれ以上のグループの間の紛争の火種となります。たとえば、北アイルランドのカトリック対プロテスタント、イスラエルにおけるイスラエル対パレスチナ、ボスニアのセルビア人とコソボのアルバニア系の人々、ルワンダのツツ族とフツ族、そしてミンダナオ島のキリスト教徒とイスラム教徒など上げられます。世界保健機構によると100秒に1人の割合で武力紛争での死者が増えています。寛容のための教育は人権を守り、命を救うことのなのです。

学校においては、偏見をもっていると、学業成績やセルフエスティーム（自尊感情）に負の影響を与えています。(Ancis,et.al,1993) その被害者たちが学校をドロップアウトすることもよく起ります。また、孤立や疎外を感じた被害者の心理的な健康は損なわれ、身体的な健康も負の影響を受けます。(Nebille et Al, 1997) 被害者は自分の能力に否定的な見方を自分にも取り込んで、だから他の人たちはこのように扱うのだし、自分の持っている力を発揮していきることができません。Levine (1997)によると学校において偏見の犠牲者となるのは、特にできない子かとてもできる子か、経済的に不利な子ども、見た目が普通より劣っている子ども、そして何か障がいがある子どもであることが多いと報告しています。被害者たちは、

59 第6章 偏見を正し、寛容を築く

仲間はずれにされ、あざけられ、身体的にも痛めつけられるのが普通です。

B.Harro (1982) は、人間は社会に生まれおちた時からすでに、ステレオタイプと偏見をもって生まれてくると主張しています。これらのステレオタイプと偏見は人間が社会化されていく家庭や組織の中で強化されて行きます。

平和教育センター(CPE)では、フィリピン各地で行ったワークショップの参加者たち、主に教師と生徒を対象にしたワークショップで、彼等が特定の人々のグループに持っている先入観について調査を行いました。参加者たちは、自分たちが育つ中で受けたそのグループについてのメッセージを紙に書き出してみました。驚いた事に、これらの偏見メッセージの多くは、もしそのまま受け取れば心が傷つくものでした。幸い、社会科のサイクルの中で強化されるこれらの先入観は、教育を通して是正されていくことができるのです。

CPE のワークショップで参加者から寄せられた先入観の言葉のリストを上げておきます。

- 英語が話せない人 ばか、おろかも、ぐず、無知、貧乏人、活動家

- 体重が重い人 ブタ、見にくい、もてない、大喰い

- 頭が良すぎる人 うんざり、一匹狼（寂しい）、ダサイ、リンゴ磨き、先生の犬、友だち無し、わざとらしい、付き合いが悪い、堅物／窮屈

- とても見た目がいい人 ワル、ゲイ／レズビアン、お高い、大げさなヤツ、淫らな、成り上がり、うぬぼれ屋、のろま、俗物、遊び人、あばずれ

- 田舎、地方出身者 あか抜けない、文明化されてない、ダサイ、〃、下男／召使い、おろかも、鬼婆、無知

- 色肌のきれいな人 大げさ、偉そうな、金持ち、わざとらしい、いばった

- 肌の色の黒い人 みにくい、貧乏人、スラムの人、黒い羊、信用出来ない人、泥棒、土方／建設労働者

- お金持ちな人 わざとらしい、お高い、官僚、欲深い、抑圧者、気難しい、

利用する人、ワイロ、

- アメリカ人 お高い、自分勝手な、操る人、日和見主義、人種差別者、物質主義、乱暴者、傲慢、上から目線、
- イスラム教徒 誘拐者、暴力、売国奴／裏切り者、テロリスト、殺人者、戦争好き、チンピラ／暴力団、ケンカ好き、狂信者
- お年寄り 自分だけが正しい、すべて知っている、気にし過ぎ、気難しい、厳しい、使えない、心が狭い、古い学校
- 子ども／若者 手に負えない、無責任な、ガキ、何にもわかってない、図太い
反逆的な、粗野な、破壊的な、自分勝手な
- 男性 自慢タラしい、上から目線、いんちき、女たらし、賭博師、マニア、戦争マニア、怠け者、怒りっぽい、自分勝手、権力志向
- 女性 感情的、気まぐれ、弱い、ガミガミ小言を言う、おしゃべり、家に縛られている、上辺だけの、うぬぼれ、物質主義、泣く子、大げさ

学びあいのアイデア

偏見とは自分中心の判断、一つの正しい方法でしか世界を経験することはできないという考え方に基づいています。(Aboud,1998) 正しくあるということに幾つもの方法があることを知ることが、学校が提供出来ることであり、生徒がより開かれた信念を取り入れることができるようになります。

寛容を教え／学ぶための方法を上げておきます。

- あなた自身の先入観を調べてみましょう。クラスの中で、身体的に、あるいは社会的経済的

61 第6章 偏見を正し、寛容を築く

に優れていて、好感を持てる生徒はいますか？

- 言葉は意識を形づくるものですから、包括的な、そして／または差別しない言葉を使ってみましょう。

例：“人／男性（Man）”ではなく“人間”、“黒人”ではなく“アフリカ系アメリカ人”、“年寄り”ではなく“高齢者”、“デブ”ではなく“重い人”

- 生徒同士お互いに、ほめる言葉を掛け合しましょう。ただし、性や社会経済的な地位とは関係のないもので。あなたがもしも、身体的に魅力的な人をほめる傾向があるか、等。

- 多様性は豊かであるという考えに注目してみます。違いは祝福されるものであり、物笑いのタネにしているものではなく、私たちは他の人々から多くの新しい事を学ぶということです。それはフルーツサラダが、様々な違った香りや色の果物から作っていても、とてもおいしいものになっているというのに似ています。

- 教材や教室の飾り等を用いて人種的な、身体的な多様な表れをみせてみましょう。

- 私たちの教科書や参考書、副読本やカリキュラム、コースの作り方のなかに、例えば、性、人種、民族、宗教等に関する先入観があるかどうか、調べてみましょう。

- 生徒が今いる所について知りましょう。彼等が違いに関して持っている見方を率直に表す事ができるようにしましょう。Stern-LaRosa と Betmann (2000) および「寛容を教えるプロジェクト」(1991) に述べられている事を以下に示しておきます。

● 眼に見えることで一つの意見を持つことは公正ではありません。人の肌の色はその人の心に何の関係もありません。

- 本来的に人がコントロール出来ないものでなく、正統な基準で友人をつくることを勧めます。

「肌の色を変える事が出来ますか？」 「例えば、髪の手触りがいいことが、友だちになることに関係しますか？」

- 人を攻撃するチームの一員としてみるよりも、ある個人としてみる事が重要です。
- 自分に対するイメージを健康的にもっている人は、他の人々の価値を下げるようなことを進めたり、続けたりしません。

・新しい、または外国からの生徒が歓迎されている雰囲気をつくりましょう。転校生は注目を浴びますが、多くの場合仲間から笑い者にされたりすることもあります。昔からいる生徒に新しいメンバーの友達になるように勧めて行きましょう。

・肌の色を比べ、対比させて、それぞれの色の美しさや多様性を強調しましょう。

もしも、あなたの生徒の中で、目につく肌に色の違いがある場合、以下の活動を例示しておきます。そのような生徒がいない場合は、写真をつかって、肌の色の違いを示す事も出来るでしょう。

幼稚園か小学校の生徒に、丸く輪になって手を横に伸ばすように言います。

- 何をみましたか？
- それを見て、どう思いましたか？
- これは何を伝えようとしているのでしょうか？

活動の終わりに、人はみな違うパッケージを持っていて、それぞれが特別なもので、他の人への贈り物なんだ、と伝えましょう。「人は贈り物」の歌を歌う事も出来ます。

人は神様から私に送られた贈り物
それは一つ一つ違った包み紙
ゆるく包んだものもあれば、きっちり包んだものもある
でも、包み紙は贈り物じゃない

わたしは神様からの贈り物
わたしはそれを受け取るのかな？
わたしは人、だからこそ
すばらしい人生の贈り物

わたしもだれかへの贈り物？
それはきっと、あなたや、あなたへ贈られたもの。
わたしたちはみんな人、みんな贈り物
さあ、みんなで贈り物の交換をしよう

63 第6章 偏見を正し、寛容を築く

- 人種や文化に対する偏見について書かれた物語（例えば、ローザ・パークスやマハトマ・ガンジーの話）は生徒に偏見の被害者の視点をもつための導入となるでしょう。

例：ローザ・パークスの物語

1955年12月1日、黒人の裁縫婦をしていたローザ・パークスはアラバマ州モンゴメリーの仕事場から家に帰ろうとバスに乗っていました。1日の仕事でぐったりと疲れていた彼女は、白人専用席との境界からすぐ後ろの列に座っていました。バスは満員でした。また白人の乗客が乗り込んで来たので、バスの運転手は分離法に基づいて、彼女に白人男性に席をゆずるように命令しました。彼女は静かにそれを拒み、その後、逮捕されました。

出典：Holmes, Robert J., ed (1990). *Nonviolence in Theory and Practice*. CA: Wadsworth Publishing Company

- 生徒にこの物語についてどのように感じたか聞きましょう。
- 生徒に今日の世界では異なる伝統や信仰、民族の集団によって成り立っている事を伝えましょう。
- みんなに聞きましょう：あなたがローザ・パークスだったらどうしたのでしょうか？もしあなたが、白人の乗客だったらどうでしょう？
- 生徒に、不寛容の結果としては、集団どうしの対立になる事を伝えましょう。
- 生徒に、この事態であってほしい状況はどんなものか想像してみるように伝えましょう。
- 生徒に世界は意見の衝突ではなく、連帯が求められている事を伝えましょう。

・リソースパーソン（外部講師）を招きましょう。異なる民族、社会的経済的階層、宗教をもつ人たちに、自分たちについて、仕事、希望、夢や叶えたい願望など語ってもらいます。平和や人権の提言を続けている先住民の方をお招きしましょう。これは“2つのろうそくに灯をともし”ことに役立ちます。一つは生徒にある問題についての目を開く事、もう一つは、多様性のなかにある共通点について、生徒が知る事になるからです。

・生徒が、自分とは違っていると思う人々と一緒に活動する機会を作りましょう。ゴードン・オルポート(1958)は異なる人々と相互に影響を与え合うような機会を設けることが偏見縮小に役立つという彼の接触理論をのべています。

違う社会経済階層、文化、民族が違う人々と生徒が、相互に影響を与えあう、没頭出来るような、または姉妹／双子校プログラムはとても成果のなるものとなるでしょう。

ここでは姉妹／双子校プログラムを紹介します。

理解と平和の架け橋を築く

ミリアムカレッジとラジャムダ高校の姉妹校事業

双子校事業はマニラのケソン市にあるカトリックのミリアムカレッジ（MC）と、ミンダナオ中央部にある紛争地域、コタバト市、イスラム教地域のピキット（Pikit）にある公立高校ラジャムダ高校（RMHS）とで立ち上げた事業です。子の事業のテーマは「理解と平和の架け橋を築く」であり、MCとRMHSの生徒が、お互いの文化をよりよく理解しあい、現在イスラム教徒とキリスト教徒の間にある偏見という障壁を取り除くことを目的としています。手紙が両校を行き来し、ペンフレンドが育って行きました。

双子校事業は手紙の交換をこえて発展して行きました。共同発行のニュースレターを定期的に刊行し、エッセイや詩や絵など両校の生徒が寄稿したものが掲載されています。お互いに手紙をやり取りし、ひとり一人と友情を育み、武装紛争のさなかにあるラジャムダの地域の問題に気づき、正義、協力、連帯そして相互に尊敬し合い、違いがあってもお互いを受け入れることの必要性を理解する事を生徒がいかに大切に思っているか、彼女たちの貢献を見ればわかります。ニュースレターのタイトル「パガサ」は希望を意味するもので、生徒の話すタガログ語でもマギンダナオン語両方で使われています。これは、希望が平和を築くための基本的な要素であることからもぴったりでした。

事業のハイライトは生徒がお互いに会う機会が与えられる事でした。ワークショップでは手紙で知り合った友達と語り、双方の文化的和解を推進するための活動に着いても話し合われました。

事実、私たちが行きている社会は分断の長いリストがあり、文化、宗教、民族の違いによる違いや格差が存在します。その格差によって視野が狭くなる事も多いのです。二つの学校はサンプルですが、意義のある事業に乗り出す事で、この格差を埋めようとしています。そしていま、私たちは次第に橋を渡す作業に少しずつ成功しているのです。

- 国連の日のお祝いに、衣装を着てパレードをしよう！

生徒に、異なる文化のダンス、ゲーム、言葉や表現をクラスメートに教えてあげよう（例：平和を他の言葉でいうと、等）。他の文化の人々の食べ物をもってきて、持ち寄ったものの簡単

65 第6章 偏見を正し、寛容を築く

に説明してもよいでしょう。

- 異なる信仰や文化背景をもつ生徒に、みんなに信仰や生き方について説明する機会をつくりましょう。そして、全ての生徒がそれぞれの信仰や生き方を尊敬し合えるようにしましょう。
- 前もってやる活動として、生徒がまず自分たちを肯定的に受け止められるような場づくりが必要です。The self-fulfilling prophecy theory 自己実現予言理論によると、人は他の人が思う通りのものになっていくと言われています。よい自尊感情は調和のとれた関係を進めて行くための、礎となります。

活動例：

それぞれの人の背中に紙を貼り、みんなその人の良い所を書くように言います。全員が書き終わったら、それぞれ自分の紙に書かれたコメントを全部読むように言います。そして、そのときの気持ちについて聞いてみましょう。

- もしも、文化や性別や宗教、社会経済状況や身体的な違いによって仲間はずれにされているなら調停し、とりなしていきましょう。
- もしも、生徒が他の人を傷つけたり、差別したりするような記述をした場合は介入します。(たとえば、女は弱い、男は泣くな、貧乏人は泥棒、イスラム教徒はテロリスト、等)
- 憎悪には反対し、生徒自身に、人が差別されたり、傷つけられたりする時には、それを止めるように促して行きましょう。

次に上げるのは、Stern-LaRosa と Betmann(2000)によって書かれた「偏見に反対する誓い」です。生徒に、これを個人の誓いとしていかどうか聞いてみましょう。その理由も。

わたしは、本日から、偏見を阻止し、止めさせるために、最善を尽くす事を誓います。偏見は、憎悪、傷つける事、ハラスメント苦しめる事、すべての人の市民的権利への暴力の原因であるからです。わたしは、自分と違う人々に対する自分の先入観を常に自覚するようにします。わたしは、私がりかいない文化や宗教や人種に関する事は問いかけるようにします。わたしは、人種、宗教、民族と性的指向の違いによって人をあざけり、威圧し、実際に傷を負わせるような人にははっきりと反対します。わたしはそのような攻撃の対象にされる

人を支援するために行動します。わたしは、私の学校や他の生徒、そしてわたしの地域コミュニティが人々を尊敬し偏見のない区域となるようにするための特別な方策を考えて行きます。わたしは、憎悪に反対する際に「罪のない傍観者」であることは絶対に出来ないと固く信じています。

- 生徒に行動することを呼びかけましょう。彼等に偏見と差別に立ち向かうために適正にすべき事を反映させた文章を完成させるように言いましょう。

例えば：「差別をなくすために、私は～～～します」

本当に、現実として、偏見や差別の問題を創造的に、倫理的に解決することが必要です。偏見を縮小することは確かに手に余るような仕事です。あまたの新しいやり方の中で、寛容の為の教育は、多様性のど真ん中で人々が共に平和のうちに生きる世界を見たいと思う人々にとって、試す価値のある選択肢なのです。

第7章 非暴力をすすめる

Promoting Nonviolence

2005年、32の軍事対立が世界27の諸国で勃発し、軍事支出は1.2兆ドルにも上りました。これらの軍事衝突の41%はアフリカで起こり、41%はアジアで起こりました。(Project Ploughshares, 2006) 毎日1000人もの人々が軍事的暴力のせいで死んでいます。(Control Arms, 2006).

毎日、世界では8億人もの人が飢え、2万8千人もの子どもが貧困のせいで死んでいます。

暴力に直面しつつも選択肢を探る Options in the Face of Violence

直接的あるいは構造的な暴力に直面した時、人間には三つの選択肢があります。何もしない、暴力に対して暴力で対抗する。非暴力で対応する。の三つです。

抑圧、圧迫に対して何もしないことは、抑圧的圧迫的システムが拡大することを奨励するでしょう。行動することができない理由には、恐怖、無力感、無関心などがあるでしょう。対抗的暴力に訴える人々は、正義感に駆られて、あるいは自分自身の尊厳を守るためだと言います。しかし、暴力は犠牲者に怒りと苦しみを生み出し、危険な悪循環を始めてしまいます。一方で、非暴力は、「犠牲者を沈黙と無力感から解き放ち、理解と連帯へと向かう状況をつくり出します。非暴力は、悪循環を断ち、交渉へと扉を開く危機的状況を生み出すのです。(ML. King, Jr., 1963, cited in Holmes & Gan, 2005).

非暴力とは何か? What is Nonviolence?

非暴力、あるいはアヒンサーは、他の人間を害することを拒否することです。なぜならば、いのちは聖なるものであり、絶対的な価値であるからです。それは人間は、変わることができるという信念から来ています。

AKKAPKA(Aksyon para sa Kapayapaan at Katarungan / Action for Peace and Justice (1987)は、非暴力を「原則」であると定義します。それは「人間一人ひとりに崇高な価値を見だし、破壊してはならないものだと考える生き方であり、そのような方向へと変化するためのツールなのです。非暴力は、真実を追求し、正義と連帯の可能性、和解をつくり出そうとします。抑圧され

た人と抑圧者を、倫理的説得と、非暴力直接行動の実践と圧力によって解放しようとするものです。」

非暴力の原則のいくつか What are Some Principles of Nonviolence?

マハトマ・ガンジーは、インドの人々を英国の属国から連れ出した人ですが、次のような信念を非暴力について持っていました。

- ・ 人々が収奪を受け入れる限り、収奪する者、されるものは不正義に絡めとられるのだが、一度収奪されるものがこの関係を拒絶したら、協力することを拒否したら、彼らはそれだけで自由である。
- ・ 非暴力と臆病は並び立たない。武器の所有は、臆病ではないとしても、どこかに恐怖の要素を含んでいる。
- ・ 一人の人間とその人の行動は、二つの異なるものである。罪を憎んで罪人を憎まず。
- ・ わたしたちが戦い返せば、わたしたちが破壊者とされ、彼らは遵法者となるだろう。
- ・ 「目には目を」は世界全部を盲目にする。
- ・ 非暴力は対立者たちを転向させ、理性の声に耳を傾けさせる力がある。
- ・ 非暴力は活用されている手段が、目指されているものと同じほどに純粋であることを求める。悪かける悪は善にはならない。

マーティン・ルーサー・キング Jr はガンジーの原則に賛同し。さらに次のことを付け加えています。

- ・ 非暴力は対立するものを打ち破ったり、名誉毀損したりはしない。求めるのは友情と理解である。
- ・ 非暴力は不正義を打ち破ろうとしているのであり、人ではない。
- ・ 非暴力は憎しみではなく愛によって栄える。
- ・ 非暴力は苦しみを進んで受け入れ、迫害のなかでも規律を保てる力を要求する。
- ・ 非暴力は、苦しみは人を育て、超形成すると信じる。

過激な抑圧状況、極端な貧困や経済的不公平、人権侵害や抑圧にあっては、非暴力を信じることを人々に説得するのは難しいことです。そのような状況では憎しみと怒りが被害者、およびそのシンパを支配し、権力にある人々に対抗する武力闘争へと駆り立てます。ネルソン・マンデラも、彼のフラストレーションがもっとも高かった時期、南アのアパルトヘイトに対して「帝国主義者たちに聞かせるただ一つの言語は力である」と思っていたのです。

なぜ非暴力なのか Why Nonviolence?

それは倫理的・道徳的選択です。主要な宗教と哲学的伝統は、いのちの尊重について教えます。ジャイナ教では、賢人は「殺さず、殺させず、殺すことに同意しない」と教えられます。老子は、道教の始祖ですが、「武器は悪の道具であり、善き統治者のものではない」と教えました。仏教では、「不殺生」というのは、すべての仏教徒の行動の基盤にあるとします。すべての人は、仏陀の本質から生まれ、「他の命を奪う権利は誰にもない」と信じられています。

ヒンズー教では、アヒンサーというのが最善の賜物であり、最高の教えだと考えられています。イスラム教では、「生徒も助なく人のいのちを奪うものは、すべての人間のいのちを奪うに等しい」と考えられています。ユダヤ教では、信者たちは、「暴力の人を羨まず、彼の道を選ばないこと」を奨励されます。キリスト教では、刀を使うものは、遅かれ早かれ、それによって破壊されると教えています。

破壊は、人間の法ではありません。(Gandhi, 1931). ジグムント・フロイトは 1920 年に、攻撃は、潜在的な心理の安定さを守るために、他のものにとって変えるべき本能であると書いています。同様に、コンラッド・ローレンツは、1966 年に、攻撃性は適者生存の進化のなかで、適応する機能を果たしていると示唆しています。しかし、1986 年、スペインのセビリアでの会合に集まった世界の科学者たちは、攻撃性は、人間性に根ざすものだという前提に反対する声明を出しています。

以下は、セビリア声明の要点です。

- ・ 戦争は避けられないものではない。何世紀もの間、戦争をしなかった文化がある。
- ・ 暴力的な姿勢は、人間に遺伝的に組み込まれているわけではない。遺伝子は、発達のための可能性を提供するが、その発現は生態系的社会的環境によって実体化するのである。
- ・ 人間は暴力的な脳を持っていない。わたしたちの脳神経的構成に、暴力的な反応することを強いるものは何もない。わたしたちがどう行動するかは、わたしたちがどのように条件づけられ、社会化されているかによって形成させている。
- ・ 生物学は、人間を戦争へと追い込むものではない。「戦争は人の心に始まる」と同じく、平和も、そこから始まる。戦争を発明した同じ種が平和を創造することができる。その責任は一人ひとりのわたしたちにある。

セビリア声明は1963年にBandura, Ross & Rossが出した理論を支持しています。攻撃性は遺伝ではないが、社会化のプロセスの中で学ばれたものであり、学ばれる可能性がある。殺すこと

は人間の本質にはありません。人間は、通常の条件では、攻撃性よりも協力を好むものなのです。(SIPRI-UNESCO, 1997).

非暴力は実際的な選択肢です。暴力のツールと結果は高くつくのです。 Stockholm International Peace Research Institute (2005)は、成果の軍事プログラムへの支出は一兆ドル以上に上ると報告しています。その41%が米国によって支出されています。武器に対する支出だけでも、アジア、中等、ラテンアメリカ、アフリカの諸国は、平均で年に220億ドルを支出しており、それだけで、すべての子どもたちを就学させることができる金額です。(Control Arms, 2006)

非暴力は効果があります。非暴力直接行動のサクセス・ストーリーの古典的な事例は、マハトマ・ガンジーによって主導されたインドの英国からの独立、マーチン・ルーサー・キングJr.によって主導された1964年の市民権法と1965年の投票権法につながった運動でしょう。この法律によって、全米のどこでも、公衆の差別が撤廃され、黒人の参政権が認められるようになりました。

以下は、非暴力のその他のサクセス・ストーリーです。

- ・ 1986年に、フィリピンは、世界を非暴力行動で驚かせました。人々は、フェルディナンド・マルコスの独裁政権を非暴力的な「民衆パワー」と呼ばれる行動で転覆させました。非暴力直接行動は、2001年に、不道徳で墮落した大統領だと思われていたジョセフ・エヒルキト・エストラーダを転覆させるためにも使われました。
- ・ 1988年に、チリの人々は、ピノチェト支持の「Yes」投票を打ち破ることに成功しました。ピノチェトは、15年間にわたる独裁政権をしき、何千人もの人々が拷問され、死刑にされ、追放されました。無残な襲撃が繰り返され、市民権は制限されました。出版社は閉鎖され、学校は査察されました。教会は、ピノチェトの犯罪を広く知らせる試みによって、チリの人々の惨状に対して国際的な注目を集めることに貢献しました。
- ・ 南アフリカの人々は、ネルソン・マンデラとデズモンド・ツツ司教のリーダーシップによって、1948年に「白人の優越性を維持」するために導入された人種隔離政策・アパルトヘイトを終わらせることに成功しました。1989年に当時のウィルヘルム・デ・クラーク大統領が対立グループに対する活動禁止令を解除し、政治犯を釈放し、メディアに対する緊急事態制限状態を終結させました。1994年にネルソン・マンデラが、南アの初めての黒人大統領になりました。
- ・ 中米で、オスカー・アリアスは、対話と非暴力的説得によって、ホンジュラス、グアテマラ、エルサルバドル、ニカラグアの大統領を説得し、米国とソ連からの軍事援助の受け入れを止

めることに成功しました。その他の項目も含めた平和協定が締結されたのは1987年のことです。中米は、二大勢力の冷戦の場であったのです。アリアスの非暴力方術は、それまでに、対立の紛争の最高潮にあっては20万人もの市民が死傷した中米に平和をもたらしたのです。(Arias, 2005).

非暴力直接行動とは何か What is Nonviolent Direct Action?

ジーン・シャープは、2005年に198の非暴力行動のリストを出しました。非暴力行動は、抵抗、非協力、介入などを、直接的物理的暴力を使うことなく実践することで説得する方法です。

以下に、シャープがあげている方法のいくつかを紹介しますが、多くは、世界のあちこちで、非暴力闘争の中で使われてきたものです。

図8 非暴力直接行動の例

非暴力抵抗と説得-異議をとる人々に気づきをもたらすために

- ・ 請願
- ・ 横断幕、ポスター
- ・ ロビイング
- ・ 公務員につきまとう
- ・ 歌う
- ・ マーチする
- ・ 祈りのラリー
- ・ 擬似葬式
- ・ 反乱

非暴力非協力-対立する勢力に対して、システムの通常のオペレーションを難しくする

- ・ 消費者によるボイコット
- ・ ゼネスト
- ・ 市民的不服従

非暴力介入

-対抗勢力に対し、直接的に対峙する

- ・ シットイン
- ・ ハンガーストライキ

非暴力行動の目的地はどこか What are the Goals of Nonviolent Action?

マーチン・ルーサー・キングJrは、8人の同僚の牧師たちにあてた「バーミンガム牢獄からの手紙」で1963年にこう書いています。非暴力行動は、不正義の状況をドラマ仕立てにし、問題に向きあわないことの不利益について圧力を高めるためであると。彼は、非暴力直接行動は対立勢力に交渉への扉を開けざるを得なくなるような、緊張と危機的状況をつくり出すのだとも言っています。

加えて、非暴力直接行動は、被害者を沈黙と無力感から解放します。これは、立ち江波、チリの場合、顕著でした。彼らは何年もの間、沈黙のまま、苦しんでいたのです。非暴力直接行動は、すべての男性、女性、子どもが独裁政権を転覆させるために尽くすことを可能にしたのです。

非暴力直接行動は、注目を集め、その結果、より広い幅の人々から支持を得るようにするものです。世界中から人々が、ヒンズー教徒が、英国政府に協力している軍隊からむち打たれ、抵抗もしないで地に倒れこむのを、観ているのです。世界の人々からの抵抗が、インドの英国からの独立を認めることを促進したのです。

非暴力直接行動のステップ What are the Steps in Doing Nonviolent Direct Action?

異なるグループには、異なる非暴力直接行動のステップがあります。非暴力社会変革のためのマーチン・ルーサー・キングJr. センターが「バーミンガムの牢獄からの手紙」から取り出したステップは以下のようなものです。第一段階は、不正義が存在することを確認するデータ集めです。情報を調査、收拾することは、どのような非暴力闘争でも大切な第一段階です。フィリピンで、エストラダ前大統領を覆すためには、彼のマンション、妾、蓄積された富みについてのレポートや写真が助けになりました。それらは、フィリピン調査ジャーナリズムセンターによって集められたものです。

次のステップは、問題についての人々の意識化です。公式的・非公式的な教育が、被害者たちに、彼らの惨状を理解し、彼らとその状況から抜け出すことが可能であることを理解させます。現存する不正義について「対立勢力」の意識変革を行なうことは、彼らレベルからの共感を得るのに役立ちます。また、彼ら自身の変容のプロセスも助けます。

第三段階は、母集団の組織化と連帯の形成です。不正義について知ることは、グループが形成され、非暴力闘争が始まれば、変化へとつながるのです。組織化は、不正義の状況分析、立場の明確化、反応の予測などを含みます。フィリピンの非暴力闘争には、さまざまな、まじめなものから笑いを誘うようなものまで、多様な組織が作られました。例えば、エストラダを

失脚させるために作られた組織の中には、TSE (Tsugiinsi Erap), PARE (Peoples' Action to Remove Erap) and CODE RED (Resign ErapDali)などがありました。その上で、全体としてのリーチを広げ、影響力を高めるために、連合が作られました。(Dionisio, 2005)南アフリカでは、アパルトヘイト反対の闘争は、1983年の統合民主フロントUDFの結成につながりました。

通常、非暴力闘争の最終段階は、さまざまな非暴力行動の実践です。この段階では、組織する側の創造力が、発揮されます。ガンジーが活用した有名な方法は、シンボルを焼くこと、ボイコット、マーチ、集会です。当時、人種差別されていたアメリカにおける市民権運動は、ランチカウンターでのシットインで有名になりました。マーチン・ルーサー・キングJrに率いられて、有名な「わたしには夢がある」というようなスピーチを広げる集会が行なわれました。チリの市民社会組織は、テレビの力を使って、ピノチェトが準備したplebisciteをサボタージュしました。フィリピンの人々は、マルコスと愚妻政権への抵抗を示すために祈りを使用しました。

非暴力闘争の目的は、変革です。ジーン・シャープ(2005)は、4つの変革のメカニズムを上げています。

学びあいのためのアイデア

- ・ 転向 対立者は非暴力行動の終結を見通すところまで来る
- ・ 受容 対立者は、転向はしないが、いくつかのあるいはすべての要求を受け入れた方がよいと結論を出した。
- ・ 非暴力的弾圧 対立者は闘争を続けることを厭わない。が、力が削がれたためにできない。
- ・ 崩壊 対立者の力が解消された状態

毎日、暴力の状況はネガティブな影響を個人に対して及ぼしています。攻撃的な行為が増加し、戦争に対する無感覚が広がり、戦争が避けがたいと条件づけが行なわれるなどが、人々の暴力的な状況に曝され続けることの結果です。暴力を直接体験する人は、被害者を肉体的、感情的、心理的トラウマ状態に放置し、結果怒り、恐怖、不安が生まれます。

教員たちは、学習者が非暴力の意義を認め、暴力に対する代替案として推奨することを学ぶようにできるでしょう。非暴力的な人間を育てるためのいくつかの提案があります。

- よき役割モデルを示す。いらいらする状況でのわたしたちの言語、表現、行動を精査する。わたしたちのリクリエーションやエンターテイメントをふりかえる。わたしたち自身の

戦争に対する態度を点検する。学習者はスポンジのようなものである。彼らは、彼らの聞いたこと、見たことを吸収する。

○生徒と平和的な学級のルールは何かを決める。ルールを決めるのに関わることで、生徒はそれに従おうという気持ちになる。リストを人が見やすい場所に掲示する。ルールが破られた時には参照する。

○厳罰的な行動よりも平和的対立解決の技術を考えてみる。

○よい行動を推奨し、報償し、認める。

○怒りのコントロールの技術を教える。(深く呼吸する、10数える、動転した時は、祈りの言葉をつぶやく、など)

○協力についての物語を話す。

○生徒に愛国心と人類全体に対する心配りの両方を教える。狭く極端なナショナリズムは敵愾心を育ててしまう。わたしたちが一つの種に所属していることを強調することは、学習者が「いい奴」と「悪い奴」を単純に分けて考えることを止めさせることにつながります。

○平和のヒーローについて話す。戦争のヒーローは、社会科のカリキュラムでは神格化されている。オスカー・アリアスOscar Arias, ローザ・パークスRosa Parks, アウン・サン・スー・チーAung Sang Suu Kyi, ニノ・アキノ Ninoy Aquino, デズモンド・ツツ司教Archbishop Desmond Tutu, ワンガリ・マータイWangari Maathai, アブドル・ガーファー・カーンAbdul Ghaffar Khan, フランツ・ジャガスタッターFranz Jagerstatter, などについて語ることで、バランスを取る。

○学級やキャンパスにおけるいじめやその他の暴力について語り、行動をとる。

○非暴力的とうそうについての映画やドキュメンタリーを見る。例えばガンジーなど。そして、生徒が非暴力のリーダーの信念、教え、原則についてふりかえりを行なえるようにする。

○生徒に、非暴力について、そしていのちの尊重について、主要な宗教がどう教えているか、調べるよう伝える。いちばん好きな教えをポスターにするように伝える。

質問例

1. 非暴力のリーダーたちのどの原則が一番魅かれますか。それはなぜですか。
2. これらの原則や教えは、今日の世界にも応用可能でしょうか。それはなぜですか。

○生徒が彼ら自身の戦争反対の非暴力キャンペーン推進道具を作ることを許す。(ポスター、チラシ、スローガン、戯画、詩、歌、署名、手紙、その他)

○関連する政治問題について「編集者への手紙」を学級で書く。よくできたものを主要日刊紙に送る。

○生徒を国会に連れて行き、武器コントロールや地雷禁止などについてロビイする。

○ケース分析を行い、ロールプレイする。暴力の状況を提示し、生徒に分析させ、それを非暴力的な方法でどのように解決していくかのロードマップを作成させる。状況に効果的に対応することができる方法を、一つ、演じさせる。

○生徒に非暴力行動を推進する人をインタビューさせ、彼らの原則や提案しているテーマは何か、質問させる。

○宗教的聖的指導者、非暴力実践者の思想について生徒とともに学んだ後、これらの人々からの引用リストを作成する。他の生徒に、誰がどれを言ったか、当てさせる。以下はサンプル。

誰が何を言ったかな? Who Said What?

すすめ方: 学級で、次の引用されている言葉を誰が言ったか知っている人を探す。このクラスメートに、あなたのリストの該当する部分に署名してもらおう。あなたはあなたのリストに署名できません。一人の人は、あなたのリストには一度しか署名できません。

1. 毒草を植えて、バラを咲かせることはできない。答え _____ 署名 _____
2. 武器は悪魔の道具、善き統治者のものではない。答え _____ 署名 _____
3. 怒りは怒りを生む。人を殺すことを知るものは、殺される。答え _____ 署名 _____
4. 平和はナショナリスト気取りと軍拡では達成できない。平和は基本的な人間のニーズに添えることによってのみ達成できる。答え _____ 署名 _____
5. 抑圧者も、被抑圧者同様解放されるべきである。なぜならば、いずれも人間性を剥奪されているのだから。答え _____ 署名 _____
6. 遠くで起こる暴力への無関心は、非暴力ではない。答え _____ 署名 _____
7. 人間の物理的構成は、平和的なものへの傾向を持ち、憎しみあるいは暴力に向いているのではない。答え _____ 署名 _____
8. 正義を成すための暴力は、非現実的であるだけでなく、不道徳である。非現実的であるというのは、すべてのものの破壊へと堕ちて行くからであり、不道徳であるというのは、転向するよりも、全滅させるものだからである。暴力は愛ではなく憎しみによって栄える。暴力はコミュニティを崩壊させ、兄弟愛を不可能にする。暴力は、それ自身を破壊して終わる。生き残ったものには苦しみを、破壊者には残忍さを造り出す。答え _____ 署名 _____
9. 悪かける悪は善ではない。わたしたちはわたしたちの蒔いた種から生まれたものを刈り取るだけだ。答え _____ 署名 _____
10. あなたを害する人に報復してはならない。答え _____ 署名 _____

(Answer Key: 1. Gandhi, 2. Lao Tzu, 3. The Buddha, 4. Arias, 5. Mandela, 6. Dalai Lama, 7. Dalai Lama, 8. MLK, Jr., 9. Gandhi, 10. Jesus)

アクティビティの後、次の質問について話し合う。

- ・ これらの引用された言葉は、何をわたしたちに伝えているだろうか。
- ・ これらの教えは、今日的な状況にも当てはまるだろうか。

非暴力は現実的でお勧めの代替案です。なぜならば、それは力の根源そのものに挑むからです。シャープが言うように、人々が大きな数となって政府への支持や協力を止めれば、権力は崩壊、分裂します。さらには、現在進行中の技術革新は、世界の市民が、世界で起こっている残忍さを簡単に知ることができるようにしていくでしょう。そのために、国際的なメディアや国際的な非暴力非政府組織がすばやく反応し、人々を不正義に対して立ち上がるようにさせることが難しくなくなっています。政府は残忍な政権に対しては、経済的特権を保留し、制裁を加えることをためらわなくなりました。これら、そして、その他の要因によって、抑圧された人々は不正義に対して非暴力的に対抗する上で、より自由度を増していると、Ackerman and DuVall (2000)は指摘しています。

第8章 戦争システムに挑む

Challenging the War System

「戦争」という言葉の語源は、「werra」というフランク語ドイツ語にあり、それは混乱、不一致または争いを意味します。スタンフォード哲学百科事典 (SEP, 2005) は、戦争を政治的共同体による実際の、意図的で広範囲にわたる武力衝突と定義します。政治的共同体とは、国家あるいは、国家をめざす意思のある実体です。戦争が、古典的あるいは国際的であるというのは、それは国家間のこと、あるいは、市民または国内でのこと、一国内での対立集団または地域共同体間でのことかということです。スタンフォード哲学百科事典は、非国家主体が「政治的共同体」とみなされる可能性、即ち、政治的な目的をもつことに注目します。

侵略と大規模な武力衝突（という言葉）は、「戦争」という言葉と互換的に使われます。侵略は、国連によって、ある国による、別の国に対する、主権、領土保全、政治的独立に対する、あるいはその他に対する武力行使であると、定義されます (www.un-documents.net)。一方、Project Ploughshares (2006) は、大規模な武力衝突とは、少なくとも 1 つの国家（または国の全部または一部の支配を目標とする一つ以上の武装党派）の軍隊が関係する、そして、紛争がもつ過程で 1000 人の死者を出した政治的な対立として、定義します。

2005 年、27 カ国で 32 の武力衝突がありました。その 41% はアフリカで、もう 41% がアジアでした (Project Ploughshares, 2009)。ストックホルム国際平和研究所-ユネスコ (SIPRI-UNESCO, 1996) は、古典的な国家間の紛争が徐々に少なくなり、そして、内部的な対立が現在の戦闘場面を支配していると記します。

何が戦争の原因でしょう？戦争の原因を、攻撃性はヒトの生来の本能にあるという主張を真実であるという人としての人間にあると思っている人々がいます。攻撃性は人間性の避けられない特徴である主張は、ジークムント・フロイトとコンラート・Z・ローレンツによって提案されます (Krahe, in Semin and Fiedler, 1996)。

しかし、この主張は、ユネスコに支持される「暴力に関するセベリア声明」によって異論が出されました (www.portal.unesco.org)。この声明は、戦争または他のどんな激しいふるまいもわたしたちの人間性に遺伝的にプログラムされないと説明します。声明はさらに、「暴力は、わたしたちの進化の遺産でもわたしたちの遺伝子のいずれでもない」こと、そして「わたしたちがどのように行動するかは、どのように条件づけられ、社会化されるかによる」ことを提起します。

戦争の原因についての可能性 Possible Causes of War

領土問題が、戦争のより一般的な原因とみなされてきました。フート(1998)は、領土問題を、祖国や国境を明確にしなければならない場所や状態について、集団間での意見の相違であると定義します。領土問題は、一国が、祖国の一部またはすべてに主権を行使する他国へ挑戦することでもあります。

歴史で最も顕著な領土問題は、イスラエルとパレスチナ間にあるものです。領土問題に関する文脈における他の例は、フィリピンのモロイスラム解放戦線、バスク人分離主義者によるものなどが含まれます。領土問題は、ロシアにおけるチェチェン人による独立または主権の要求としてもしばしば結びつきます。

相違に対する寛容さの欠如が、表面化した紛争の原因です。相違の可能性は、国籍、部族のつながりにありえることです。しかしながら、しばしば、相違は他の要因（例えば土地を巡る争い、政治的あるいは経済的抑圧）に起因する対立を悪化させます。アフリカのツチとフツの間の緊張は、ある集団が不当な扱いを受けたと感じた植民地主義の歴史に起因します。

イデオロギーあるいは権力闘争は、いろいろな国での戦争の原因となっています。イデオロギーは、力がどのように配分されるべきか、または、社会は、どのように機能しなければならないかなど指針となる一組の信条です。国家の背景をもたない武装グループまたは力の保有者が、それぞれもっている政治的なイデオロギーが、人々のためにより貢献できるとの思いで、多くのグループが現状に疑問を呈しているのを見ることができます。ネパールの毛沢東信奉者、ペルーの「輝く道 (Shining Path)」、フィリピン共産党 (CPP) と新人民軍 (NPA) によるイデオロギー戦争の例です。

「戦争と平和」ペンギンアトラス(2003)は、戦争が今日、最貧国に集中することを示します。国連人間開発報告書において低開発国と分類される国のうち、56%は、1997-2001年に内戦を経験しました。事例報告が示唆することは、戦争は、個人間の不公平によるものではなく、グループ間の不公平にあること、不公平と分類されるものが戦争の原因であるということです。一国内にあるグループあるいは地域間の不公平は、結果として暴動を生み出し、反乱の機会を増大させます (カトリック正義と平和の協議会、2007)。スーダンでの戦争は、不公平と分類される対立の例です。フィリピンでは、フィリピン人間開発報告書(2005)は、武力衝突の頻度は、所得の貧しさの発生率に直接関連がないと断定します。どちらかといえば、武力衝突の確信にあるのは剥奪と不正です。「電力、教育、安心して飲める水そして道路事情というような基本的サービスの有無は、コミュニティが、自分たちが恵まれているか否かを考える際の重要な構成要素です」 (28 ページ)。

植民地主義と非植民地化のプロセスの歴史は、武力衝突のもう一つの原因です。しばしば、権力の委譲は、支配と権力を争っている国の中で、グループの問題となります。アフリカにおける、広範囲にわたる戦争は、人々が植民地化の経験から完全には立ち直らなかったことを示します。アフリカ大陸の多くの国は、内戦や独立戦争を経験しています。スーダンとコンゴ民主共和国は、長期にわたる戦いを経験しているアフリカの国の例です。

紛争はまた、資源獲得競争、極端な人権侵害、権力に固執する指導者の欲求、狭隘あるいは極端なナショナリズム、極端な国家主義、そして国境を越えての親族への思いなどが原因となります。権力を拡充するための競争、冷戦時代の政治及び経済的遺産、そして武器入手の容易さが、暴力の高揚をたかめる要素なることが確認されています。(Carnegie Commission on Preventing Deadly Conflict, 1997)

戦争の影響 The Effects of War

戦争の最も恐ろしい結果は、死者です。WHO (2002)は、毎日 100 秒に 1 人が武装行為の結果で死亡していると報告します。「戦争と平和」ペンギンアトラス(2003)は、戦争で死ぬ人々のおよそ 75%が一般人または非戦闘員であることを示します。別の資料によれば、90%以上が一般人であることが示されています。ユニセフによると、「戦時における一般人の死は、世紀初めの5%から 1990年代には90%になった」といいます。

戦争はまた、戦争中になんでもありと思われることで、何が許容できるかを越えた行為としての残虐行為のコミットメントにつながります。

大虐殺、拷問、失踪、レイプをふくむ性暴力、処刑、暗殺、爆破、焼き殺しそして誘拐、ひどい行為の例です。1994年、ルワンダでは、6週間で800,000人が死にました、そして、大量虐殺で生き残った多くの女性は強姦されました(ペンギン・アトラス、2003)。コンゴ民主共和国では、国際救出委員会は、2003年以来、原因としての性的暴力の事例を40000件登録しました。(International Geneva Centre for the Democratic Control of Armed Forces, 2007)

戦争はまた、人々を自分たちの家から引き離します。20世紀末、戦争及び迫害への恐れから家を離れ、国外あるいは国内難民になった人の数はおよそ4000万人であると見積もられます。

(ペンギンアトラス, 2003) イラクでは、2003年以降、440万人以上のイラク人が自分たちの家を捨てました。;200万人以上は国内に、そして、200万以上が近隣諸国に移動しました。

(Christian Peace Witness for Iraq, 2008)

戦争は、武器が増える原因となります。世界中で核兵器として確認される数は、26,000。うち12,000が、格保有国として認められる9つの国で、活動状態にあります。(NGO Committee on Disarmament, 2007) 近年、核兵器の使用の脅威は増大しています。もう一つの懸念事項は、地雷の問題です。地雷は、戦争が終わったあとも、長い間、効果を発揮します。毎月、2000人以上が地雷爆発によって死ぬか、障害をもたらしています。そして、死ぬ人々のほとんどは一般人です。(Hague Appeal for Peace, n.d.)

一方、小火器はそれほど高価でなく、かつ有効なため、ほとんどの武力衝突に選ばれる兵器です。今日、世界でおよそ8億7500万丁の銃が流通しています。小火器による死者は、毎年、紛争による死の60-90%を占めます(IANSA 国際小型武器行動ネットワーク、2007)。IANSAはまた、毎日、銃による死者は1,000人、およそ250人が戦争または武力衝突によるものといっています。銃の74%は、現在、民間人のもとにあります。そして、およそ800万丁の新しい小銃が、毎年製造されます。ストックホルム国際平和研究所は、この4年間で、通常兵器の量が50%増加したと記します。皮肉にも、5つの安全保障理事会の常任理事国は、世界の通常兵器輸出の88%を占めます。次の表は、Richard Grimmett's CRS Report に示される、2001年から2008年までにおける、最も大きな武器輸出国のリストです。

図9. 主要武器輸出国

1.アメリカ	41%
2.ロシア	17%
3.フランス	8%
4.英国	7%
5.中国	3%
6.ドイツ	4%
7.イタリア	3%
8.その他のヨーロッパ	11%
9.その他の国々	6%

1.	USA	47%
2.	Russia	15%
3.	France	10%
4.	UK	7%
5.	Germany	5%
6.	Netherlands	2%
7.	Ukraine	2%
8.	Italy	2%
9.	China	1%
10.	Belarus	1%

the Penguin Atlas of War and Peace (2003):

政府予算の膨大な額が防衛に割り当てられることで、戦争は開発を妨げます。結果的にお金は、戦争あるいはその準備によって吸い上げられ、それによって人口の大きな部分は保健や教育など基本的なサービスを奪われます。

毎年、世界は軍事費としおよそ 1 兆 5000 億米ドルを使います。(ストックホルム国際平和研究所、2009)そして、開発援助に 1 ドル費やされるたびに、軍事費に 10 ドル使われます。(Control Arms, 2007)2008 年に、アメリカ合衆国は、6070 億ドルの支出で、世界の軍事費の 41.5%を占めました。それは軍事費が最も高い他の 14 カ国の合計を上回っています。毎年、平均して 220 億ドルがアジア、中東、ラテンアメリカとアフリカの国々の武器購入に使われます。この額は、当該諸国におけるすべての子どもを学校に通わせるミレニアム開発目標の達成を可能にしたでしょう。(Control Arms, 2007)10 億人以上が貧困ライン以下で生きる世界で、武器支出は、一人当たり 217 米ドルに達します。それと対照的に、2015 年の目標日時まで、ミレニアム開発目標を達成するのに十分な額が 1 年に 1350 億米ドルです。そのことをローマ法王は、「軍備拡大競争は、武器が使われるか否かに関係なく人を殺す」という表現で警告しました。

戦争は、子どもたちに遊び場ではなく、戦闘地域を踏ませます。ペンギンアトラス (2003) は、300,000 人以上の子どもたち (18 才以下と定義される) が世界中で戦っていると報告しました。新兵募集は、しばしば力づくです。子どもは、メッセンジャー、戦闘員、そして粛清分隊のメンバーとして雇われます。(PHDR, 2005) 彼らは、料理をしたり、掃除をしたり、パトロールのような仕事をします。Ploughshares は、15 才未満の子ども兵士が、ハイチ、コロンビア、イスラエル/パレスチナ、イラク、スーダン、コートジボアール、コンゴ民主共和国、ソマリア、ウガンダ、ブルンジ、ソマリア、アフガニスタン、ネパール、インド、ビルマ、スリランカ、インドネシアとフィリピンの戦場で歩き回っていると報告します。フィリピンでは、

the Philippine Coalition to Stop the Use of Child Soldiers は、子どもたちの 10~30%がフィリピン共産党かモロイスラム解放戦線の影響下にあるコミュニティの兵士として徴兵されると報告します。(as cited in ILO-IPEC, 2004).

戦争は、多くのさまざまな結果をもたらします。人々は、自分たちの生計と食物供給へのアクセスを失います。戦争は、投資の損失を引き起こします。;資産と環境を破壊します。そして、観光事業の機会を破壊します。それにもまして戦争は、子どもたちの教育を混乱させ、住民の間で恐怖と精神的外傷を引き起こします。

戦争の影響を軽減すること Mitigating the Effects of War

国連のような国際機関の活動は、戦争による諸影響の緩和を支援します。武力紛争の予防、管理、解決のための主導機構として、国連は、平和構築、和平協定および平和維持の両方の業務を行います。平和構築は、紛争への回帰を避けるための政治的解決を強化し、確固とするための行動です。(SIPRI-UNESCO, 1998) 国連はまた、交渉と調停を通して紛争と対立の解決への支援をします。国連は多くの国における平和の仲介を主導し、世界の多くの問題を抱えた窮地における平和協定の調印に成功しています。国連はまた、平和維持活動を支えます。平和維持活動は、紛争の予防、管理、あるいは解決にむけて紛争当事者を支援するための公平な要因の活用です。(ストックホルム国際平和研究所-ユネスコ、1998) 国連平和維持活動ウェブサイトは、2010年7月現在、15の有効な国連平和維持活動があったと報告しました。平和維持軍は、停戦を監視します。平和維持軍は、(対象としての)社会の中で戦闘員の再統合を支援し、選挙のための準備を支援するのにも仕事の一つです。国連はまた、侵略の罪を裁く特別な法廷をもっています。これらは、国際司法裁判所、国際刑事裁判所と戦争犯罪裁判所です。

他に、いろいろな国際組織と運動が、激しい紛争を防ぎ、管理し、解決するための仕事をしています。ハーグ平和アピールは、「戦争の災いから、次世代を救う」ための状況をつくるため、21世紀にはいる前夜、1999年5月に始められた運動です。いくつかの行動計画がハーグの歴史的な会議で生まれ、そのひとつが平和教育のためのグローバルキャンペーン(GCPE)です。平和教育(GCPE)は、平和、暴力のすべての形を拒否し、人間としての尊厳を守る文化、正義と平和的な価値観の文化にむけての思考法、価値観と行動を変えることに責任を担う個人の教育者たちと教育NGOから成ります。赤十字国際委員会(ICRC)は、武力紛争の犠牲者を保護し、支援するために努める80カ国による活動的な人道組織です。国際小型武器行動ネットワーク(IANSA)は、銃による暴力に対する組織的な活動として120カ国において活動している世界的な運動で、小銃や軽武器の拡散と不正使用を止めることに取り組んでいます。地雷禁止国際キャンペーンは、対人地雷を根絶することに取り組んでいる組織の世界的なネットワー

クです。アムネスティ・インターナショナルは、人権が尊重され、保護されるよう運動する人々の国際的に認められた世界的な運動です。アムネスティは、世界の 150 カ国以上の国と領土で 180 万人以上のメンバーを持っています。武装紛争予防のためのグローバル・パートナーシップ (GPPAC) は、世界のすべての地域にある組織の世界的なネットワークです。GPPAC は人間の安全保障を促進し、紛争の根本的な原因へ取り組み、集団的安全保障の協定を基本的なゴールとしようとしています。50 カ国以上の国の会員からなる Pax Christi インターナショナルのような国際的な宗教系の平和運動があります。それは宗教を平和と正義のための明確な力にしようとし、しばしば、激しい対立を防止し、解決する方向へ、そして、平和の構築にむけて国際的な行動を訴えます。

非政府組織 (NGO) も、戦争の影響を緩和することに関わっています。NGO は、組織化、意識の向上、調査と議会工作に関わります。NGO は、広く多様なサービス (例えばリハビリテーションや社会心理的な精神的な外傷と治療) を提供します。フィリピンでは、この仕事は、バライ・リハビリテーションセンター (Balay Rehabilitation Center) のようなグループによってされます。他の団体は交戦中のグループ間の対立や協定を監視します。ミンダナオの 'バンタイ・シーズファイア' (Bantay Ceasefire) は、政府と MILF (モロイスラム解放戦線) の間の停戦合意が守られていることを監視します。スローン・CARHRIHL (Sulong CARHRIHL) は、フィリピン政府と民族民主戦線 (National Democratic Front) との間の人権と国際人道法を守るという合意を、モニターする第三者ネットワークです。NGO はまた、人々の対立に平和的に取り組むための人々の能力構築を助けるために、教育とトレーニングを行います。ミリアム・カレッジに拠点を置く平和教育センターは、その活動をしています。キリスト教司教とイスラム宗教指導者で構成されるフィリピンの Bishops-Ulama 会議のような宗教団体は、共通の基盤を探求するための定期的な対話を続けています。フィリピンにおける多くのグループは、武器やその他の兵器の規制の仕事をしています。例えばコントロール・アームズ・フィリピン (the Philippine Action Network to Control Arms) , 地雷廃絶フィリピン・キャンペーン (Philippine Campaign to Ban Landmines) , フィリピン・クラスター爆弾廃絶キャンペーン (Philippine Campaign against Cluster Munitions) , フィリピン核廃絶廃止運動 (Nuclear-Free Philippines Coalition) です。世界には、武力衝突を防止、減少、そして解決あるいは影響を和らげることに取り組む NGO の長いリストがあります。彼らは、世界中で命を救うことへの広範囲な仕事をしています。

種々の条約、合意、決議と協定が、戦争の影響を緩和するために立案されました。これらのいくつかを以下に示します：

- 国際人道法または武力紛争法は、武力衝突時に一般人を保護して、戦争の方法と手段を制限しようとする規則から成ります。

- 国連安全保障理事会決議 1325 は、武力衝突のすべての関係者に武力衝突の状況における女性と女の子を保護し、競合解消と和平交渉への女性の参加を増やすための特別な処置をとるように求めます。
- 国連安全保障理事会決議 1820 は、対立と紛争終結後状況での性暴力に対処します。強姦は戦争の手段になりました、それゆえ、決議は武力衝突の関係者に武力衝突の状況での性暴力を終わらせるための適切な処置をとることを求めます。それは性暴力の加害者を罰することを求めます。
- 小火器に関する国連行動計画（UNPoA）は、供給を規制し、需要を減らし、既存の武器を流通から取り除き、合法的な利用者から不法ユーザーまで武器の転用を止める条約です。
- オタワ条約は、対人地雷の使用、備蓄、製造と移動を禁止します。
- クラスタ弾に対する条約は、クラスタ爆弾の製造、備蓄、使用と移動を禁止するための条約です。この条約 2008 年前半に立案され、同年の 12 月、署名にむけて公開されました。

さまざまなグループによって、多数のイニシアティブが人間の幸福ならびに軍縮と軍備縮小の保護にむけてなされることが、上の説明から見る
ことができます。軍縮は、既存の軍備に対する厳しい管理の行使ですが、一方、兵器を取り除くことについてのプロセスです。そのゴールは戦争の可能性を縮小、あるいは少なくともその影響を緩和することです。武器の効用は、暴力の割合の高い要因となります。武器を規制することを目標とする協定があります。小火器に関する国連行動計画（UNPoA）、そして上述のオタワ協定は、その例です。生物兵器禁止条約は、署名者が生物兵器、主にウイルスと細菌を開発、生産、備蓄することを防止します。部分的核実験禁止条約（PTBT）は、署名者に、核兵器の大気圏内、大気圏外あるいは、海中での実験をを思いとどまることを同意させました。現在、UNPoA は、人権、非国家主体への武器移転、政府当局による銃の誤用、銃の誤用やけがのジェンダー化された性質のような重要な問題をカバーしていないとして、他の人たちの間で、武器貿易条約を起草するための努力がすすめられています。（IANSA、2007）

平和教育と戦争システム Peace Education and the War System

ユネスコ憲章前文は、「戦争が人の心に始まるならば、平和の擁護は人の心に造られなければならない」と明記します。平和教育は、戦争に挑戦する 1 本の具体的な小道です。「平和教育は、諸問題についての全体的な見通しと人間は、一つの種であることへの理解を開発することです」（Readon & Cabezudo、2002）。平和教育は、世界が「善人と悪者」に分けられるという、そして、「悪者」への勝利が行く道であるという考えに挑戦することに役立ちます。

平和教育は、人類としての同一性の概念を教えようとしています。不一致についてのほとんどは、社会的、かつ文化的に創り出されるものです。相違は、私たちが豊かにするものであり、私たちが分かち合えるものではありません。教育は、偏狭的な人を越えて民族の社会的な検証を大きくすることによって、集団間の対立を小さくすることを助けることができる力です。これは、伝統的な国家概念に対する、より人間的、包括的なものの防衛手段について、学習者の理解と認識を拡大することによってなされるのです。(Carnegie Council, 1997).

教育は、戦争の不可避性という考えを変えることを支援しなければなりません。人間が戦争をするというのは、運命論示説ではなく、選択であることを理解しなければなりません。暴力の結果を学び、暴力に変わる選択を考え抜いた人は、宣伝によって簡単に心を動かさないでしょう。

生徒に平和的な紛争解決のスキルを教えることは、紛争解決への建設的な取り組みの可能性、そして、侵略についてのより実行可能な代替案があることへの理解を勧めることとなります。平和教育プログラムは、非暴力の理論と非暴力的行動の実践の教授が含まれます。世界のいろいろな地域における非暴力的な直接行動がどのようにうまく働いたかという事例研究、本当に、暴力に代わるものがあるのを生徒に、見させなければなりません。

学びあいのためのアイデア

- ・戦争とその手段に異議を唱えることを意図する、国の法律、法令と条例を調べます。たとえば、フィリピンは、大統領令（EO 570）により、教師教育において平和教育が制度的に組み込まれています。それには、銃法（Firearms Law）があります。そのような方針の具体化の状態を調べてもらいます。
- ・武力衝突を防ぐことを支援する組織で働いている人々にインタビューします。彼らに国のため、世界のために、彼らが持っている展望や仕事への挑戦について尋ねてください
- ・生徒に国連と国連が世界で平和と安全保障を促進するために何をするかについて本を読んでもらいます。
- ・セビリヤ声明についての調べ学習をしてもらいます。生徒に声明に対する賛成/反対のレポートを書いてもらいます。
- ・自国における和平交渉の状況についての調査をするよう生徒に頼みます。自国に事例がない場合は、世界のいろいろな地域で、進行中かあるいは完了した和平交渉プロセスを調べることができます。可能性がある例は、シエラレオネ、北アイルランド、チェチェン、スリランカとカンボジアなどです。

戦争の木を掘り起こし、平和の木を植えること

1. 黒板の左側に、死にかけている木を描きます。その木は「戦争の木」と呼ばれることを生徒に伝えます。
2. 生徒に黒板の前にでて、なにが戦争の原因であるか、木の根もとに記入してもらいます。
3. それが終わったら、黒板の右側に木を描いて、それを「平和の木」と呼ぶことにします。
4. もう一度、黒板の前に来てもらい、平和をもたらす要因を考えてもらい木の根の上に記入してもらいます。
5. 「戦争の木」から「平和の木」まで線で結びます。生徒に各々の線上に平和の気に到達するための具体的な戦略を書いてもらうようにします。

・生徒に戦争の野蛮さを示す映画を観てもらいます。強力なイメージとメッセージが込められた映画の例は、「ルワンダ・ホテル」、「ジョワイユ・ノエル」と「シンドラーのリスト」です。生徒が観た結果をたどってみます。彼らが有意義であると感じた場面とそれらの理由についてクラスで共有するよう、頼みます。映画は、彼らにどんなメッセージを伝えたかを訊ねてください。

・ポスター展示。生徒に戦争に反対する引用ポスターを作るよう頼んでください。教室の周囲にこれらのポスターを掲示して、それぞれを観てもらいます。展示から学んだことは何か、議論してもらいます。

「私は、戦うことがもういやです...! 私は、自分の子どもを探す時間がほしい、そして何人見つけることができるだろう。多分、私は死者のなかに、子どもたちを発見することになるだろう。私の話を聞いてください、チーフ。私は疲れています。太陽が現在立っているところから、私は永遠にこれ以上戦いません。」 - ネズパース族国 (1877) のジョセフ・チーフ

「世界が植民地主義とアパルトヘイトを廃止することができるならば、戦いませんか?核兵器を廃止する時です。戦争を廃止する時です。」 - コーラ・ワイス

「現代の戦争の特質である拡大する破壊性と、いわれない人間の苦しみは、戦争廃止の理由が、ユートピア的な考えというよりも、実際的な強制力であることを明らかにしました。」 - ベティ・リアドン 「わたしたちは、今日、愛と深い思いやりを世界にもたらさなくてはなりません。そのためにわたしたちは、銃と爆弾を必要としません。」 - マザー・テレサ

「戦争は、平和な将来を切り開くための劣った道具を製造します。」 - マーティン・ルーサー・キング, Jr.

・シンボリックな行為として、おもちゃの銃やいろいろな戦争おもちゃを土に埋めるようにします。

87 第8章 戦争システムに挑む

- ・ 居住地域の近くにある平和宣言の地を訪ねます。宣言の提案者にインタビューをします。空間または平和宣言地帯の意味するところを探します。もし、平和宣言地域の訪問ができないなら、平和宣言地域と人々が地域で武装暴力行為を減らすために何をしたかについて調査します。
- ・ 手紙を書くこと。軍備に対する予算配分を勉強した後で、生徒が問題に対する彼らの懸念を表明するよう、議会または議会に手紙を書くよう勧めます。

戦争は、無数の命をなくしました。よい知らせは、戦争が回避不能でないということです。わたしたちは、わたしたち自身の地球の将来を選ぶことができます。選択は、わたしたちが行なうべきなのです。

第9章 対立/紛争を解決し、超形成する

Resolving and Transforming Conflict

人間は多様な信念、態度、行動、関心を持ち、それは経験や文脈の違いから来るのです。時には、これらの違いが緊張を生み出し、対立や紛争につながる場合があります。対立/紛争は人生の逃れがたい事実なのです。もし、扱い方を間違えば、望ましくない結果を招いてしまいます。大きな状況について言えば、多くの対立/紛争が暴力的になり、生命が失われたり、財産が破壊されたり、経済や文化的な活動や社会経済的サービスが阻害されたり、市民、特に女性や子どもが搾取されたり、経済的損失が生まれたりします。個人的な対立の場面では、双方に苦悩とストレスを引き起こします。対立をうまくコントロールできない時、関係が壊れてしまうこともあるでしょう。

幸いなことに、対立はコントロールし、建設的に解決することが可能です。うまく扱えば、係争中の当事者たちは、関係を改善させ、経験から学ぶことができるでしょう。対立を建設的に解決することは、教えることができ、学ぶことができるスキルなのです。もし、人間が彼らの個人的な対立を前向きに扱うことを訓練できるなら、そのようなスキルをもっと高次のレベルの相互関係にも持ち込むことができるでしょう。

対立とは何か？ What Is Conflict?

対立 **Conflict** という言葉は、ラテン語の **conflictus** から来ていて、力強くぶつかることを意味します。ある行動や信念が、他の人にとって受け入れがたく、そのために抵抗を受ける時に起こります。(Forsyth, 1990) 対立は二項間、グループ、あるいはより大きな社会的構造において起こります。

なぜ対立が起こるのか？ Why Do Conflicts Arise?

国家レベルや地球レベルで、対立は領土問題、民族や宗教的憎悪、イデオロギーや権力闘争、社会正義、独立の要求、貿易や市場の競争、経済的リソースを巡る争いなどなどによって引き起こされます。(Wehr, 1979)

わたしたちの直近の状況における複雑な関係性においては、対立は誤解、誤認、ミスコミュ

ニケーション； 難しい姿勢、期待はずれ； 理念や意見、信念、価値観、目標、利害の相容れなさ； 不信； 物質的資源の争い； 威圧； 誇りの防衛； 報復欲求； 注目と認知のニーズ； 不寛容； 共感の欠如； グループ間のパワー闘争； などによって引き起こされます。

わたしたちの対立を解決させないようにするものは何か？

What Prevents Us from Resolving Our Conflicts?

多くにとっては、建設的に対立を解決することは、第二の天性ではありません。そうすることを妨げるたくさんの要因が存在します。その中の一つに、恐怖や誇り、怒りや報復したいという欲求などの強い感情の経験があります。これらの強い感情が存在する時、情報を客観的に処理することが難しくなります。無関心や無気力は、またもう一つ別の、対立の解決を妨げる要因です。人びとは、時に、気にかけなかったり、無関心だったり、それが意図的であろうがなかろうが、するのです。無力に感じ、希望をなくす場合もあります。たぶん、状況が気持ちをくじくようなものであったり、相手が権力者であったりする時には、係争当事者間でのコミュニケーションの欠如あるいは不在が、対立の解決を阻害する要因であるでしょう。また、シンパからの挑発が、意図的あるいは意図せずに「火に油をそそぐ」ことで、状況が激化し、対立が解決されない状況があるでしょう。

人びとが問題解決のプロセスが、退屈でストレスが強いと感じるために、避ける場合もあります。敵方と対話することは、大変な勇気を必要とし、わたしたち自身、「敵」に直面する大胆さを持ち合わせていないことに、気づかざるをえません。

怒りとその効果 What Is Anger and Its Effects?

怒りは、対立の状況にある時に、よく現れる感情です。位里かは、単なるいらいらや失望ではなく、失望、心配、**indignation** の混じり合った感情で、わたしたちのからだは、戦闘状態の準備を始めて居ることを示すものです。言語的をとることもあれば、あるいは物理的攻撃、激怒、**animosity** の形をとります。わたしたちが、それを相手を害したり、憎しみや孤立化につなげるのであれば、破壊的なものになるでしょう。怒りのやりとりの後に、人びとが殺されたり、傷つけられたりしたという話しを聞くのは、ないわけではありません。

怒りはわたしたちの健康にも悪影響を及ぼしかねません。怒りが爆発するとストレスホルモンが沸きだし、冠動脈や心臓の筋肉を損傷し、不整脈を起こします。これらの過剰なホルモンは、血液 **vessel** が **plaque**、動脈を詰まらせ、心臓発作の引き金になります。怒りは、よくあつさ

れると、わたしたちを病気にもします。表現されない怒りは、筋肉を硬化させ、わたしたちの血圧を上げるのです。(Spielberger, as cited by Foltz-Gray, 2002) 内化された怒りは極度な緊張あるいは抑うつを引き起こすかもしれません。(http://www.apa.org)

怒りは、わたしたちが正常に機能しなくなったときには、破壊的です。わたしたちのルーティンが妨害され、生産性が低くなります。わたしたちの思考力が妥協します。これが、わたしたちが前向きに仕事を続けたり、キャリアのための勉学を継続する力を破壊するのです。

怒りをどうコントロールするか How Do We Manage Our Anger?

わたしたちの怒りを静めることは、それを発散させたり、抑圧したりするよりも、よい方法です。わたしたちが怒っている時、脳は **pituitary gland** をシグナルし、神経がアドレナリンを作り出す。アドレナリンが血流に流れ込むことで、わたしたちは闘いの準備ができる。わたしたちの怒りの形を変える方法をいくつか紹介しましょう。

- ・ あなたが怒っていることを認める。いま、あなたが感じている感情に気づくことは、それを静めるのに役立ちます。
- ・ あなた自身を状況から距離を置くこと。怒りの感覚から離れます。環境を変えることは、一時的であっても、あなたの気持ちを静めるのに役立ちます。
- ・ 怒りを物理的に、かつ間接的に吐き出す
 - 誰にも聞こえないところで、大声で叫ぶことで、放出します。
 - 枕を叩いたり、バッグにパンチをくらわせたり、マットレスなど、柔らかいものを叩くことで、手にあるアドレナリンのレベルを下げます。
 - あなたの怒りを絵に描きます。ストレスホルモンを、力強い筆致で解き放ちます。
 - 激しく、歩く、走る、泳ぐ。
 - 体育館に出かける。運動する。プレッシャーの元では、運動する人は、ストレスホルモンレベルを低く保ち、鼓動と血圧が少し速くなるだけです。(Reyers, 2006)
- ・ リラックスするためのテクニック
 - 何度も、深呼吸する。自分を静めるための言葉を繰り返す。例えば「リラックス」などのように。
 - あなたの心の中に、幸せな考えや体験を思い描く。
 - マッサージを受ける。
 - 瞑想のテクニックを行う。
- ・ 心を落ち着かせる

- あなた自身に話しかける。あなたの怒りに変わるものを考える。そして、怒りを爆発させた場合の結果についても考える。（「もし、怒りを爆発させたら、何が起こるだろうか」「他にどんなオプションがあるだろうか」など）血流に過剰に流れ込むあなたのエネルギーホルモン「アドレナリン」と「ミルアドレナリン」に「冷静になれ」と指示を出す。あなた自身を、怒っていること、しかし、あなたはそれをコントロールできることを説得する。もう一つの簡単なツールは、あなた自身に、怒ることをやめろと指示することです。声に出してもいいし、出さなくてもいい。
 - あなた自身を探る。ウィリアムは、わたしたちが怒っている時「これは重要なのか?」「わたしの怒りは適切なのか」この状況は修正することができるだろうか」「行動するだけの価値のあることか」と問うことを提案しています。そのような評価が、怒りの表情を、なんらか理性的なものへと変形するでしょう。
 - 反応する前に、10 数えましょう。もし、10 を数えてもまだ爆発しそうだったら、数を数え続けます。
 - あなたの思考プロセスを変えてみます。わたしたちは怒っている時、最悪の光をあてて、物事を見ています。わたしたちは人を非難し(これは彼/彼女のせいなんだ)、レッテルを張り(あいつはひどい奴だ)、拡大解釈し(いつだって、こういうことをわたしに仕掛けてくるんだ)、心理的フィルターをかけ(この人には、まったくいいところがない)、解釈や結論を急ぎ(わたしのことが嫌いにつがい内)、悪意を疑ったり、悪意のせいにしてたり(わたしを陥れようとしているに違いない)しがちなのです。これらすべては、ひどい苦しみをもたらします。わたしたちの考え方を变えることで、どう感じるかをかを变えることができます。そのため、adversary 悪い態度や行動について、解釈や疑いを持つ代りに、これらのネガティブな考えをもっとポジティブなものに変えようとしてみてください。(例えば、わたしを傷つけるつもりはないのだ、とか)認知を変更することは、認知行動テクニックの一つで、わたしたちは、人びとの考え方を变えることができれば、彼らの感情的な反応や行動を变えることができるということを言っているのです。(Houston, 1985)
 - 書き出してみる。あなたの考えをまとめ、明確にすることを助けます。
- ・ 心理療法的テクニック
- マルチ・メディア的解決。テレビをつけて、娯楽番組をみる。映画に行く。音楽を聞く。
 - 楽器を弾く。
 - 歌う。踊る
 - シャワーや長風呂をとる
 - 冷たい飲み物を飲む

- 公園や散歩道を歩く
- PCやブログ、チャットをする。あるいは娯楽ビデオをダウンロードする
- ・スピリチュアルな援助
 - 気持ちを軽くする。我慢、理解、寛容さのために祈る。例えば、聖書は「7×70 倍回」許せと言います。寛容とは、Center for Dispute Resolution によれば、condonation を意味しません。むしろ、わたしたち自身を、他の人に握られた痛みから、わたしたち自身を解放することなのです。
 - あなたが信奉する場所を訪れる。あなたの怒りを捧げる。
- ・社会的なサポート
 - 家族や友人に話す
 - 愛する人からハグしてもらう
 - あなたのペットを抱く
- ・エネルギーの矛先を変える。あなたの部屋や家を掃除する。模様替えをする、あるいはガーデニングをする。
- ・可能であれば、あなたの怒りをユーモアに変える。爆発する代りに、冗談を言う、あるいはきりきりした状況を、軽いものに変える努力をする。
- ・涙に流す。泣くことは治療的です。泣くことで、からだから破壊的なストレスホルモンを排出できるのです。

怒りを直接、表現する方法 How Do We Directly Express Our Anger?

わたしたちが怒りの温度計を下げることに成功し、冷静さを取り戻したら、わたしたちは、自分自身の感情を直接表現してもいいかもしれません。下記にあげたのは、非攻撃的にあなたの怒りを表現するための提案です。

1. まず、あなたを怒らせる行動を描写する。(例えば、最近、あなたはわたしに傷つけるような言い方をする、など)
2. 次に、あなたが、その行動についてどのように感じるかを描写する。
3. 三番目に、なぜ、そのように感じるかを描写する。(たとえば、わたしはあなたをいい友達だと思っているので、関係を悪くしたくないから、とか。)

他者の怒りにどう対処するか How Do We Deal with Other People's Anger?

Johnson and Johnson(1995)と FSR Associates (n.d.)は怒りの激突をどのように建設的に扱うことができるかについてのヒントを与えてくれます。

- 1.表現を許す。聞く。
- 2.反撃しない。
- 3.他の人の靴を履いてみる。(相手の気持ちになる) 冷静になるのを手助けする。
- 4.言い換える/明確化する
- 5.あなたの状況を説明する。
- 6.他の選択肢をいっしょに探す。
- 7.他の人の激怒を扱うことができないようなら、助けを求める。

対立に対処するための主なオプション What Are the Main Options in Dealing with Conflicts?

対立を扱う時に、当事者が考慮する二つの要因があります。一つは、対立相手との関係性であり、もう一つは、現状の課題の重要性です。下記は人びとが対立の場面で選択することができるオプションです。

1. 遠ざかる。状況を避ける、あるいは手を引く。その選択肢は、通常、課題がささいなことである場合、あるいは当事者が状況を変えることができないと信じている場合に選ばれる。**(FLIGHT)**
 2. 対抗する。闘いに加藤とする。この選択肢は、課題が重要で、当事者が、自分が正しいことを信じており、それを証明しようとしているか、あるいは目標を達成する力がある場合に選ばれる。**(FIGHT)**
 3. あきらめる。妥協する。この選択肢は、関係性に調和を維持したい場合に選ばれる。一方が他方の観点が有効であると認めた場合にも選ばれる。**(ACCOMMODATE)**
 4. 半分あきらめる。この選択肢は、当事者が、いずれも自分の思い通りのものが得られない場合、そして、それを幾分かあきらめてもいいと思っている場合に選ばれる。**(COMPROMISE)**
- 前向きになる。対立する相手との対話や協働をする。この選択肢は、課題も関係性も、共に双方にとって大切であり、相互に受け入れられる解決を求めようとするときに選ばれる。

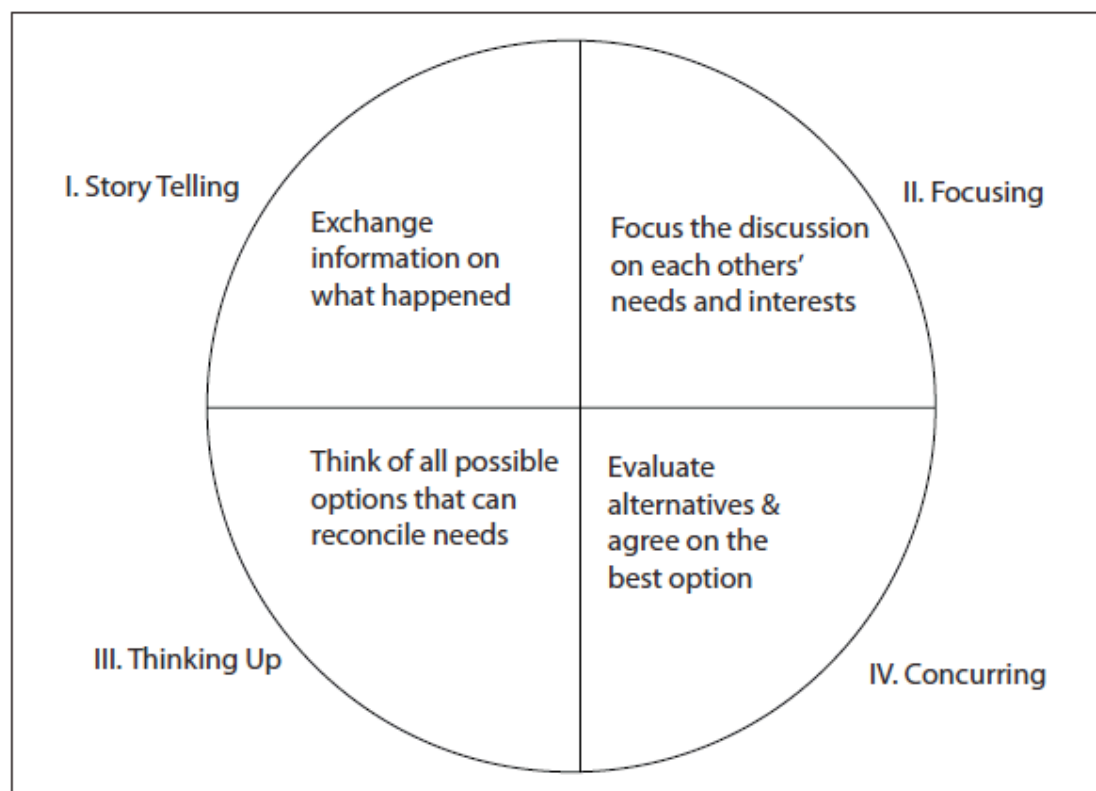
協同的な問題解決のステップWhat Are the Steps in the Collaborative Problem-Solving Approach?

対立している相手と対話することを、多くの人はストレスだと感じ、避けようとしています。あるいは怒りが強すぎて、攻撃的な態度に出る場合もあります。Cneter for Peace educationのワークショップへの参加者に対する調査研究から、生徒や教員が通常選ぶのは、回避であることを明らかにしました。「あなたに対立した時、どのような選択肢を選びますか」という問いに対して、267名のうち、37%が「離れる」戦略を選ぶと応えました。9%が怒りに任せて、17%が相手と話し合う、36%があきらめる、あるいは友人に話すなどの対抗手段をとると応えました。

もしも、問題と関係の両方が大切なのであれば、相手に向き合う、あるいは問題解決することが理想的な選択肢です。問題解決的なアプローチへのステップは以下のようなものです。

図10. 協同的問題解決アプローチ

Figure 10. The Collaborative Problem-Solving Approach



- I. 物語る 何が起こったか情報を交換する
- II. 焦点化する 互いのニーズと関心に議論を焦点化する
- III. 考え出す 双方のニーズを満たすことができる全てのオプション・選択肢を考え出す

IV. 協力する 代替案を評価し、最善の選択肢に合意する

よき対話のためのヒントWhat are Some Tips to a Good Dialogue?

問題解決のプロセスが平和的に信仰されるには、次のガイドラインを守るとよいでしょう。これらのヒントは、AKKA`KA(1987), Johnson and Jonson(1995), Fisher and Stone(1990), Ruiz(n.d)から導き出されました。

対話のヒント

- 1.やさしい、非攻撃的なやり方で話す。
- 2.あなたが言おうとしていることを熟慮する。相手を怒らせて、状況をアカさせることのないように。
- 3.「わたしメッセージ」を使う。文章を「わたしは」で始めて、状況について、あなたがどう感じているかを表現する。「あなた」メッセージは非難したり、問題が相手にあると思っっているように聞こえる。
- 4.対立についてのあなた自身の責任を認める。そのような意思是、立場に固執するよりも、柔軟に聞こえる。
- 5.不明な表現や、大げさな言葉、例えば「逸でも」とか「絶対」などを、使わない。できる限り、厳密に話す。
- 6.他の人に、彼?彼女のよい資質についてすすんで話すようにする。これは信頼と開かれた態度の雰囲気を作り出すのに役立つ。
- 7.前向きな気配りと尊敬を表す。ののしったり、非難したり、ばかにしたり、笑い者にしたり、判断したりしない。
- 8.痛みに対して痛みで返そうとする誘惑に負けないこと。ガンジーが言ったように、「目には目を、は世界を盲目にする。」代りに、あなたの状況を言い換える、明確にする、説明する。
- 9.問題について、明確な態度をとる。人に対してではなく。あなたが同意できないのは、態度や考えであって、その人自身ではないことを明らかにする。
- 10.何事も、個人なこととしてとらえない。代りに、人が、開かれた態度で、傷ついたことに目を向け、それを出してくれたことに感謝し、その傷を治癒することに責任を持つ。

聞くヒント

- 1.積極的に聞く。あなたが、彼/彼女の視点に耳を傾けようとしていることを示す。
- 2.共感的に聞く。他の人の立場に立とうとする。
- 3.あなたが、前向きに問題をかけ逸しようとしていることを何回も表明する。
- 4.問題解決的であること。現実的な解決策を提案する。双方にとって、よい、そして公正な解決を探す。

メディエーション、仲介とは何か What is Mediation?

理想的には、対立の両者が、彼らの問題について顔を合わせて解決することが望ましいのですが、対立の当事者は、時として、問題解決のプロセスを扱う勇気とスキルがないと感ずることがあります。そのような場合、第三者が、当事者が双方にとって有益な、現実的合意に達することを助けに入るべきときです。

仲介者は、上述のような問題解決アプローチを使うことが可能です。彼女/彼は、すでに述べた対話のヒントが常に守られているようにします。それらの対話のヒントは、仲介のプロセスの基盤となるルールとなるでしょう。

よい仲介者に不可欠な資質や特性があります。仲介者は、対立の当事者の間に、信頼を打ち立てるために、中立的である必要があります。非判断的で、理解する態度が必要です。仲介者は柔軟で、創造的です。彼らは、また、因果関係の分析にも長けているのがよい。なぜならば、これが利害と立場を分けて理解することにつながるからです。(立場というのは、当該関係者の要求であり、利害というのは、その要求の背景に潜んでいるニーズや理由である。) 仲介者にとって、当事者を利害に集中させることは、解決のための選択肢を広げるので有効です。仲介者は、対立の状況にある当事者に対する気配りと関心を表明すべきです。彼らは、信頼がおけ、楽観的である必要もあります。彼らは前向きな成果を期待し、**adversary**に対して、そのような期待によって、よい影響を与えるべきです。展開がうまくいかない場合でも、彼らは、紛争者たちにサイド挑戦するように奨励しなければなりません。

対立を超形成するとは何か What is Conflict Transformation?

対立の解決は問題に焦点をあてすぎる場合があります。関係性もまた、目前の問題と同様、重要であることを気に留めておきましょう。関係性を修復することは、紛争者たちの概観や態度の変容によって、促進することが可能です。対立の超形成は、対立の解決(CR)よりも高次の

目標なのです。Lederach(2003)は、対立の超形成は、関係者が問題、態度、人びと、あるいはグループへの視点の当て方を変えることを含むと言います。超形成は、内的にも構造的なレベルでも起こる必要があります。それは正しい関係性と社会構造を構築することの重要性を強調しているのです。

個人的な、あるいは内的なレベルでは、Lederachは、感情の認知、例えば、対立に関わる当事者たちが経験する恐れ、怒り、嘆き、苦々しさなどの感情を認識することが、相互に理解し、成長し、変化しようと努力することを助けると言います。これらの感情は、受け止められる必要があります。効果的な対立の超形成が起こるためには、ある人が超形成する、ある人の関係性が超形成するということが、構造の超形成も可能にします。構造的な変化は、逆に個人的な超形成を促進するのです。

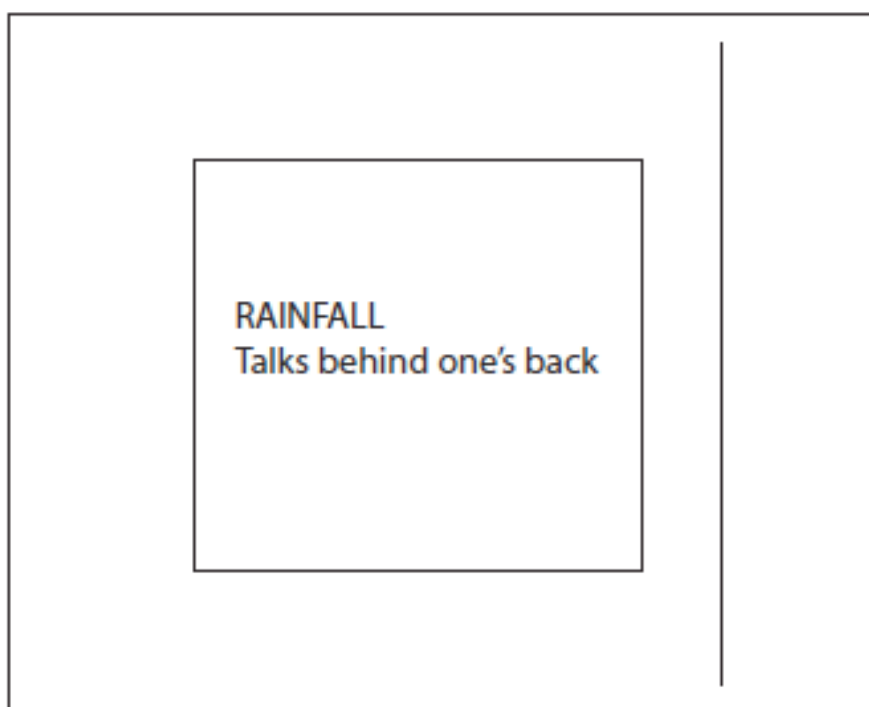
紛争をおさめることで目指すのは、問題を解決すること以上のものです。目標は、関係性を改善するような創造的な解決を作り出すことです。これを、学校にあてはめてみましょう。学校の規範を教えるプログラムは、制裁以上のものである必要があります。生徒の間の対立を解決する建設的な方略(望ましくないものを“終わり”にする)、紛争者の関係性を超形成するための建設的な方略(望ましいものを築く)は、可能な選択肢ですし、もっと平和的なものなのです。

学びあいのためのアイデア

- ・ ウェブチャート。「対立」という言葉を板書し、生徒にこの言葉から連想することをつなげていくように言う。終わったら、生徒にみんなから出た反応の共通点や一般則は何かを尋ねる。
- ・ 新しい分析。生徒に新聞を学級に持って来てもらう。対立を表している記事を選び出させる。彼らに原因とその影響を明確化させる。それぞれの作業の後、生徒に自分自身の洞察を共有してもらう。
- ・ 対立の解決の阻害要因となるものを共有する。生徒にサークルになってもらう。彼らが関わった対立で、解決できなかったものを思い出してもらう。その対立を解決することから、何が彼らを阻んだかを尋ねる。彼らの経験を進んで共有してくれるようにうながす。
- ・ 生徒に、個人的な対立の解決スタイルを尋ねる。彼らに、彼らのスタイルが、関係性にどのように影響しているか、考えさせる。彼ら、彼らのCRスタイルが関係性にどのような影響を与えているか、少なくとも3つの結果を書き出させる。そのことについて、どう感じるだろうか。
- ・ 生徒に、平和的な学級のためのルール案を出させる。そこでは、対立が効果的に扱われ、解決される。彼らに、これらのことをポスターにするように伝える。

- 箱を開ける。生徒に、模造紙の真ん中に縦線を引かせる。反感を感じる人や人びとを思い浮かべさせ、なぜそのような感情を持つのか、その理由を考えさせる。彼らに、左側の欄に、箱を描かせ、その中に、その人をあらわす仮の名前あるいはシンボルを描かせる。彼らがうんざりしている、その人の態度や行動も含んでイメージさせる。生徒は、一つ以上の箱を描いて良い。

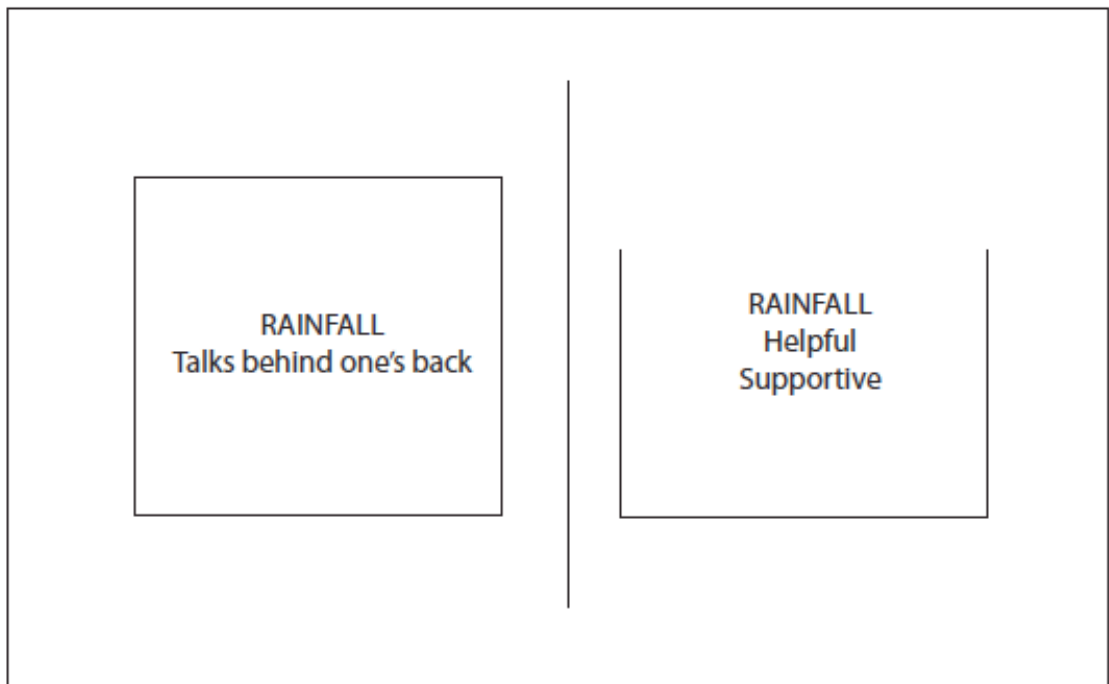
図 11. The Rainfall' s Boxes



雨降り

裏で陰口を言う

次に、生徒に、この人物のよい点を考えさせる。生徒が「なし」と書くことは許されない。一人ひとりの人は、いい面と不愉快な側面が両方あることを強調する。彼らに、紙の右側に開いた箱を描かせる。その人物の名前と、よい点を書かせる。



雨降り

助けになる・支持的

プロセスをふりかえるための質問

1. あなたは最初の箱を描いたとき、どう感じましたか。
2. なぜそのように感じましたか。
3. 感情が最初の箱から生み出されたものだとしたら、どのような結果が生まれるだろうか。
4. あなたは、なぜ、わたしたちが二つ目の箱をやったのだと思いますか。それを行うことの利益はなんですか。
5. 最初の箱はなぜ閉じられており、二つ目はなぜ開いているのでしょうか。
6. このアクティビティから、あなたが得たその他の洞察は何ですか？

・話し合いの後、他の人に対して敵対的な態度を維持することは、破滅的な効果を持つという学びを再度確認します。否定的な感情は、わたしたちの中や他の人たちの中に、毒を生みます。わたしたちは、例えば、人が不愉快な特性を持っているとしても、彼らにも高い質がそなわっていることを受け入れるべきです。悪口を言って、わたしたち自身の方が道徳的に優位なのだと思えることは、簡単です。しかし、わたしたちが好きではない特性と行動は、永遠ではありません。人は、間違いや不愉快な方法であることに気づき、そこから成長しようとするのです。

「箱」に人びとをとじ込めることは不健康です。対立を避けるために、わたしたち自身に醸成しなければならないことは、人びとの不完全さは、変化の可能性なのだということに対して開

かれた心を保つことです。

・物語る。あなたがとても腹が立った出来事を学級に話す。原因、それに伴う感情、あなたのこと、その経験から学んだことを描写する。学級で、他の人の経験も共有するように奨励する。あなたがしたような手順で話してもらおう。そして、経験から学んだ教訓は何かを強調する。共有した後、怒りのコントロールについての話し合いにすすむ。それから生徒にこの文章を完成させるようにつたえる。「次にわたしが怒りを感じたら、わたしは・・・」

・ロールプレイ。ペアになるように伝える。彼らに対立についての次のお話を読み聞かせる。

対立の状況：

アリサは、学級に新しく入って来た女の子。他の女子校からの転校生。前の学校ではアリサは常にトップの成績で学級委員を務めていた。

最初の日、アリサは教員の印象をよくした。彼女は、議論に積極的に入り、教員たちが誰かやってくれないかと尋ねたときはいつでも、手をあげた。それはいつも彼女がしてきたことから。

テレサは、同じ学級の、前からいる、人気のある生徒である。彼女はアリサの影響を受けた。彼女はアリサの発言の回数が多すぎて、すでに議論を独占しつつあると考えた。テレサは、アリサがほとんどの活動にも積極的に参加しているので、他のメンバーが教員に認めってもらう機会が減っているとも感じてい

た。テレサのグループのメンバーもアリサを好きではなかった。彼らはアリサが発言する度に、汚いことばを浴びせた。彼らは彼女を無視し、話しかけられても聞こえないふりをした。すぐに、アリサは孤独で、居場所がないと感じ始めた。彼女はクラスメイトが繰り返し「何さまだと思っているのかしらね」などというを聞くことに傷つけられていた。

状況は、ある日、彼らの学級担任が、誰か黒板を消してくれないかと頼んだ時に、最悪になった。誰も応えないのを感じて、アリサが立ち上がった。彼女の前に、テレサは足を出して道を遮り、アリサを転ばせた。みなが大笑いをして、アリサは泣き出した。

学級アドバイザーがテレサとアリサに放課後残って、話し合い、解決策を探るように求めた。

・ペアで、どちらの役割をするか決めてもらう。学級の中で落ち着ける場所で、問題解決アプローチと良い対話のためのヒントを使ってこの対立を解決する。

・全員が終わった後、次の質問をする。

➤あなたの対話で何が起こりましたか。

➤何が解決を促進しましたか。何がプロセスを失敗させましたか。

101 第9章 対立を解決し、超形成する

- わたしたちは、対立の解決を促進するために何をすべきでしょうか。
- わたしたちがすべきでないことはなんでしょうか。
- この経験からあなたが学んだ他のことは何ですか。
- 対立を解決するだけでなく、超形成することは、この状況で可能でしょうか。

・生徒に、彼らの対立解決のスキルを向上させるための具体的な計画を書かせ、彼らの方略をどのように行動に結びつけるかを描かせる。

・あなたの生徒に、対立している相手と対話している時、彼らがどのような聞き手であったかをふりかえらせる。そして、彼らがやったことで、いい聞き方や傾聴の基準にあわないものは何か書かせる。彼らに、傾聴を、これからの対話に取り入れるための方略を明確にするように伝える。

第10章 地球の資源を共有する Sharing the Earth's Resources

この豊かさにみちた地球上で、膨大な人々が絶対的貧困のもとで暮らしています。人間開発報告書(2003)は、60億の世界の人々のうち、12億人が1ドル/日以下で暮らしていると記します。貧困に関わる内容は他の基準でも示すことができます。例えば、9億2500万人の人々が栄養不良です(FAO、2010年9月16日)。1億1400万人の初等教育年齢の子どもたちが通学していません。そして26億人以上の人々—世界人口のほぼ半数—が基本的な衛生施設にアクセスできず、10億人以上が安全な飲料水を得ることができません(UN Millennium Project, 2002-2006)。ユニセフ(2005)によれば、5歳以下の子どもたちの30万人が毎日、貧困が原因で亡くなっています。これは一週間に210000人、一年間に1千百万人の子どもたちが亡くなっていることを示します。子どもたちは「この世界の詳細な調査と良心から最もかけ離れた、地球上で最も貧しい村のなかで静かに死んでいきます」。貧困は、多くの女性が妊娠あるいは出産時に亡くなる主な原因でもあります。国連ミレニアムプロジェクト(2002~2006)は、毎年50万以上の女性が、妊娠に関連した原因で亡くなることを報告します。

フィリピンでは、2006年で470万の家族、あるいは人口の26.9%が貧困状態にあります。5人家族の平均的な貧困ラインは月6274ペソと決定されています。個別の基準では、人口の32.9%、あるいは2760万人のフィリピン人が貧困状態にあります。(PDI、2008年3月9日)

悲惨な格差Tragic Gap

貧困のために苦境に陥り、それがもたらす苦痛を示す警鐘的な数の一方、総人口のうち少なからずの人々が、ゆたかな資産をもっています。世界の人々のうち5%が最も金持ちで、貧しい人々5%の114倍もの所得を得ています。1%の金持ちが、最も貧しい人々57%と同じぐらいの所得を得ています。同様に、2500万人のアメリカ人の金持ちは、世界の最も貧しい人々のほぼ20億人に相当する所得を得ています。(Milanovic, 2002, as cited by HDR, 2003) 世界の200人の金持ちの資産の合計は1兆ドルで、一方、43の低開発国に暮らす5億8200万人の合計所得が1460億ドルです。(HDR, 2000) さらに言えば、発展途上の世界は援助1ドル受け取るごとに、債務返済に13ドルを支払っているのです。

金持ちと貧しい人たちの間の悲劇的な溝はフィリピンにおいても同じ状況です。例えば、マニラ首都圏の貧困発生率は4.3%である一方、ミンダナオのスルー州の貧困率は、88.8%でした。(Philippine Human Development Report, 2005) フィリピン人間開発報告書 (PHDR) は、平均寿命の数値と高校卒業者の割合が二つの州の間で著しい対照を記しています。2000年におけるスルーの平均寿命は52.23年でしたが、マニラでは69.2年でした。マニラ首都圏での高校卒業者の割合は、74.3%でしたが、一方、スルーではわずか18.1%でした。このことは、フィリピンでスルーが最も紛争が著しい地域の一つであるというのは驚きではありません。

少数の人々が物質的に有り余る選択に喜びを見出す一方で、莫大な人々が苦難の大がまに浸る状態は、ひとつの暴力です。構造的な暴力は、限られた人々のニーズを満たすシステム、制度と政策、他の人たちを犠牲にする権利、あるいはニーズに示されます。飢えと貧困はこの暴力の徴候です。(Cawagas, Toh and Garrone, eds, 2006) これらのシステムと政策は強力な民族国家によってコントロールされたグローバルな経済の国際秩序のもとで、非常に強固にはたります。すなわち、国際機関、多国籍企業、そこでは富める者と貧しいものとの間の一層の悲劇的ギャップをもたらす不公平な取引慣行が優先しています。

貧困の他の原因 Other Causes of Poverty

この不公平さは他にどんな要素で説明されるでしょう？とりわけ歴史家、政治学者と平和教育者が、この現象への説明として示される原因は次のようなことです：

- 戦争 武力衝突は民生とすべての生産活動を混乱させます。フィリピンのミンダナオを例にとれば、1970～2001年の間に、失われた生産高は、毎年およそ50億から75億ペソと推定されました (Barandiaran, as cited by PHDR, 2005)。そして失われた投資機会を勘定に入れられるなら、ミンダナオでの戦争の経済的費用は毎年100億ペソと見積もられます (Schiavo-Campo and Judd, as cited by PHDR, 2005)。同じく、フィリピンにおいて高い貧困発生率の5州のうち4つが戦争で荒廃したミンダナオに見出すことができます。スルー、タウィタウィ、バシラン、ザンボアンガ・デル・ノルテ。
- 政治制度は、大部分の人々の基本的なニーズを満たすのに働く機会を減らす利益に動機づけられた経済システムと組み合わせられた地元の政治的なエリートによって構築されます。
- 富と資源の不公平な分配の多くは、植民地の時代に起源があります。植民地化は、植民地化された国の経済状態にこれまでに悪影響を与えています。開発教育プロジェクト

(1985) は、植民地建設が、植民者のための原材料供給の確保、先住民による開発を厳しく制限する、植民地経済に変えたことを記しています。これは人々に主要な経済的、政治的な困難を残しました。植民地化の経験は、国際的な経済システム、即ち、生産物のために地球上の資源の西欧的分配という強固な仕組みをも準備することになりました。フィリピンの場合、先住民は歴史的に自給自足状態でしたが、入植とともに始まった植民地時代の不正行為は、彼らの自給自足体制を破壊しました。(Dee, in Abueva (ed), 2004)

- 環境的な条件。収穫をもたらすことができない土地と戦わなければならない少なからずの人々がいる一方で、より豊富な資源に恵まれていることがあります。
- 資源の過度な利用。サンゴ礁の破壊、木材を得るための森林伐採、そして農地は、前の世代による殺虫剤の過度な使用による表土の喪失をもたらし、収穫量の減少をもたらすことになりました。
- 雇用の機会の欠如・教育の欠如・腐敗行為・過剰消費・食欲

貧困についての神話を解明するDemystifying Myths about Poverty

貧困は、その原因を希少資源、人口過剰あるいは怠惰によるものといわれてきました。しかしながら、the Institute for Food and Development Policy (1998) は、毎日3500カロリーをす世界のべての人に供給するための十分な穀物があること、そして1人あたり少なくとも4.3ポンドの食糧を供給するのに十分な食料品があると断言しています。国連人口基金は、人口増加が少ない途上国がより高い生産性が得られていることから(PDI、2002年12月7日)、プロダクティブ・ヘルスを改善することで貧困を減らすことができるといいますが、人口密度の方は飢えの広がりには対応していません。例えば、中国はインドと比較して1人当たりの農地はわずか2分の1です。それでも中国では、広範囲にわたる餓えは発生していません。1979年から2003年まで、中国の年間の国民総生産は438億ドルから1.414兆ドルまで成長しました

(Doronilla、2004)。怠惰という問題に関しては、農民、漁民と労働者は、生き残るために非常に一生懸命、そして長い時間の間働きます。それでもなお彼らは世界の貧しい人たちのリストに載っています。The Institute for Peace and Justice (1984)は、貧困が存在する国には、共通するパターンが見つかる主張します。すなわち、強力な少数の人が、大多数の人々の負担に寄って、食糧生産と他の経済資源の支配を強めているということです。

市場経済のグローバル化による「約束」The “Promise” of Economic Globalization

市場経済のグローバル化は、世界の国々が、モノやサービス、資本と労働の流れが増えることで経済的に統合されることをいいます。(スティグリッツ、2007) ポール・ストリーテンは、この「上から」モデルのグローバル化に異議を唱えます(Oloka - Onyango and Udagama ,1999)。最も重要な側面は国の経済の障壁を壊すこと、貿易の増加、そして多国籍企業と国際金融機関の重要な役割と力にあります。(Khor ,2000) 市場経済のグローバル化がもたらす巨大な利益には次のようなものが含まれています：

- ・ 経済的効率の促進
- ・ 機会の増大と開発の拡大によって貧困と不公正さを低減し、人間の開発と安全を強化する。

市場経済のグローバル化は、実際に発展途上国に資本移動を引き起こし、そして金持ちを生み出しました。しかしながら、1990年から2002年までの経済指標は、利益が大多数の人々の生活するところまで及んでいないことを示しています。グローバルな失業は、1億8590万人に達しました。世界の65億人のうち40%が貧窮生活を送っています；そして世界の59%の人々は、不公平が増大している国に住んでいます。(スティグリッツ、2007)

何がまずかったのでしょうか？ 批評家は、多国籍企業を所有し、国際金融機関を支配する豊かな国によってゲームが仕組まれているというルールの不公正さを指摘します。このようなルールは豊かな国の利益に機能するよう意図されました。市場経済のグローバル化は、人権、開発、公平、融合政策、人間の安全保障、そして環境のような、最終目標より、物質を過度に強調しているのです。

人間開発報告書(1999)は、これらの価値が利益蓄財の目標に優先されないのであれば、グローバル化は機能しないと指摘します。平和教育で、求められる目標は利潤の極大化ではなく、充足の極大化です。

経済的不公正に挑戦する Challenging Economic Inequity

どのようにして世界の資源をより公正に分配できるでしょうか？ 次のことは、開発のための様々な活動組織そして平和教育研究所で行なわれたワークショップの参加者によって選ばれた提案です：

グローバル

- ・ 公正な、新しい国際的、そして政治・経済秩序を確立すること。NETWORK (2005) は、人間が、開発の主体であるのだから、人間の当事者としての威厳を尊重し支援する国際貿易および投資システムを提案する。彼らが開発のためのツールとして使われることがあってはならない。この新しい国際的な経済秩序は、利益を唯一の原動力とすべきではなく、公益の前進を真剣に考慮すべきである。NETWORKは、同様にこのグローバルな経済体制は、わたしたちの有限の地球の持続可能性を守るために地球環境を尊重することを提案している。
- ・ 富裕国は、無条件で貧しい国々へ、彼らの市場を開放する。
- ・ たいていの発展途上国が基本的な社会的および経済的サービスのための配分を減らさざるを得なくなっているのは、外国に対する負債を返済しなければならないという負担によるものである。従って先進国は、無条件の債務放棄をするべきである。途上国は1ドルの援助を受ける度に、13ドルの債務返済を行なっている。（世銀、1999）
- ・ 発展途上国に与えられる援助は、貧困大がまのさらに底に落とし込むことがない条件で行なわれなければならない。現在、世界の発展途上国は、債権者におよそ1.5兆米ドルを借りている。（スティグリッツ、2007）
- ・ 富裕国は、科学技術が開発を推進させるように、テクノロジーへのアクセスを開放すべきです。
- ・ もっと多くのリソースが基本的なサービスと生産活動のために提供されるように、軍備への支出を減らす。

国内

- ・ 真性の、そして包括的な農地改革プログラムが実行されるべきです。The Institute for Food and Development Policy (1998) は、包括的な土地改革が日本、ジンバブエと台湾のような国において、大きく生産量を伸ばしたことを報告している。
- ・ 政府は、遊び場のようなものですら支援する、教育への助成金を増やすべきである。
- ・ 政府および民間融資銀行は、小さい、そして中規模の企業家を支援するクレジット改革を取り入れるべきである。
- ・ 政府は、生計を立て、市場に参加できるスキルプログラムのトレーニング機会を提供する。
- ・ 貧しい人たちの購買力を増やすために累進課税改革を取り入れる。
- ・ 農村のインフラ、例えば農場から市場への道路の整備や、収穫物を乾燥する設備などを開発する。

- ・ 分権化を通して、人々がより政府のサービスにアクセスしやすく、また存在がわかりやすいものにする。地方分権は、地方政府がより良い基本的サービスが提供できるよう、政治的権限、資源と責任を移すプロセスである。
- ・ 多国籍企業は、コミュニティの開発及び環境保護への貢献を義務としなければならない。
- ・ 多国籍企業が従うべき行動規範が定められるべきである。企業は、正当な税金の支払い、暮らしていけるだけの公正な賃金支払い、わいろへの誘惑を断ち、労働者の安全、そしてホスト国の環境基準に従うことを率先して行なうべきである。
- ・ より多くの資源が基本的なサービスと生産活動のために提供されるように、軍事費を減らす。

学びあいのアイデア

生徒に、2009年9月、2015年までに極度の貧困の半減を願う189の国と147の首長や政府によって署名されたミレニアム開発目標を読むように伝える。ミレニアム開発目標について調べ学習をするために、次の鍵となる問いかけをします：

1. それぞれの目標にとってねらいと指標は何ですか？
2. 目標の達成においてどんな進歩が成し遂げられますか？
3. これらの目標を達成するにあたって、どんな挑戦がまちうけていますか？
4. あなたの出来る範囲で、これらの目標のいくつかの達成を支援するために何をすることができますか？

国連ミレニアム開発目標

目標1：極度の貧困と餓えの撲滅

目標2：普遍的な初等教育の達成

目標3：ジェンダー平等の促進と女性の地位の向上

目標4：乳幼児死亡率の削減

目標5：母親の健康状態の改善

目標6：HIV / エイズ、マラリア、その他の疾病のまん延防止

目標7：環境の持続可能性を確保

目標8：開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

- ・ ケーススタディ 人間開発報告2003は、次のような国々での地方分権の進展を報告します：ボツワナ、ブラジル、コロンビア、ヨルダン、南アフリカとインドの多くの州。これらの国々でどのようなシステムがどのように働いたかを見つけだしてください。成功の指標は何ですか？ これらのケースは、自分たちの国に置き換えることができるか訊ねてください。
- ・ グローバル化には2つのモデルがあります：「上からのグローバル化」と「下からのグローバル化」。2番目のモデルについて調査しましょう。「下からのグローバル化」とは、どんな内容のことを言いますか？ その目標は何ですか？
- ・ 経済的不公正を描いた映画や音楽、歌を視聴してください。映画や音楽を聞いたあとで、次のような質問をしてみてください。
 - どんなせりふあるいは映像があなたに衝撃を与えましたか？
 - なぜですか？
 - 映画 / 歌は、わたしたちにどんなメッセージを与えることができますか？ これらのメッセージはあなたに何を意味しますか？
- ・ シミュレーション

すすめ方：

- クラッカーあるいはクッキーをクラスに用意します。
- 始める前に、以下の割合でクッキー / クラッカーを分けてください：
 クラスの**20%**にはクラッカーを**1/2**枚配る。これは一日**1**ドル以下で暮らす人々の**60**億人中の**12**億人を意味する。
 クラスの**30%**にはクラッカー**1**枚。一日**2**ドル以下で暮らす**16**億人を意味する。
 次の**30%**にはクラッカー**2**枚。そしてクラスの**20%**の人たちには、**30**枚のクラッカー。彼らの所得が一番貧しい人々の所得の**70**倍以上にあたる。
- さきにきめられた割合に従ってクラッカーを配ってください。
- グループのメンバーに彼らに配られた食糧の量についての、彼らの感じたことを話してもらいます。
- 参加者全員に、自分が経験したことと現実の生活の間の類似点を訊ねてください。
- 参加者にグローバルなレベル、そして国家レベルで、より公正な資源配分のための提案をしてもらいます

- ・ 参加者がプログラムを発表したり関わったりする機会を作ってください。
- ・ あなたの学校のアウトリーチプロジェクトやプログラムに関わるよう励ましてください。

- どのように富と資源がより均等に配分されることができるか、政策レベルでの提言について議論した後、生徒が経済的不公正に異論をさしはさむために何をすることを約束することができるか尋ねてください。以下は、生徒がとることができる若干の行動です：

- 物質主義と消費主義の既存の「文化」に挑戦すること。流行にそぐわないかもしれないが、より安く、そして地域で作られる生産物を守ること。
- シンプルなライフスタイル。ガンジーが実践したように、「この世界には、人々の食欲のためにではなく、全ての人々のニーズを充たすためにじゅうぶんあります」
- 時間、資金あるいは労力などの資源を共有すること。わたしたちが分かちあうものが正真正銘他の人たちの生活に違いを生み出すのに役立つことができるとき、共有することは慈善事業ではない。
 - 協同組合やくらしのプロジェクトを、商品を購入したり、あなたの専門的知識を共有したり、あるいはこれらの生産物を市場に出すことを支援することで、支える。
- フェアトレードに携わる、労働者に適正賃金を与える会社から製品を買う。
- あなたの国会議員あるいは地方公務員と一緒に予算の農地改革および適切な歳出予算のような関係がある争点に働きかける。
- 反貧困そして開発推進の組織でボランティアする、支援する。

第11章 地球をケアしよう！ Caring for the Earth

わたしたちの惑星地球は、信じられないほど、人類が生き延びることができる資源にめぐまれています。生きてゆくために必要なもの全てが母なる地球からの贈り物なのです：呼吸している空気、食物、飲む水、そして逃げ込んで身を守るための家。残念なことに、人類は、わたしたちを養ってくれる惑星地球を世話する代わりに、地球が生命を維持する能力を損ねてきました。いまや、地球の生命維持システムの破壊をまねく脅威となる生態系の課題が無数にあります。

環境問題 Environmental Concerns

大気、土壌、水の汚染が地球をむしばんでいます。大気汚染は、ガス、煙、塵、臭気などが空気中に危険なレベルまで含まれることです。大気中の有害物質の例として、農薬、硝酸系肥料、重金属、産業と運輸に用いられる石油製品から出るガスがあります。水質汚染は、有害な化学薬品や異物による水の汚染です。これらには農業で用いる肥料や農薬；家庭から出る生活廃水；化学工業の生産過程で出る鉛・水銀・重金属による汚染を含みます。

世界保健機構（WHO）によると、世界で年間300万人が大気汚染で死亡し、160万人が屋内の空気の汚染で死亡しています（BBCニュース、2004. 12. 03）。一方、水質汚染によって、毎年1500万人の5歳以下の子ども、さらにマラリアのような昆虫を媒介とする病気で毎年150万～270万人の子どもが死亡しています（UNEP, 2001. 3）。

地球温暖化は 大気圏での温室効果ガス、特に二酸化炭素とメタンの増加による環境問題です。とりわけ、石油・石炭といった化石燃料の燃焼や森林火災が その原因になっています。木を伐採することは、大気圏から炭素をとりのぞくという自然な働きを害することにつながります。地球温暖化によって 多くの種が絶滅したり、農業生産力が低下したり、海面上昇によって低地が浸水したりする恐れがあります。世界で多量の炭素を排出している国は、アメリカ合衆国、そしてEU諸国、中国、ロシア、日本、インドです（BBCニュース、2005. 7. 04）

森林破壊は、木材の利用、開拓、土地利用などによって森林を破壊することです。森林伐採によって動物の生息地が破壊され、希少種の絶滅につながります。森林破壊は水質・水の供給の悪化；河川の氾濫；大気汚染；地球温暖化；土地の侵食と資源が欠乏する原因になります。

砂漠化は、人間の活動や干ばつや洪水などの気候変化によって土地の生産力が次第に失われることで起こります。失われた表土がもとにもどるには 何世紀もの年月がかかります。砂漠化の原因となる人間活動には、不適切な農業実践、過度な放牧、森林破壊があります。1990年以来、およそ600万ヘクタールの土地が毎年砂漠化し 420億USドルの収入減になっています (www. ifad. org)。砂漠化によって、食糧の供給が不安定になり、生計の手段が失われます。国際農業開発基金は、貧困者の75%は農村に住んでおり、農業で生計を立てていると報告しています。

軍隊の環境影響 Impact of Military on the Environment

環境は、戦争時には敗者の列につらなり続けてきています。戦争は生態系を破壊するのです。たとえば、1991年の湾岸戦争のとき、6500万バレルの石油が流失し、何千もの海鳥を殺し、水資源にしみわたりました。(Engler, 2002) 長崎と広島は今もなおアメリカ合衆国が1945年に投下した原子爆弾の放射能の影響を受けています。ジュネーブの国際平和ビューロー (IPB) は、地雷やクラスター爆弾などの不発弾は世界の多くの地域で農業の衰退の原因になっていると報告しています。(2002) IPBは また、ベトナムはベトナム戦争によってもとあった森林面積の80%以上を失ったと報告しています。

軍事活動は環境破壊の最大の原因の一つです。世界の軍隊は地球上最大の汚染源です。(平和のための科学、カナダIPBによる引用, 2002) 軍事産業の発展と兵器開発のための実験によって恥知らずなまでに大量の有害廃棄物が生み出されてきました。IPBはオゾン層に放出された有毒ガス、フロンCFC113の3分の2以上が世界中の軍隊によるものと報告しています。

軍隊は環境資源の最大の消費者でもあります。例えば、毎年何100万バレルもの石油が軍事活動に使われています。合衆国一国をとっても2006年に1億8000万バレルを使っています。これは1日に49万バレルの石油を消費しているということです。合衆国国防省が2006年一年に消費したエネルギーは、1億4000万人の人口を持つナイジェリアのエネルギー消費量とほぼ同じです。(Karbusz, 2007) (*日本の消費の1/10程度) 国際平和ビューローは、世界の航空機の燃料の4分の1は軍隊によって消費されており、また軍事活動には石油、爆発物、溶剤 その他有毒物質が使用されていて、不適切に取り扱われれば環境に漏れ出す可能性があるとして報告しています。さらに、武器に利用される鉄と鋼鉄/スチールの量は世界全体の消費の9%、アルミニウム、銅、ニッケル、プラチナの利用

は発展途上国におけるこれらの鉱物の需要総量を上回っています。（環境研究所 Environmental Studies Institute 引用年記載なし）

1987年のブルントラント報告は、軍事化と環境ストレスの関連性を指摘しています。報告書は、環境ストレスは紛争の原因とも結果ともなり、軍事紛争の危険性は資源の減少につれて高まるとしています。また、軍事紛争は持続可能な開発の障害になると断言しています。持続可能な開発とは、将来世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすような開発です。したがって、地球をケアすることが平和へ通じる明確な道なのです。

共有物を大切にしよう Caring for the Commons

わたしたちが持っている共通の家は、一つです。「共有物の悲劇」のお話は、共有物を大切に扱うことで変えることができます。世界の生態系は相互に依存しあうシステムなので、政治的な境界は地球の生き残りには関係ありません。わたしたちの地球の危機が強まれば強まるほど、人類の福利と安全保障も危機にさらされます。この惑星でわたしたちが生き残るためには、わたしたちが協力することは必須なのです。

幸いなことに、地球を救う努力はなされています。

汚染に関しては、窒素、硫黄、フロンガス／クロロフルオロカーボンの排出規制と二酸化炭素のような温室効果ガスの削減に関する国際的な議定書に各国が署名しています。国際海洋法も作られました。ここでは海洋資源のビジネス、環境整備、管理についてガイドラインを設定し、世界の海を利用するにあたっての各国の権利と責任を定めています。固形廃棄物の管理は複数の国において多くの家庭が実践しています。

気候変動への取り組みを進めるため、1997年京都議定書が署名されました。ここでは、温室効果ガスを放出している国々が2010年までに排出削減をすると約束しました。温室効果ガスの放出が多い6か国の内1990-2002間に目覚ましい削減を達成したのはロシアのみでしたが（www.bbc.co）、京都議定書を180か国が批准したことは、地球を護るための協力が可能であるというメッセージとなりました。

森林の減少問題への取り組みを進めるため、世界の各地で大規模な森林の再生が行われています。アジアでは5ヘクタールの伐採ごとに1ヘクタールの植林がなされています。

す。(Galang 他, 2003) 非政府団体と学術機関が森林破壊の影響について啓発の担い手になっています。複数の国で森林伐採が禁止されています。

1996 年、農地を保護するための国連砂漠化対処条約が発効し、2002 年段階で 179 か国が締約しています (www.unccd.int) 国連環境プログラムの報告では、アフリカの乾燥地帯の 73%が砂漠化の深刻な影響をうけており、1 年におよそ 900 億米ドルの収入減を生じています。そこで、砂漠化の影響についてコミュニティの人々を啓発する積極的な努力がされています。それに加え、今日では世界各地で多くの農業従事者が土の栄養価を維持するために有機農業を実践しています。

軍事化の環境への有害な影響に対処するために新たな取り組みが始まっています。オタワ地雷禁止条約は 対人地雷の除去を目的に採択されました。条約は 1999 年 1 月に発効しました。軍縮情報機関(The Arms Control Association) の報告では 2008 年 6 月 1 日現在、156 か国が批准または加盟しています。政府によるものであれ、非政府組織によるものであれ、環境への軍隊の影響についての国際的な議論がされてきましたし、現在でも続いています。

学びあいのためのアイデア Teaching-Learning Ideas

- ・ 環境からの反動を避けるために、ミリアム大学環境学研究所では、「自然は独自の産物と生成過程をもっている」のだから「なりゆきに任せる」べきであるという立場をとる人たちを説得しようとしています。生徒に自分の好きなスナックとその原料のリストを作ってもらいます。そして好みのスナックの代わりに 自然な製品、天然のものを考えてもらいましょう。例えば、コーラの代わりに buko(ココナッツジュース)、ハンバーガーの代わりに suman(餅)など。
- ・ もし生徒が ビンゴゲームに慣れていたら「森のビンゴ」を創りましょう。生徒にビンゴのチャートを 1 枚ずつ配り、1 マスの中に 1 つ 森林から得られる資源を書いてもらいます。教師自身が記入したビンゴの項目を次々読み上げ、印をつけさせます。教師があげた項目が最も多かった人を勝ちとします。ルールを縦横の並びでビンゴなどに変えてもよいでしょう。ゲームのあとで、わたしたちが森から得られることができる資源や、木を切り続けることによるマイナスの影響について話し合います。
- ・ 生徒に、彼らの環境保護の行動を方向づける環境分野の重要な原則は何か、尋ねま

す。一つひとつの原則について説明を求めます。行動指針や原則について調べるために、環境保護問題専門家であるアメリカ人の Betty Commoner、フィリピン人の Angelina Galang と Donna Reyes の名前を参考にあげるとよいでしょう。

活動のための資料：

7つの環境についての基本原理 (Donna Reyes、Miriam P.E.A.C.Eによる)

1. 自然の知恵が最善である

自然のプロセス／循環の中断は いかなるものであっても、環境に有害な影響を及ぼします。そのために、わたしたちは、自然のプロセスと産物にできる限り近いところに留まるべきです。

2. すべての生命の有り様が重要である

生物の多様性は 生態系の安定性に寄与します。生態系のバランスを維持するために、種と生態系の保存がともに生きるうえで極めて重要です。

3. あらゆるものが 他のあらゆるものにつながっている

生態系のさまざまな要素が互いに入り組んで結びついていることで、複数の構成要素が一体となって機能するのです。人間は自然との相互作用がどのように生態系を変えるかを観察し、認識しなければなりません。

4. すべては変化する

生物物理の世界で 変化は自然に起こります。しかし気候変動のような人為的な／人間が引き起こした変化は 有害な影響を与える可能性があります。人為的な変化は悪影響を最小限にするよう管理しなければなりません。

5. すべてのものはどこかへ行く

消費による副産物は環境に戻ります。したがって分解できない物質は陸や海の生息地を汚染しないように減らしたり、分離したり、再利用したり、リサイクルすべきです。

6. わたしたちの地球は限界があります

わたしたちが必要なものは 自然によって、潤沢に与えられています。しかし、いくつかの資源は過度に取り出され、もとに戻るのに時間がかかります。わたしたちは自分が必要なだけ買ったり消費したりしなければなりません。

7. 自然は美しく、わたしたちは神の創造物の保護者です。

人間は神の創造物の所有者ではありません。世話人なのです。

・環境についての映画を見ましょう。

先住民が土地や資源をどのように見ているかを描いた “Pocahontas”『ポカホンタス』

はよい一例です。

生徒に以下の北米先住民族 Suquamish 族の Seattle 首長の言葉を読ませ、感じたことや反応を共有します。(PLT ガイドも参照できます。Activity90「先住民の知恵」)

囲み：

「空を、大地のぬくもりを、売ったり買ったりできるのだろうか？

そんなこと、わたしたちには思いも及ばない。

空気の新鮮さ、水の煌めきがを

わたしたちが所有しているのでなければ、

あなたは、どうして それを買えようか。

地球/大地/土のどの部分も わたしの人々にとっては神聖なのだ」

- ・ 生徒が 持続可能な開発の概念を理解し、ものごとを大局的に見るスキルを学ぶことができるロールプレイをしてみましょう。

1. 次の物語を読みましょう。

Bolingan の町は あなたの地方で最も美しいところの一つです。西側は澄んで汚れない海があり、南部は果樹が巡る青々と茂った森が自慢です。北は牧草地に利用されている丘が点在しています。Bolingan の住人にとって、セメント工場がこの地に建設されるまでは、ここでの生活は静かでよいものでした。Bui セメント工場 (BCF) は、創業にあたって Bolingan の人口の 5%にあたる人を雇いました。しかし操業とともに汚染が始まりました。工場廃棄物は川と海に流されました。空気はよい香りから悪臭に変わりました。住人は、家具の表面、窓枠、カーテン、床などそこら中に粉塵を目にするようになりました。住人は呼吸困難と慢性的な咳を訴えはじめました。市民組織である The Samahan ng Mamamayan ng Bolingan(SMB)は、これ以上この事態をがまんすることができないと表明し、市長と市の高官に対決するため市庁舎に集まることを決めました。

◇地方政府の見方・観点

地方議会は BCF の建設に賛成しました。Bolingan の町にとって雇用と税収がおおいに期待できるからです。BCF は直ちに数多くの住人を雇いました。それがなければ彼らに仕事はありませんでした。BCF が納める税金は、道路や橋の建設に使われることになっています。Bolingan の美しさは、エコ・ツーリズムの場として大きな可能性があります。しかし交通手段に課題があるのです。道路は未舗装で、橋は老朽化して弱くなっています。実際、BCF は、行政がインフラ整備に乗り出せるように 50 万ペソの寄付

をしてくれました。地域の人々の暮らしが大変向上すると信じて、あなたはこの第一歩を歓迎しました。あなたは、Bolingan を国の主要な観光地の一つにしたいと考えていて、BCF の建設は町の発展と近代化の道を開くと確信しています。

◇Samahan ng Mamamayan ng Bolingan(SMB)

あなたは SMB のメンバーです。市長と市の高官に BCF の休業を要求するために話しをしようとして決断しました。BCF は住民の健康と生態系の保全にとって危険を引きおこすからです。あなたは、BCF が環境遵守資格 (ECC) を取得しているか否か疑っています。秘密情報のルートから BCF が莫大な寄付をしたことで地方政府から許可を得たと聞きました。寄付の理由をあなたは知りません。あなたは町の環境の安全を引き換えに、妥協したくはありません。あなたは市長に会って工場を休業するよう言うつもりです。BCF が人々の暮らしを成り立たなくするまえに…

2. クラスを 2 つのグループに分け、一方が地方政府、一方が SMB のメンバーの役割を演じます。

3. 両者に対話してもらい、課題の解決を導きだせるか試みます。

4. 持続可能な開発の概念を重視しながら話し合いをすすめます。秤にかけるとするならば、人々の健康と地球の自己再生能力がより重要です。なぜならこれは長い目で見る必要があるからです。短期的な便益は重要ですが 慎重に検討しなければなりませんし、起こりうる取り返しのつかない損害を考慮して調整すべきです。

- ・ 環境保護の活動をしている NGO のリーダーをインタビューします。彼ら独自の提言とプロジェクトを知りましょう。1 つのキャンペーンに関わって ボランティアで手伝いましょう。
- ・ 環境問題はわたしたちがどう生きるかによって生み出され、解決のためにはわたしたちが生き方を変えることが求められています。あなたの生き方をどう変えることができるか、リストを作成しましょう。

The GAIA Peace Atlas はわたしたちの生産と消費のパターンによって資源の基盤がくずされてきたことが、紛争の原因の一つであると書きました。地球が再生する力を人類は収奪してはいけません。わたしたちはライフスタイルを簡素にし、現在と将来の世代を保護するシステムを構築しなければなりません。地球との持続可能な関係づくりは教育を通して始まります。

第12章 内なる平和を修養する Cultivating Inner Peace

これまでの章では、平和の文化を目指して努力するさいに必要な社会的・構造的変化に焦点を当ててきました。この章では、平和のための教育にとって、もう一つの重要な要素である内なる平和を修養する必要性についてみていきます。

内面と外面の超形成 Inner and Outer Transformations

Patricia Mische(2000)は、わたしたちが求める超形成というのは、社会的な変化のことだけであってはならず、内なる超形成も探究すべきであると説きます。なぜなら、内面の変化は外に現れる活動にいのちを吹き込むものだからです。彼女は「内的超形成と外的超形成は、一つの全体の分かちがたい部分である」と結論づけています。宗教に基づくものであれ、基づかないものであれ、いずれの平和にかかわる文献においても、この見方は幾度も繰り返されています。確かに、わたしたちの内面の状態と外界でわたしたちが何をするかの間には、密接な関係があるということについての一致した見方が生まれつつあります。この首尾一貫性が、完全に人格が統合された人間であることの基盤となります。

内面の平和は何を引き起こすか What Inner Peace Entails

内なる平和を得ていることは、自尊心と自分自身の人としての尊厳を認識していることによって特徴づけられます。内なる平和によって、人は人生における挑戦に、心の均衡を保って立ち向かうことができます。なぜなら、大きな・長く続く不幸／不運にも関わらず人はわたくしの固有の価値と人生の目的を確信しているからです。それゆえに人は、中毒、精神的な病、ほかの形の内面の不調和に、容易には屈することなく、むしろ希望の感覚、自分自身の能力への自信を持って、人生に挑んでいくのです。

個人の平和は、自分たちに直接的に向けられたネガティブな行為に対して ポジティブな方法で対応することでもあります。例えば、仕返しをするのではなく許したとき、そして 他者がわたしたちを苦しめた痛みにかかわらず他者によいことを続けるとき、より健全な感覚を得ることができます。Jing Lin(2006)は、許しは内なる平和にいたる

鍵であると言っています。許しは、わたしたちの心を解放し、否定的なエネルギーと意図の応酬に終止符を打ちます。

禅僧ティット・ナット・ハン Thich Nhat Hanh の言葉は「自身の（心の）傷が頭から離れない」うちは、いまここに十全にあることが難しくなることに気づかせてくれます。（Kessler,2001）

ティット・ナット・ハンは、世界平和への鍵は「平和であること」の実践であるという信念を持っています。彼は言います。内面が空虚であるために、それを埋めようと忙しく活動し、ときに働き過ぎてすらしまうことがよくあるのだと。しかしながら、そうすることによって幸福であるとか安心であるという感覚を得ることはできません。わたしたちの内部には、平和と暴力双方の種があり、どちらの種が育つかは、わたしたちがいずれを育てるかによっています。もしわたしたちが思いやりの種を育てれば、わたしたちの内面や周囲に平和を育みます。しかし、現代社会の感化の多くは、平和ではなく、むしろ暴力を育てると彼は指摘しています。それに対する均衡を保つ手段として、彼は呼吸法、瞑想、心をこめたマインドフルな生活、あるいは、高い意識をもった生活をするといった、内面の均衡を高める技術を説いています。さらに、彼は 思いやり、穏やかさ、深い傾聴を唱道しており、そしてそれらにより、調和を回復することができるのだと言っています。そして最後にこうも言っています。「最も重要なのは、第一にわたしたちの内部にある否定的なものを手当することです…もしわたしたちが平和であれば、幸福であれば、花のように開花するでしょう、そして家族のだれもが社会全体がわたしたちの平和から恩恵を被るでしょう…平和であることは平和を行うこと、平和を創造することの基礎なのです。」（Beller と Chasa,2008）

チベットの人々の指導者であり 1989 年のノーベル平和賞の受賞者であるダライ・ラマ The Dalai Lama は、精神が穏やかで健康な状態は心と体の健康に有益な影響をもたらすと言っています(2001)。反対に 恐れや怒りの感情は健康を損ないます。したがって、より幸福でより満ち足りた人生を送れるように、わたしたちは否定的な感情の影響を少なくすることを学ばなければなりません。精神的指導者からのこれらの教えは 今日では医療や健康の専門家によって確認されています。さらに The Dalai Lama は人々がより多くを手に入れたい、裕福になりたいという考えに取り付かれ、生活の中に他のことが入り込む余地がなくなると、「幸福の夢」を失う結果になると言っています。

（Hunt より引用 2004）したがって人は成功して快適な人生を送っているように見えても、心配と不満と不確実さに苦しめられているかもしれません。ダライ・ラマは、人々が自分の肩書きや収入や財産以上の何かであることを奨励します。人々に、大切なのは社会的地位や外見ではなく、心の中や社会の中で平和を長続きさせるために何をするか

であることを認識するように求めています。最後に、平和とは、単に暴力がないことではなく、満足、幸福、心の平穏といったものを含み;同情と思いやり、そして恐怖のない生活であると言っています。

世界の宗教の多くが、自分が他者にしてもらいたいと望むことを他者に対して行うことを黄金律(行動の基本原理)として教えてきたことを思い起こすことはよいことです。この精神的なメッセージは、肝に銘じれば、次には個々人の平和をもたらす温和な関係のひとつの源泉です。このことは、まさに社会的な平和と個々人の平和にはつながりがあることをわたしたちに教えてくれます。同様に、人が自分の平和を追求すると、それがコミュニティをより平和にすることに貢献するのです。

このように、内なる平和を高めることは、単に内面を見つめることを意味するのではなく、ましてや自己中心的な手法でもありません。それは 信念、愛、希望、個々人のビジョン、可能性の内面の資源を強くして、それらを外の世界の平和を築くために使うことなのです。内なる平和と外界の平和は お互いに育て合うのです。自分の周りの暴力の現実を無視しながら内面の平和を持てるはずはありません:暴力的な外側の状態は必ず内面の状態に影響します。この事実は わたしたちに 内面の平和と外界の平和のために同時に働くのが最善であると確信させます。わたしたちは、内なる平和のために修養しながら、社会の平和のために貢献する向上心と努力を養って行く必要があります。

学びあいのためのアイデア Teaching-Learning Ideas

教育者として、わたしたちの任務は 学習者が個々人の平和と社会の平和の間のつながりに気づくこと、それとともに個々人の平和のために修養するよう励ますことです。大切な問いについて 学習者が静かに熟考する時間を取り、それぞれの考えを2人組みあるいは小グループで共有するのは、個々人の平和を修養する方法の一つです。以下は省察と議論のための問いをいくつかあげておきます。

1. 苦しみや逆境に遭遇したときにも、内面の調和を保つには、どのように反応することが助けになり得ますか。
2. あなたは何を悩んでいますか、あるいは何を恐ろしいと感じていますか。この悩みや恐れを解決するために どんなステップを辿ることができますか。
3. あなたが自分を傷つけた誰かを許したと想像してください。あるいは誰かを傷つけ、今許しを乞うていると想像してください。どんな気持ちがしますか。この感情をその

前に感じていた感情と比べてみましょう。

4. あなたに内なる平和をもたらすもの、もたらすであろうものはなんですか。
5. あなたは満足し幸福であるが他の人はそうでないとき、どう感じますか。
6. 「あなたのしてほしいことを、人にもせよ」という黄金律についてどう感じますか、あなたの生活においてそれはどのような役割を果たしていますか。生活に黄金律を当てはめると、どのような内面と外面に対する影響を経験したことがありますか。

生徒に平和の歌を聞いてもらいます。それを聞いたあと 歌のメッセージについての自分の考えや感情を 2 人組みで話してもらいます。問いは以下のいずれでもよいでしょう。その歌は あなたにとって意味がありますか／あなた自身の問題と関連がありますか。それはなぜですか。その歌には 内面の平和と社会的な平和のつながりが、はっきり、あるいは暗に示されていますか。あなたはその歌が好きですか。もし歌詞に書き換える必要があるなら、どのように書き換えますか、それはなぜですか。その後自分の考えや感情を より大きなグループ／クラス全体で 分かち合ってくれるボランティアを募ることもできるでしょう。

世界の主要な宗教や精神性の伝統からの教えを読み、それらが内面の平和を養うことについて何と言っているかみてることは価値があります。この本の第 4 章の情報を利用できます。例えば、多くの人に信仰されている主要宗教すべてに何らかの形の黄金律があります。黄金律は基本的に 自分が他者にしてもらいたいと望むことを 他者に対して行うよう説いています。黄金律の実行はあなたの生活に内面のあるいは個人的な平和をもたらすでしょうか。と生徒に尋ねるのもよいでしょう。霊的な世界や宗教の教えに則って善いことを行うことと、内面の平和を得ることの関連について 生徒によく考えてもらいます。そして 生徒に尋ねます。思いやりを示したり、許したり、誰かと和解したり、その人が必要とするときに助けたり、信条や社会的な階層、民族性、肌の色などに関わらず他者を受け入れ尊重したのち、内面の穏やかさや満足や平和を経験したことがありますか。自分自身の経験から あるいは、読んだり、聞いたりした他者の経験から、どのような結論・洞察を導きだしますか。

第13章 平和である学級を創り出す

Creating a Peaceable Classroom

学級マネジメントに関する研究によると、学習者は周りで気が散るようなことがあると、学習に集中することが難しく感じると指摘されています。The Carnegie Council on Adolescent Development は、尊敬し認め合う関係があることが知的な発達や成長に絶対必要であるとしています (1989, Goodenow, 1992)。同様に Goodenow (1992)は、所属感や需要が学びにおいて大切な要因であるという仮説を唱えています。同じように、Lantieri and Patti (1996) は、苦痛や不安と学習記憶能力との間に相関関係があると言っています。Schwitzer, et al.(1999)は、アカデミック分野での成功体験に関連して不可欠なタスクの一つに、大学構内で個人的な人間関係がうまく構築できるようになることであると論じています。以上のことは、平和を好む学習環境であることは、学びの過程にとって必要であると、わたしたちに教えてくれます。

では、平和を好む教室とはどんなものなのでしょうか。この考えは William Kreidler という小学校の先生であり、また対立を解決する専門家でもある人によって最初に作り出されました。彼によると教室での対立はさまざまな要因により引き起こされます。例えば意思疎通が欠けていたり、排斥する雰囲気があったり、自分の感じていることを上手に表現することができなったり、お互いに気遣いや敬意を欠いていたというものです (Lantieri and Patti, 1996)。平和を好む教室は、以下のような特徴が見られます。認め合う、協力的、意思疎通ができている、お互いの違いに対して寛容である、自分の気持ちを適切に伝えることができる、対立を平和理に解決することができるなどです。

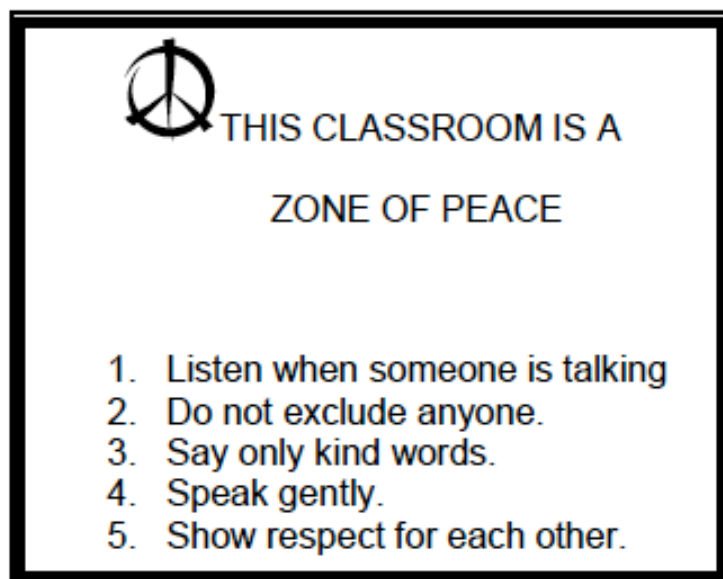
フィリピンで 99 名の高校生に対して行なった調査によると、教室内のいじめが彼らの苦痛や不安の主な原因の一つに上がっています。いじめの被害者は肉体的だけでなく言葉でも傷つけられています。被害に遭っている生徒は、叩かれ、噛まれ、教室内に閉じ込められ、蹴られ、平手打ちをされ、ツネラレ、押され、引っかき傷を負ったりしています。言葉の被害としては、彼らはあだ名で言われ、脅し言葉を浴びせられ、悪意に満ちた噂の犠牲になることを経験しています。多数から仲間はずれにされ、無視され、孤立している犠牲者のリストのトップに挙げられることは、間抜けと思われる人です。よくある他の理由は、容姿がきれいでないこと、太っていること、皮膚の色が黒いこと、経済的に苦しいこと、ゲイやレズビアンであること、話し方に田舎訛りがあること、転校生であることなどです。

いじめを受けた影響で、自尊感情が傷つけられることが知られていまい。マニラ市の別の高校で生徒、ガイダンスカウンセラー、先生方に面談を行った結果によると、いじめの犠牲者は、引き込まれるか、自分の心を閉じてしまうことがあると打ち明けています。彼らは一匹狼のようになるか孤立するかです。あるものは授業を頻繁に欠席し、そして退学していくこともあります。成績にも影響があると報告されています。

平和を好む教室を創り出すことは、生徒に様々な違いを乗り越えてお互いに尊敬しあい認め合うようにすることです。以下にわたしたちの教室で愛情を醸しだし、受け入れる雰囲気を作り出すいくつかの方法を紹介します。

教室が平和なゾーンであることを宣言し、これを達成するためのルールを確立する。

学校が始まって最初の数日で、生徒に平和を好む教室の意味を紹介する。生徒らに平和な教室環境を創るために必要な要素は何があるか問いかけよう。教室は平和なゾーンであることを示すポスターと達成に必要な指針を掲示するように生徒らに求めよう。



ポスターの例 【この教室は、平和なゾーンです】

1. 話している人がいたら聞きましょう。
2. だれも仲間はずれにしない。
3. 優しいことばを使おう。
4. 穏やかに話しましょう。
5. お互いに尊敬し合いましょう。

先生として、この取り組みに先生自らが始めるようにする。毎朝、その日は自分も平和な先生

であろうと自分に話さない。何か間違った方向に向かいそうになったらいつでも、自分は平和を好むことを決意したこと、そして怒りを爆発させないと決めたことを思い出すようにしない。教室に入るときはいつも、ひと呼吸をして教室にたどり着くまでにあなたが目にした嫌な思いを振るい払いなさい。前向きな気持ちになるやる気を発散するようにしない。人と会ったら笑顔で挨拶をしましょう。外国語や土地のことばで平和の挨拶を生徒に教えましょう。可能であれば、その日の平和な話題についてちょっとした会話のきっかけ言葉として挨拶のことばを使いましょう。

いろいろな言語で「平和」を言うと

Salaam (アラビア語)

Boboto (コンゴ語)

Shalom (ヘブライ語)

Beke (ハンガリー語)

Amani (スワヒリ語)

Shanti (ヒンズー語)

Damai (インドネシア語)

Heiwa (日本語)

Pyung Hwa (韓国語)

Paz (スペイン語)

Pax (ラテン語)

生徒を肯定的に認めよう。機会を捉えて生徒の良いところや優れているところを声に出して言ってみよう。貢献度を認めてあげよう。学習者が話した内容に興味を示そう。頷いて生徒の目を見てあげよう。

適切に感情を表現し、生徒にも同じように取り組ませる。あなたが腹をたてるような状況があったとしても、攻撃的なやり方で対応することは慎もう。我慢しようとするときに、怒りを計測する温度計の目盛が私たちの体の中で上昇し、そして暴力的に振舞う傾向になる。先生が大声を張り上げて生徒を叱るのを聞くことはまれなことではない。蹴ったり机や椅子を押ししたり、怒った勢いで周りにある物を投げつけたりすることもある。先生こそ自分の怒りをコントロールすることを学ぶべきかもしれない。怒りを発散させたり逆に我慢し内に秘めて押し殺したりする代わりに、先生が心を落ち着ける技術ともいうものを用いることだ、たとえば深呼吸する、怒りに遭遇した場面から静かに離れそして怒りの感情が落ち着いたときに戻ってくるとか。

生徒も同様に感情を適切に表現することを教わるとよい。クーリング・オフ法を学ぶべきである。これはまず「私は腹が立っている」と自分がどのように感じているかを文章にして、そして

その感情を変えることだ。例えば「彼女は多分私を傷つけるつもりはなかったはずで、そうだ彼女も何か困っているだろう」。また「落ち着いて、落ち着いて」のように、心を落ち着ける言葉を口に出すこと、「私は爆発しないだろう」と自分に言い聞かせる。怒りの蒸気が発せられたとき、生徒は〈Iメッセージ〉を使って自分の感情を表現すると良い。〈Iメッセージ〉は自分の気持ちや関心を伝える言葉だ。腹を立てて欲求不満な瞬間に人を罵るような言葉の代用品になるものである。例えば、約束の時間に遅れてグループのミーティングにクラスメートが現れたとき、「あなたは全く信頼できない。」と言う代わりに、「このプロジェクトで私たちが良い成績をとることができないかもしれないので、あなたが私たちのミーティングに遅れてくると私はがっかりだ。」ということができる。〈Iメッセージ〉で「私はがっかりしている」という感情を相手に伝えている。「私たちのミーティングにいつも遅れてくる」という行為に、私たちは反応しており、「このプロジェクトで成績を取ることができないかもしれない」とこう感じたことに理由を述べている。

先生として、優しい良い言葉を選ぶ。傷つけない方法で、痛みを伴うかもしれないが正しいことを言うことが可能である。ここでも〈Iメッセージ〉の考え方が役立つ。生徒を非難する代わりに、ある行為にどのように感じるのかに触れて伝える。例えば「だれかレシテーションをしているときに、みんなが私語をしているのを私は見るのは耐えられない」である。

さまざまな違いを認め受け入れる。平和的を好む教室では、生徒たちにとって居場所があり、受け入れられていると感じるものである。だから自分では手に負えない特徴に対して嘲笑われたり仲間はずれにされたりすることはない。一先生として、自分の価値判断をじっくり振り返るようにしなさい。あなたは女子生徒やガイの生徒を固定観念で見えていませんか。学習に遅れがちな生徒を差別して、成績の良い生徒にえいこひいきしていませんか。生徒を馬鹿にしてこき下ろすことは慎んで、そしていじめ行為を思いとどまるように生徒たちに気づかせてください。新入生に対して歓迎会などの活動を計画させてください。古顔の生徒に温かく受け入れる喜びを伝える歓迎の言葉の役を担わせてください。古株の生徒に新入生の生活指導上の面倒をみることを割り当て、新入生が困ったときに面倒を見てあげるようにしなさい。クラスの生徒に違いを認め合う大切さについて話してあげよう。皮膚の色が違うこと、髪の状態の違い、体の大きい小さい、ポケットにいくらお金を持っているかは、心の中で何を考えているかとは関係がないことを気づかせたい。人々は性差、精神力、着こなし、話し方で違いがあり、これらの違いから人をからかい、排除し、傷つけて良いという正当な理由にならないことを気づかせたい。ユーモアは教室で喜んで受け入れられるが、だれかを犠牲にするジョークを使ってはいけない。

競争を煽るような活動より協力を必要とするような活動をより利用しよう。協同的活動を行う

125 第13章 平和である学級を創り出す

ことで、教室はあるゴールを達成するために一緒に取り組むようになる。醜い競争は、対立を生じさせるような分断を生むことになる。一方、協同的な活動は、積極的な相互依存を推進し、生徒は想定したゴールにたどり着くために意思疎通と協働の技術を学ぶことができる。生徒は協同的な課題を与えられた場合に、一緒にその課題をどのように解決するかそしてメンバーの持つ異なった才能や出来ることや力を使ってお互いに助け合うことも学ぶ。

争いを平和理にそして前向きに解決する方法を生徒に教える。心が痛むような状況が起きたとき、それに積極的に反対する立場で行動をとる。対立の状況をじっくり眺める。問題解決法を利用する。生徒にはどのようにこの問題解決法を使うのか、そして建設的に対話したらいいのかを教える。効果的に対話するというのは非難し合っている者が、穏やかな言い方でお互いに話し合うことだと生徒に気づかせたい。ことばも（感情を表現する）しぐさも礼儀正しく優しくあるべきだ。もし彼らが心からお互いの意見に耳を傾けるならば、解決の糸口が見つかるはずだと生徒に気づかせたい。教室の中で平和なコーナーや学校の庭やグラウンドの落ち着ける場所をはっきりと示すようにしたい。その場所で生徒たちが彼らの関心事について話すことができるようにしたい。

以下に示す問いは、生徒の話し合いを導くであろう。

[話し合いを導く問い]

1. 何が起きたの。
2. 何を必要としている。
3. 可能な解決法は何があるのか。
4. どの解決法が一番良いのか。

1. What happened?	2. What do you need?
3. What possible solutions are there?	4. What solution is best?

生徒のコミュニケーション技術を磨かせること。教室で起きる様々なイザコザは、意思疎通がうまくいかないこと、思い違い、誤解が理由であることから生じている。生徒たちが話したことが正確に相手に受け取られていない、また私たちの行動が正しく受け取られていないときもある。意思疎通がうまく出来ていないことから生じている対立を避ける一つの方法は、生徒にどうしたら分かりやすく伝えられるか、どのように言い換えて話したらいいのかを教えることである。何か言われてそれで悩む場合に、メッセージを正しく受け取ったかどうかははっきりさせるために、例えば次のような尋ね方を教えるべきだ「あなたが言ったことをわたしが正しく理解したかどうか確認してもいいですか」とか「あなたは～と言いましたか」など。

人は時々よく考えずに口に出してしまう傾向がある。しっかり自分の頭で一度咀嚼もしないで、非建設的ないやな言葉を発してしまうことがある。人に対して不愉快な否定的な言葉を前向きな言い方に変えることを生徒に練習させるべきだ。この点については〈わたしメッセージ〉を使うことが役に立つだろう。

【不愉快な否定的な言い方を前向きな言い方に変える例】

- a. 静かにしなさい。
言いかえ：静かにしてください。
- b. あなたはイライラする。
言いかえ：～時に私は困る。
- c. うるさい。
言いかえ：どうか私のプライベートな瞬間（とき）を持たせてください。

わたしたちが用いる言葉は諸刃の剣です。だからどのように言ったよいか注意深く考えなければなりません。相手の気持ちを考慮して話す言葉を選ぶように生徒に教えてあげましょう。そのような言葉が教室内のいざこざを少なくするのに役立つのです。

平和を楽しむ教室は、生徒が安心して安全だと感じる場所でもあります。教室は自己責任の範囲内で、普段着の自分のままのびのびとできる場所です。教室はからかわれるのではないかとビクビク脅えるところではなく、仲間はずれにされたりせず、傷つけられたりすることもなく、人として成長できる場所です。もし平和で平穏の原則が教えられ、教室の中で一緒に息づいているなら、生徒がこれらの価値観や技能を他の場面で応用することは容易でしょう。平和を信望する先生も、新しい規範が平和的な社会を建設することに貢献できるのであれば、これを幸せと感ぜられるのではないのでしょうか。

第14章 平和教育における教授学習のアプローチと方略

Teaching-Learning Approaches and Strategies

in Peace Education

「何を」と同じぐらい「どのように」は大切です。そのために、平和教育の目標に合致した教え方・学び方のアプローチは、ホリスティックで、参加型、協同的で、経験主義的、人道的なものとなるでしょう。

ホリスティック教育は事実と概念というパラメーターで自身を規定していません。代わりに、認知的、情動的、行動的学習目標をすすめています。しばしば、学習の焦点は、概念の伝達です。平和教育では、目標は三つあります。第一は、現実に対する気づき、暴力の根本原因と結果、平和の根についての気づきをうながすことです。二番目は、関心と共感、同乗、希望と社会的責任という価値観を育てることです。ハリスとモリソン(2003)は、これを倫理的感覚の発達と呼んで、学習者が他者を気づかう能力の育成と位置づけています。三つ目は、個人的な思い込みや態度を変革し、暴力の状況に対して、何か具体的なことを章とする決意に始まる行動化への呼びかけです。

参加型教育は、学習者が、探究し、共有し、協同することを許すことを意味します。学習者が教師や他の学習者と対話することを許します。自分の主張を明確に話し、多様な観点からの意見に耳を傾けることは、視野を広げるための重要な訓練です。そのようなスキルは、多くの対立が、人びとが互いの言うことを聞く事を拒否しているために、未解決に終わっている世界にとって必要なものです。参加型学習においては、教師は、権威的な存在ではなく、むしろファシリテーターとして行動します。例え、それぞれの教師は、ある問題についてはっきりとして自分の意見を持っていようとも、彼らは生徒が、争点となっている問題についても何か行動しようとする前に、自分自身の味方・考え方をはっきりさせることを奨励します。(McGinnis, 1984) 参加型教育は、伝統的な教え込みスタイルからも距離をおくものです。学級における民主的なプロセスを遵守することは、民主的な市民性に必要な知識、スキル、態度の発達に貢献することでしょう。(Harris and Morrison, 2003)

協同学習というのは、参加者が共に作業し、学ぶ機会を提供するものです。協同学習は、学ぼうとする意欲を高めることとは別に、生徒の間関係性を向上させ、個人主義に挑戦し、孤立感や偏見の感覚を低めます。孤立感と疎外感を逆転させ、もっと前向きな態度を推進します。協同的な学級では、生徒は互いに頼ることを学び、学習活動の成功は、1人

ひとりの貢献によっていることを学ぶのです。(Harris and Morrison, 2003) わたしたちが直面する世界の多くの問題は、もしも、人びとが共同するならば、解決する事でしょう。もしも、生徒が学級で協同的なプロセスを体験すれば、そのような習慣は、彼らの関係性のさまざまな部分にも、持ち込んでいけることでしょう。

経験主義教育は、演繹的な方法ではなく、学級で行われたアクティビティから体験したことから自分自身で考えることを意味します。そのために、レクチャー、講義は最低限に留めます。学習者は、彼らの体験やアクティビティを通して、考え、そして、概念を形成するのです。教育心理学的では、このアプローチは、構成主義的アプローチに近いものです。構成主義的教師は、柔軟でもプロセス思考です。彼らは、変化する余地を残しています。構成主義的学級は、新しいパラダイムを発展させるスキルを持った人間を育てます。わたしたちの世界は、暴力と対立を生み出すシステムに対抗する、新しい考え方や、プロセスを必要としているのです。

カール・ロジャーズとアブラハム・マズローは、人道的な教育を推奨した人びとです。人道的な学級は、学習者の社会的個人的感性的な成長に強調を置きます。人道的な学校では、個人は、そのまま、受け入れられるのです。自分の自尊感情をすすめるような自己の感覚を育てます。すべての人は貴重で能力があるというメッセージを発信しています。

McGinnis(1984)は、「前向きな自己イメージ、概念なしで、「公の活動をする」あるいは「変化のために活動する」ことはありえない」と言います。彼は、わたしたちが自分に与えられた贈り物に気づけば気づくほど、わたしたちは他の人とシェア・分有・共有するようになると言います。人間的な学級において、教師は共感的であるし、肯定的である。彼らは、生徒の健やかさに関心と興味を示す。彼らは、学級で互いに対するケアと尊重を奨励します。彼らは、学級でも多様性に対するセンシティブティを激励します。そのようなアプローチは、学習者たちに、愛と共感の種を撒くでしょう。それは、平和的な社会を構築するために必要な価値観なのです。

上述のような平和教育のアプローチと比肩することができる教授学習方略はたくさんあります。いくつか紹介しておきましょう。

1. ディスカッション 議論する

小グループで議論する方略は、個人の参加者の声が聞かれるようにするための方法です。もっとも効果をあげるためには、ディスカッションは、事実に基づき、しっかりと考え抜かれたアイデアに基盤をおいてなされることです。

2. ペアで共有

パートナーのグループを作る方法です。ファシリテーターが議論のテーマを設定します。Aがそのことについて自分の考えを妨げられることなく、話し、Bは聞きます。しばらくして、パートナーの役割を後退します。後に、AはBが話した内容を学級全体にレポートし、またBはAの意見を報告します。これは、聴く姿勢を育てるよい練習になります。

3. 視覚化/想像力の演習

視覚化の練習は、参加者が彼らの想像力を活用することを助けます。彼らに、代替案、たとえば、対立の状況についての代替案を、考える力をつけます。

4. 視野を決める

この方法は、学習者が、他の人の背景を理解し、認識することができるようにします。これは問題解決のために使われるスキルです。これは「人の靴を履いてみる、そしてしばらく、それで歩いてみる」という実践です。この装置は、共感と寛容さを発達させるのに使われます。

5. 役割演技

この方法は、参加者が、状況を理性的に分析するよりも、むしろ、「感じる」機会を提供します。役割演技は、共感と、他の人がとらわれている立ち居値をよりよく理解することにつながります。また、認知的、完成的学習を育てることにともつながります。

6. シミュレーション・ゲーム

例えば、暴力の状況をシミュレーションすることは、学習者が平和が欠如している常会についてのより強い実感を持ち、正義の状況へと変換する代替案を提案するクリエイティビティを発揮できるようにします。一つの事例は、「地球の資源を共有する」における富の配分のシミュレーションがあります。

7. 問題解決

問題解決は、もっとも価値のある学習方法です。この方法は、人が、他の認知的スキル、

例えば分析する、代替案を創造する、代替案を評価するなどを使うことを可能にします。

8. 立ち位置を確認する、世論調査

このアクティビティは、参加者が、意見の対立が起こる問題、例えば「好き嫌いにかかわらず、戦争は未来も起こり続ける」というような命題に対するそれぞれのポジションを明確にするものです。少なくとも、「賛成、わからない、反対」の三つのポジションが必要です。

9. 行動化を奨励する

適切であると判断される場合は、参加者に解決方法や、ある行動をとることを表明することを求めましょう。それは、学習の応用にもなるのです。

10. 引用文を作る、読む

平和にかかわる引用文を、学習の最初あるいは最後に読むことは、学習者が、学んだ概念についてよりよく理解することを助けます。

11. 連想図を描く

「戦争」あるいは「平和」のような単語を、学習の最初に、まず黒板に書き、学習者から彼らがどのようなことを連想するかを書き出させるのは、彼らの思考を刺激します。これは、特定の平和に関連する概念についての議論のきっかけにもなるでしょう。

12. 映画や写真を使う

映画や写真を使うことは、学習者の心に鮮やかなイメージを作り出します。これらを視聴した後、含まれていたメッセージやそれに対する学習者の反応について議論することができます。

13. 個人的なものも含めて、ストーリーを語る

学習たちは、しばしば、わたしたちが共有したいと思っている概念を、わたしたちの逸話

131 第14章 平和教育における教授-学習法と方略

や物語りを通して、学びます。テーマに関わるあなたの個人的な体験談は、あなたの伝えたいことをより鮮明にしてくれるでしょう。そのような方略は、学習者とあなたのより個人的なつながりにも発展するでしょう。

14. 歌詞や詩を分析する

多くの歌や詩には、平和に関連するメッセージが含まれています。生徒にそれらを読ませたり、聞かせたりすること、お気に入りのフレーズを書き出すこと、メッセージを読み解くことは、あなたが伝えたい価値観を、もっとクリエイティブな方法で伝えることを助けることでしょう。

15. 文章完成法

学習者に、未完成な文章を完成させることは、あなたが、彼らの考えを知る上で役立ちます。この方略は、学習者から具体的な行動を引き出すために活用することも可能です。

16. ジャーナルを書く、個人的なふりかえりの時間を持つ

ひとつの学習セッションごとに、参加者に、いまの時間で議論した問題について、自分自身の考えや熟考、反応について考えることにつながる一つか二つの質問に答えてもらうようにします。

17. ゴーラウンド

1人ひとりの参加者の意見が、簡潔に求められます。

18. 教えるタイミング

その日の中心となる問題を議論する機会をつかむ事。学級内部の問題であるかもしれません。(ずっと続いている対立など)

19. インタビュー/調査

学習者たちは、第三のソースからの情報を求める機会を持ちます。生徒に、平和活動家な

どにインタビューするように求めます。インタビューは、他の人が、平和の文化をつくるのに、どんなことをしているのかを知る機会になります。

20. 専門家から学ぶ

学習者は、正義と平和の理念をすすめる事について触れます。第三者を活用することは、争点のあるトピックについては、もっとも助けになります。

21. 相互教授

生徒が交代交代にファシリテーターをつとめます。「聞いた事は忘れる、見た事は覚えている、行動したことは、理解する」教科を教えることで、生徒が、概念や価値観、スキルをよりよく理解する機会を提供しましょう。

22. ツインプロジェクト

生徒は、異なる地域の生徒と、e-mail や郵便で、もう1人の生徒と組んで、平和に関連するとピックを議論します。

23. 対話

生徒に、議論するのではなく、問題について会話する機会を与えます。ディベートにおいては、目標は、互いが間違っていることを証明することにあります。対話は、共通基盤を見出す機会なのです。

24. 視察旅行

生徒に不正義の犠牲者となった人に触れる機会を提供します。暴力の被害者を、見て、聞いて、出会うことは、学習者に共感と友情を育てるのに役立ちます。生徒に、行動を起こさせるのにも、出会いの機会の動機付けはつながります。

25. 地球儀や地図を使う

これらの道具を常に使うことで、学習者に、他の国には、心を配るべき人びとがいるのだということを意識化することに役立ちます。

26.ブレインストーミング

これは人びとが、たくさんのアイデアを、互いからのコメント抜きで、生徒たちから引き出すことで、創造的に考えることを手助けします。この方法は、多くの問題解決や代替案を作り出すのに、有用です。アイデアの評価はブレインストーミングが終わった後に行います。

27.引用を読む

平和運動家、宗教的指導者、先住民コミュニティのリーダー、哲学者などが平和について、知恵のある言葉やひらめきを語っています。生徒にこれらの引用について考えさせ、これらの理念が与えた影響について話してもらいます。

28.表やグラフを利用する

統計は、不正義の被害者が与えるほどの影響を与えません。しかし、統計は、学習者に社会における問題の巨大さと程度を教えてください。UNDPの年次報告である人間開発報告は、事実や数字を豊かに含んでいます。

29.ケース・スタディー

この方法は、生徒に、暴力あるいは不正義の現実的な状況を知る機会を与えます。ケース・スタディーは、状況について分析し、解決を導き出すための物語りあるいはシナリオを求めます。生徒は、問題解決者の位置にたたされ、問題の根っこに横たわっている問題、背景、関心などを理解します。

30.コラージュづくり

コラージュというのは、さまざまなところから集めた写真の集合体で、全体像を作り出すものです。生徒に、平和に関わる問題についてのコラージュを作らせ、問題の理解を助けてみましょう。

31. ショーアンドテル、見せてお話しする

この方法は、生徒に、学級で、概念を説明する時に、視覚的な補助を使って行うものです。それは、人に概念をうまく伝えることができれば、その人は、概念を理解するという前提にたつものです。

これらのアプローチや方法は、生徒の知性、姿勢、精神を育てるのに大切です。彼らが平和のために行動しようという意欲を育てるものです。どのアプローチや方法をとるかは、その授業の目標が考慮される必要があります。

後者を達成するのに、もっとも適切で有効な方略はどれでしょうか？

わたしたちが、ここで紹介したツールを使う時、ゴールを忘れないようにしましょう。わたしたちがやりたいことは、ホリスティックで、参加型で、協同的、経験的で人間的な学びをファシリテートしたいのだということです。

第15章 平和教育者の資質 Attributes of a Peace

Educator

「メディアはメッセージである」という言葉は、学校の環境で使われる場合は、わたしたちに、先生たちは子どもや若い人びとの人生を左右する力があるということを示します。生徒は、明示されたカリキュラム外の、非正規の、あるいは「隠された」レッスンをよく覚えているものです。それは、教室内や外での先生方の行動、価値観、態度からの学びなのです。いまや、わたしたちは、もっと効果的であるためには、伝達手段はメッセージと一致している必要があることを理解しています。

まさに、平和教育者は、彼らが手助けしようとしている若い人びとに、平和的な学級や学校で、つけたい資質とスキルのモデルでなければならないのです。これは、まず第一に、そしてもっとも大切なこととして、先生たちは、個人的な超形成の課題に取り組み、信頼のおける平和のメッセンジャーとなる必要があるということです。Lantieri and Patti (1996)は、わたしたちに、先生として、わたしたち自身が変わらなければ、学習者が変わることを期待することはできないと言います。例えば、若い人びとが自分たちの偏見に直面することを助けるのであれば、わたしたちは、わたしたち自身の偏見に直面する必要がありますし、わたしたちの否定的な態度を改める必要があります。

どのような資質、能力、スキルが、平和を教えるものとして、そして効果的な平和のメッセンジャーになるために、わたしたちは身につける必要があるのでしょうか。次の資質は、世界的によく知られた平和教育者であるBetty Reardon (2001)が呼び掛けているものです。

- 平和を教えるものは、責任ある地球市民であり、国際的な平和の文化の担い手であり、ビジョンを持ち、希望と前向きな変化を想像する力を持つ人です。教育は、建設的な変化のための手段であるべきことを理解している人です。
- 奉仕する動機付けを持ち、地域共同体に積極的に関わります。平和を教える人は、自分自身を社会に対して責任を果たしている人として見えています。
- 生涯学習者であり、自分自身の学習能力を向上させ、その分野で**abreast**であろうと努力を続ける人です。
- 文化の伝達者であり、超形成者でもあります。自分たちの伝統的な文化を超形成しつつ、先生は、クリティカルに、そして省察的に、社会と文化の超形成のための効果的な担い手であろうとする人です。

- 平和と共同体の感覚を育てる、相互に引き出し合う関係を作り出す人です。例えば、人間の尊厳と人権を尊重することが、先生と生徒の関係や学習プロセスのガイドラインとなることです。
- ジェンダーの問題に敏感で、自分自身や生徒のジェンダーバイアスの可能性に注意を払っていること。男性、女性の学習者が、自分自身について世局的なアイデンティティを持てるように、そしてジェンダーに対する敏感さと他者に対するジェンダー責任を身につけられるように手助けします。
- 平和を教える人は、建設的に批判的です。批判はしますが、害したり傷つけたりするためではなく、建設的な変化を確立するために行います。
- 平和を教える人は、意識的に、担当している学習者一人ひとりのことについて知ること、ケアする能力を高めようとします。これは、先生が生徒の学習スタイルの違いに前向きに反応することを可能にします。いずれにせよ、平和を教える人は、その他の人間の違いに対応することが求められているのです。ケアするスキルは、平和教育のプロセスに不可欠です。先生からのケアとサポートの行動は、生徒に、彼らが価値ある存在であることを知らせます。
- 探求者です。学習を阻害しているものは何か、平和の文化を達成するための可能性を広げる可能性はどこにあるかを、教授法的に自らに問いかけます。多くのテーマや平和教育の目標について探求することができるために、平和を教える人は、生徒自身からビジョンや考えを引き出し、自分自身の知識と想像力をより深く探り、新たな知識を求めるようにすることができるスキルを必要とします。先生は、答えを与えるのではなく、問いを発するのです。
- 教えたことから学び取られたことは何かを省察することから、生徒と彼らの学習プロセスについて、より理解を深めようとする学びのスキルを持っています。これには、次のような根本的な問いによって、自分自身の能力に対する省察と評価を行う力を含みます。わたしたちの教授学習の相互関係は、目的の達成に対してどれほど効果的であったか。わたしは、生徒が学習に満足し、意味を見出しているかどうかをどのように確認する指標をもっているだろうか。
- 平和を教える人は、コミュニケーションと対立の解決のスキルを持っています。これらは、コミュニティの形成と平和の構築に必須のスキルです。(これらのスキルについては、すでにこれまでの章で解説しています。)
- 協力して学ぶことを、協同学習的なタスクを与えることで奨励し、生徒間の否定的な競争や「仲間」「仲間はずれ」というような態度を取らないように指導します。
- 平和を教える人は、未来の、そして平和の文化の可能性の選択肢を理解するように想像力をかきたてます。生徒がそのような文化を達成することを手助けします。彼らの

問いは次のようなものになるでしょう。： わたしたちはどのような世界を望むのか。それを達成するために必要な変化は何か。超形式的なプロセスのために、わたしたちが負うべき特別な責任は難だろうか。

平和教育センターがここ数年フィリピンで行った教員養成のワークショップの中では、教員の参加者は、彼ら自身が平和教育者だと思う人の資質は何だと思うかを問いました。頻繁に出された資質は以下の通りです。：

- ・ 平和への熱意
- ・ 共感的、関心があり、やさしい
- ・ 配慮があり、奨励し、理解する
- ・ 他の人を尊重する
- ・ 穏やかで、脅さない
- ・ 公平で、えこひいきしない
- ・ 神を信じ、スピリチュアリティによって想像力をかき立てられている。
- ・ 権威の源であるよりも、学びのファシリテーターである。
- ・ 寛容さ、開かれた態度、他の人の考えを尊重する。
- ・ 学級内の多様性に対して感受性が高く、学習者らをそのまま受け入れる
- ・ 関連する個人的な物語りをみんなと共有する。
- ・ 考えを整理し、ふりかえりのための問いを出す。
- ・ 動機付けがあり、熱意があり、人を鼓舞する。
- ・ 絶望よりは、どちらかという希望を体現している。
- ・ 彼らが教えている行動や態度の模範である。

平和教育者の資質についてのこれまでの議論から、わたしたちは、平和教育の専門家であり、経験を積んだ平和教育者であったベティ・リアダンがあげたものと、道についたばかりのフィリピンの先生たちがあげたものとの間に、共通性が多くあることを指摘することができます。このことはわたしたちの背景が異なろうとも、平和教育者の属性を概念化するとき、わたしたちが共通してもっているものがあるということを示しています。

フィリピンの先生たちが、「神を信じていること」「自身のスピリチュアルな伝統に喚起された」をよくあげていることは、注目すべきことです。フィリピンの先生たちがあげた個人的な資質で特徴的なものがあります。これらの特性は、フィリピンの先生たちが生きている文化を示すものでしょう。多くの困難があるにも関わらず、フィリピンの先生たちは、神への信頼に基づいた希望にあふれた傾向があります。彼らは、また、互いの人間

関係も大切にしています。

わたしたちがこのテキストに含めた属性は、網羅的なものでも、定義的なものでもありません。他のグループがさらに深く平和、平和教育、平和教育者についての概念について考えにつれ、リストは育つものですし、育つことでしょう。

わたしたちが覚えておくべきことは、この章の最初で言ったように、わたしたちは、まずわたし自身の個人的な、内面的な超形成からとりかかる方がよいということです。わたしたちが平和教育者を際立たせるこれらの属性、能力、スキルを体現していくにつれ、わたしたちをモデルとして若い人びとが育つことを見出すでしょう。確かに、彼らの生活には、わたしたちからの影響以外のものもあるでしょう。そして、時には、先生が模範となるやり方がうまくいかない時もあると感じる時もあるでしょう。しかし、わたしたちが説くものを実践しないという見通しは、絶対にありえません。若い人びとは、統合し、信頼を寄せることができる先生を求めています。このことに対して、わたしたちは、ガンジーの次の言葉に同意せざるを得ないでしょう。「あなたが、この世界に見出したい変化そのものになりなさい。」

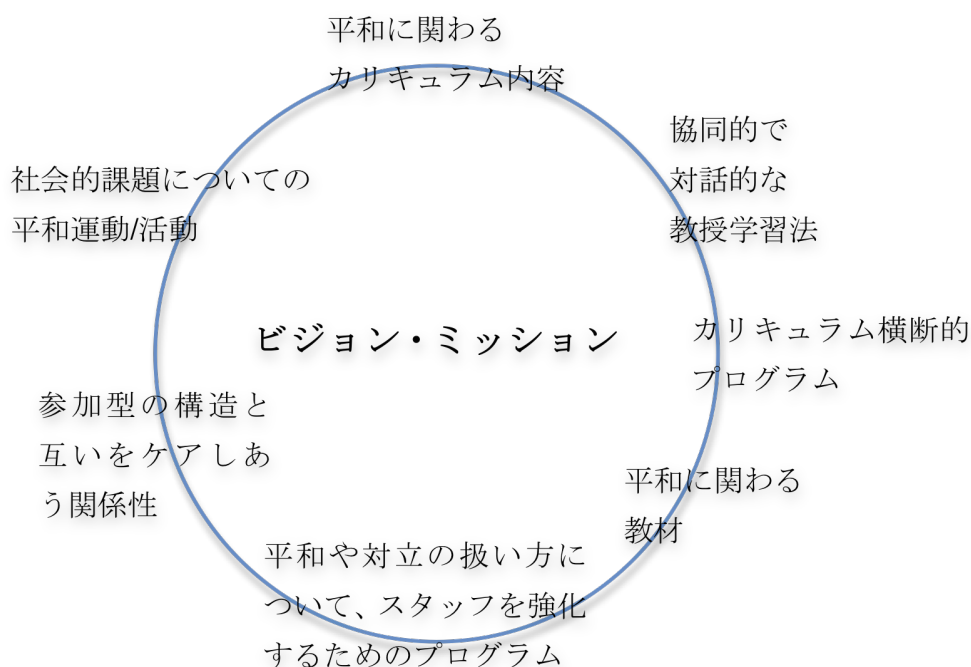
第 16 章 学校全体で取り組む

Whole School Approach

ここまでの章で、わたしたちは、先生とそれぞれの教室が平和の文化を築くことに貢献できることを議論してきました。ここでは、その取り組みを平和的な学校がどのように支援できるかに注目していきたいと思います。

平和の考え、視野と価値観を学校全体の生活あるいはその先にまで、もっと効果的に取り入れていくためには、「学校全体によるアプローチ」を採用することを提案します。学校全体で取り組むということは、すべての学習領域、すべての学校共同体のメンバー(生徒、管理職、教職員)が、そして、その人たちがかかわるより広い範囲の人びとを巻き込むように努力します。この取り組みは、教授法、生徒活動、運営方針、学校制度や関係性など、その他の学校生活の側面だけでなく、学校を取り巻く地域社会のための、そしてとともに取り組む社会活動を含みます。

図 16.1 学校全体アプローチを目標とする



学校全体で取り組むということは、とても重要です。なぜならば、首尾一貫した平和のメッセージや価値観が、学校や共同体の生活のそこここに表れているならば、それは、平和教育そのものの学習を活性化し、強化するからです。学校における社会的政治的経済的文脈は、学校のビジ

ョンやミッションに対して支持的ではないかもしれませんが。しかし、それこそが、まさしく、平和的な学校が問題にしなければならないことなのです。平和的な学校は「カウンターカルチャー」「対抗文化」として、支配的なパラダイムに対峙するものであり、必要な変革に取り組み活性化させることを引き受ける必要があるのです。確かに、これは長期的で骨の折れるプロセスですが、取り組む必要のあることなのです。

フィリピンの学校がどのように学校全体での取り組みを行っているかを描写させてください。図 16.1 は、ミリアム大学が方針を示すために使っているものです。1926 年にメリーノール・シスターによって始められたミリアム大学は、いまや幼稚園から大学院までの生徒を擁する、素人が経営している学問の府です。

ミリアム大学における平和教育

ミリアム大学のビジョン・ミッション声明文 VMS は、「正義にもとづく平和のために働き、人類の一体感に貢献していく人材」を開発するためということを表明しています。この学校の VMS は、目標に切り込むために平和教育を取り入れました。学校のモットーは「ミリアムは、平和と正義と環境のために」です。これはこの本の最初に述べている平和の包括的な定義を表しています。VMS のモットーは、学校の哲学を反映しているのです。それは愛の原則にしっかりと礎をおろし、それは正義へと想像力を開き、それはさらに平和に導いていくのです。この哲学は、人間の尊厳と母なる地球へのケアの尊重という原則に根付いたものでもあるのです。

1991 年に、学校共同体は、「平和のゾーン」になることを宣言しました。「平和のゾーン宣言」は、共同体は互いをケアする関係、協力、非暴力的な対立の解決、シンプルなライフスタイルや平和や社会的な関心のための活動を促進します。

ミリアム大学は、平和教育をもっと効果的に推進するためには、「学校全体の取り組み」を進めることであると、思っています。この、学校全体のアプローチは、機構的には三つの分野を含みます。組織のビジョン・ミッション・目標、教育内容と教育のプロセスや学校体験、表面的やヒドン、組織の中で動いている構造と関係性。

ミリアム大学は、学校生活のさまざまな分野で平和教育を推進することで繁栄してきました。

平和的なカリキュラムに向けた努力

平和の視点とテーマがカリキュラム全体に統合されている。

- ・特別な平和に焦点化したカリキュラムとテキストが第 7 年生の社会科の教科に使われている。
- ・3 単限の大学レベルのコース「平和研究入門」が、国際研究学部の必須主要コースとして、そして他学部の学生にとっては選択科目として提供されている。同様に、「平和、ジェンダー平等

と環境のための教育」というコースは、教育学部の必修主要コースである。

- ・平和研究の副専攻が学部生にも選択可能である。
- ・1単位のコース、MC101 と呼ばれるものが、学校で、平和、社会正義、ジェンダー平等、環境配慮などが、すべての学部生や大学院生によって実践されている。
- ・非暴力的な対立の解決のためのセッションが、標準的な高校、短大、成人教育のプログラムとして提供されている。

教授学習方法

・先生たち、特に上述のコースにたずさわる先生たちは、協同的、参加的、対話的、経験主義的な方法を使おうと努力しています。これらの方法は協同主義的学習アプローチ、省察と共有、想像力を刺激する演習、シミュレーションやロールプレイをした後でのふりかえり、映画あるいは記録映画をみてからの議論、外部の人へのインタビュー、対立の解決演習、物語りや音楽の活用を含みます。

コ・カリキュラムと学生の活動

学級外生徒活動は、平和の学習と実践になっている。パックス・クリスティ学生組織は、違った方法でこれらの活動をいきいきさせるのを助けてきました。これらで使われた平和の意識を高めるために使われた活動は、国際平和デー(9月21日)に実施された展示、「このクリスマスには戦争玩具は贈らない」というテーマでのポスター制作、平和のキルトと横断幕、野外展示「平和のための Pinwheels」、「宗教の間の平和のビジョン」および「銃による暴力と対決する」についてのミニワークショップ、平和を焦点にした聖餐式、あるいは簡便な聖餐式のサービス、歌祭り、ステージでの発表など。後者には大学生による「希望の種」と子ども研究センターの価値観を伝える年次劇の発表がある。

・ほとんどの学生がカソリックであるミリアム大学と、ムスリムの人に通うミンダナオの学校との姉妹提携は、双方の学生が互いを知り合い、何十年も積み重なった偏見のバリエーをつきくずすものであった。プロジェクトのテーマは「平和の橋をかけよう」で、2004年に始まった。活動に含まれるのは次のようなものである。手紙のやりとり、先生と生徒が参加する平和教育のトレーニング、新聞の協同発行と協力。ラジャ・ムダ高校がミリアムの学生に対してプレゼンテーションを行い、そのおかげで、大学生たちがミンダナオにおける対立の状況についての理解を深めることに役立った。そして、ミリアムの生徒、保護者、教職員は、彼らの活動を物質的に支えた。

平和に関連する教材とその他の素材

- ・平和と非暴力についての本、その他の素材が、大学図書館に特別なセクションを占めている。

そのためにこれらのコレクションに対して教職員も学生もアクセスしやすい。

- ・学校の出版物に平和と非暴力に関連したものがある。
- ・平和に焦点をあてた本、例えば「Tungo S Isang Mapayapang Mundo 平和的な世界に向けて」「対立の解決とピアメディエーション・ソースブック」などが、平和をテーマにした研究報告とともに出版されている。
- ・学校に「平和庭園」がある。大学のミニ森林公園にあり、平和についての理解を深められるようになっている。庭園は、平和のことわざを集め、それを自然岩の上におかれたプレートに書き付けている。イエス、アッシシの聖フランチェスコ、マハトマ・ガンジー、マザー・テレサなど。庭園には平和のポールもあり、国際的な平和のシンボルであり、世界に 10 万本、広がっている。

管理職と教職員のための強化活動

- ・平和教育、平和の精神、対立の解決、暴力への代替についてのセミナーや講演会が持たれてきた。
- ・学年の始まりの前に、平和教育についてのワークショップが、新任の教職員に対して実施されてきている。その他の職員に対しては短いオリエンテーションが実施される。
- ・平和のためのコアグループを、さまざまな部署からの代表で構成し、彼らがそれぞれの部署でのカタリストになれるように配慮する。彼らは、学外での成長の機会のために派遣される。例えばミンダナオ平和構築機構など。

参加型の構造および相互ケア関係

- ・学校はさまざまな機能を学校で発揮する際に、民主的なプロセスをとる。これらは、さまざまな目的の委員会へ各部署、学生、管理職からの代表を入れる。委員会は、方針を決定するものであり、他の人々から権限を委託されている。
- ・参加は、学校のリーダーの選択にも奨励される。共同体のメンバーは、誰であれ、管理職、スーパーバイザー、そして、理事会メンバーすら選ぶ。リーダーに立候補したい人は、それを表明することができる。
- ・対立が起こった場合は、対立を解決するための民主的なプロセスがある。(教員-学生調停委員会、苦情処理委員会など)
- ・コミュニティ感覚を育てるための機会を提供する。特別な日をお祝いしたり、コミュニティのふりかえりのセッションを学校の名称がかわったりなどの機会に提供する、開放性、協力、相互認知を奨励する。

社会的関心のための平和行動/活動

- ・平和構築は、物理的構造的暴力の否定だけではなく、暴力の被害者に、結果的にはなってしまう

いがちな弱者や貧しい人をエンパワーしたり、など、積極的な活動も実践している。そのために、大学は、外部の組織に協力しつつ、彼らの自立を促進するための活動を行う。ミリアム主導のリーチアウト・プログラムには、次のようなボランティアとして関わることができる。

- a. 非識字成人と学校にいない若者対象の学際的で職業的なプログラム。
- b. 公立学校の子どもたちに対する **catechetical ministry**
- c. 貧困状況にある母子のための教育セッション
- d. 障害のある人に対する強化セッション(マリーノール・シスターとの協力で実施)
- e. ミリアム・ボランティアのミッション・プログラムを海外、例えばタイやビルマの国境地帯で実施。

・学校コミュニティのメンバーは、**Institutional Network for Social Action** と **the Kilusan ng Miriam sa Kalamidad (Miriam's Movement to help calamity victims)**. を通じてボランティアに参加することを奨励される。

・彼らは、同時に、他の平和活動に参加することも奨励される。手紙を書く(例えば、メディアの暴力に対して)、デモに参加したり、ロビイングしたり、(例えば、平和のプロセスと停戦を支援する、死刑制度の廃止を訴える、銃規制の法律の制定を求める、銃のレプリカの製造と販売を禁止することを求める、など)、そして権威に対してポジションペーパーや請願を出す(日本の憲法 9 条の **retention** 堅持を求める、国家公務員の汚職をなくす、など。)

これらのことは、学校が、学校全体で取り組むためにどのような一歩を踏み出すことができるかを描写するものです。組織として、そして制度として、このような活動を支援することは、学校全体で取り組むために必須ですし、リーダーシップをとる人、協力する人の熱意は必要不可欠なものです。この取り組みのためにさまざまな準備と時間をかける必要があるでしょう。しかし、それに見合うだけの得られるものがあるのです。つまり、学校の文化が、平和的であるだけでなく、学校を含む社会全体で求められている変革を促進するような学校文化を促進するものでもあるのです。

結論： 未来へのビジョン A Vision for the Future

わたしたちの時代の主要なジレンマは、平和と暴力的な対立に関係しています。そのため、国連が、いまの 10 年を「世界の子どものための平和と非暴力の文化の 10 年」と宣言したことは、とても重要な意味を持っています。まさに、21 世紀に入った最初の 10 年は新たな始まりでなければなりません。

わたしたちが思い描くビジョンは、平和な 21 世紀であり、すべての人類と、母なる地球、そして宇宙全体にとってよい世紀となることです。

わたしたちが直面する課題は、広大ですが、わたしたちは時代のサインを正しく読み取ることが学ぶ必要があります。わたしたちは、否定的なサインばかりを読んでいては、絶望してしまいます。わたしたちが、平和と正義を推進する社会運動がさまざまな方法とレベルで増加しているなど、希望のサインも読み取ることが、大切です。これはわたしたちの自信を深め、わたしたち自身、ポジティブなビジョンに向かって貢献しようという決意を高めてくれるでしょう。

わたしたちは、**purposive** 意味ある目標に集中する必要がありますし、これらのゴールに向けて、エネルギーと関与を新たにしなければなりません。

わたしたちは、平和の文化を築くことは、今日および明日のための必要不可欠な目標であると提案します。人間と生態系の生存、生き残り **well-being** しあわせは、いまも、そして未来も、このことにかかっています。そのために、政府や地域、国際機関と、すべての人びとが、このビジョンに向けて協力することは、妥当なことなのです。

かわりに、平和の文化を築くことは、教育という、人びとの個人的そして社会的発達のコアとなるものを動員するが、必要なステップとなります。わたしたちは、平和教育をもっと、意図的でシステムティックなやり方で、フォーマルな教育システムおよびその他の学びの環境に組み込んでいく必要があります。

未来に、希望と想像力と熱意をもって、新しい文化、平和的な新しい文化が開花する事を阻む、わたしたちの古い考え方や、やり方を手放して、未来を迎えましょう。平和のために教育し、行動し、わたしたちの未来が、わたしたちが求める約束を実現するものとしていきましょう。

著者について

Loreta Navarro-Castro

ロレッタ・カストロは、フィリピン、ケソン市のミリアム大学平和教育センターのセンター長である。彼女はミリアム大学の国際研究学部と教育学部のそれぞれで平和研究と平和教育を教えている。

彼女は、当時はメリーノール短大と呼ばれていた同大学で、教育と歴史を専攻し、学士号を取得 **Cum laude honors** を授与され、フィリピン大学の社会研究教育において修士号と博士号を取得した。彼女は、2005年にノーベル平和賞にノミネートされた 1000人の女性に選ばれた 27人のフィリピン女性の1人である。

彼女は地域の平和教育ネットワークのコーディネーターであり、平和教育のためのグローバル・キャンペーン国際アドバイザー委員会と、武装対立の帽子のためのグローバル・パートナーシップにおける平和教育リファレンスグループの一員である。彼女は、国際平和のクリスチャンの副代表である。

Jasmin Nario-Galace

ジャスミン・ナリオ-ガレイスは、ミリアム大学の平和教育センターの副センター長である。彼女もまた、同大学の国際研究学部と子どもの発達と教育学部の教授である。

彼女はメリーノール大学の国際研究学部で学士号を取得した。米国インディアナ州のノートルダム大学で平和研究の修士号を取得、フィリピンのデリマンにあるフィリピン大学教育学部で教育心理学の博士号を取得した。

彼女は、フィリピン・小火器アクション・ネットワークの実行委員および **Sulong CARHRIHL** という、政府のコンプライアンスをモニターする第三者ネットワークの実行委員、ならびに人権と国際的な人権法の尊重を進める全フィリピン民主フロントの実行委員でもある。